

舟橋村埋蔵文化財調査報告書 2

主要地方道立山水橋線道路改良事業に伴う発掘調査報告書

富山県舟橋村

浦田遺跡
発掘調査報告書

1998年3月

序

舟橋村は、県東部・富山平野のほぼ中央にあって、緑豊かで住みよい文化的な都市近郊農村を目指しています。近年は、人口増施策により、村外からの居住者が増えつつあります。

今回、主要地方道立山水橋線道路改良事業にあたって、発掘調査を平成9年4月から11月にかけて実施いたしました。

そこから、原始から近世にかけての遺跡が発掘され、村の古代史を知る上で、貴重な資料が発見されました。

おわりに、調査実施及び報告書の刊行にあたり、富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係者各位にご援助・ご協力をいただきました。衷心より感謝申し上げます。

平成10年3月

舟橋村教育委員会

教育長 藤塚 孝雄

例　　言

1. 本書は、富山県舟橋村舟橋地内に所在し、主要地方道立山水橋線道路改良事業に伴う浦田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書で扱う調査地区は、富山県埋蔵文化財センターが平成9年4月から同年10月にかけて発掘調査を実施した。
3. 浦田遺跡は、富山県立山町と舟橋村にまたがる遺跡である。
4. 浦田遺跡の読み方は、「うらた」である。遺跡略号は、「HHTU」である。
5. 浦田遺跡の遺跡番号は、立山町323030で、舟橋村321005である。
6. 本書で扱う調査地区は、遺跡の北西端部分である。
7. 調査は、主要地方道立山水橋線道路改良事業に伴う発掘調査であるため、工事主体者からの依頼により、舟橋村教育委員会が調査主体となった。
8. 舟橋村教育委員会の依頼により、富山県教育委員会・富山県埋蔵文化財センターが調査員を派遣した。
9. 遺物整理作業は、調査中から実施し、現地調査終了後は、富山県埋蔵文化財センターで行った。
10. 調査面積は、1,200m²である。
11. 調査期間は、平成9年4月20日から同年10月2日までの実働84日間である。
12. 担当者は、富山県埋蔵文化財センター調査課主任橋本正春・同課主任斎藤隆・同課主事源田孝である。
13. 遺跡所在地は、舟橋村舟橋字東中田891ほかである。
14. 現地調査にあたっては、滑川市・大山町シルバー人材センター他の協力を得た。
15. 本書作成は、橋木・齊藤が行い、下記の諸氏の貴重な指導と助言を頂いた。記して謝意を表します。
　　麻柄一志・藤田富士次・高慶孝・三鍋秀典・古井亮
16. 発掘調査と本書作成の中で、基準杭打設・遺構と遺物の撮影と実測の一部・航空写真測量・資料分析・遺物保存処理とX線撮影などは、舟橋村が発注し、アジア航測・日本テクニカル・エイティック・陽光堂・パリノサーサイ・元興寺文化財研究所が担当した。
17. 本書の中では、方位は真北を、高さは標高を用い、縮尺は図版下に表示した。
18. 遺跡座標X70Y30の国家座標値は、第VII系X77320Y13560である。
19. 遺跡座標のX軸は、真北である。
20. 上層の色名は、日本土壤学会刊行「標準上色板」に基づいている。
21. 遺構は、通し番号とし、次年度以後にも使える事とした。
22. 平成9年度調査の記録資料及び遺物などは、富山県埋蔵文化財センターが保管する。

目 次

例 言

目 次

1 位置と調査の経緯等.....	1
1 遺跡の位置.....	1
2 調査の経過と経緯.....	1
2 調査の結果.....	2
1 遺構.....	3
2 遺物.....	3
3 まとめ.....	4
4 附章：浦田遺跡試掘結果報告.....	4
5 参考文献.....	4
分析結果.....	7
浦田遺跡 自然科学分析報告.....	7
浦田遺跡出土 樹種鑑定報告.....	19
参考 塚越Ⅰ 遺跡出土漆付着鉄製品分析報告（平成8年度調査）.....	23
付 中性了ラジオグラフィ分析報告.....	31

図版目次

第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/25,000).....	42	第13図 遺構平面図3 (1/100).....	54
第2図 調査区位置図.....	43	第14図 遺構平面図4 (1/100).....	55
第3図 調査区割図.....	44	第15図 遺構平面図5 (1/100).....	56
第4図 調査区及び試掘位置図.....	45	第16図 遺構平面図6 (1/100).....	57
第5図 遺構概略図(約1/600).....	46	第17図 遺構平面図7 (1/100).....	58
第6図 遺構実測図 (1/80).....	47	第18図 遺跡と周辺の石仏他位置図 (約1/2,000).....	59
第7図 遺物出土状況1.....	48	第19図 舟橋村内の主な字名：参考図 (城・寺・人名などの付く所と沼の付所)	60
第8図 遺物出土状況2.....	49	第20図 舟橋村内の字図：参考図.....	61
第9図 土層断面図 (1/200).....	50	第21図 参考図 遺跡位置と旧地名.....	62
第10図 植物遺存体出土状況 (1/100) (遺物1/20).....	51	第22図 参考図 人名他の付く字位置.....	63
第11図 遺構平面図1 (1/100).....	52	第23図 参考図 竹内館周辺字図.....	64
第12図 遺構平面図2 (1/100).....	53	第24図 参考図 仏生寺城周辺字図.....	65

表目次

表1 浦田遺跡県道地区遺構一覧表.....	33	表4 浦田遺跡県道地区胎土・漆分析一覧表.....	38
表2 浦田遺跡県道地区出土遺物一覧表.....	34	表5 浦田遺跡県道地区植物遺存体表.....	38
表3 浦田遺跡県道地区金属製品一覧表.....	38		

1 位置と調査の経緯等

1 遺跡の位置

位置

舟橋村は、富山県の東部で、富山平野のはば中央に位置し、北は富山市・西南は立山町・東は上市町に挟まれた県内で最小の自治体である。東北部には、白岩川が北流する。海拔は、12M前後と平坦である。

村内の遺跡

遺跡は、村の中央部東端の舟橋地区に所在する。浦田遺跡は、立山町とにまたがる遺跡である。

今回の調査地区は、遺跡の北にあたり、遺跡南側大部分が立山町に属する。他に村内の遺跡は、16遺跡があり、なかでも弥生時代から続く小平遺跡や古墳時代の竹内天神堂古墳や仏生寺城跡などが知られている。

村内の遺跡の・歴史的景観・旧字名などは、塙越Ⅰ遺跡調査報告書（橋本1997）で触れているので、参照願いたい。

2 調査の経過と経緯

経過

本書で扱う浦田遺跡の平成9年度調査の原因となった県道部分を含む団地造成は、平成2年度頃から計画され、平成5年度には団地造成計画が策定されていた。この時点での埋蔵文化財の有無について事前の調査がなされていないため、その後の平成6年度になり、開発申請などが出了された段階で、造成地内に浦田遺跡が所在することが判明した。

そこで、その旨を回答し、村教育委員会に開発担当課と協議することとしたが、報告もないまま、また、記録保存調査の見通しもなく村議会で開発計画を議決した。その後、平成7年度に試掘調査を実施し、その結果を踏まえ、計画見直しの協議をするとした。

村教委に専門職員がないため、村教委の依頼を受けて富山県埋蔵文化財センター企画調整課が平成7年6月に試掘調査を実施した結果、弥生時代から古代にかけての集落跡であることが判明した。さらに、記録保存調査を行うとなると多大な費用と調査件数がかかることと計画の見直しを含めて、村教委に報告し協議を行った。

その後、平成8年度になり、工事を計画通り実施することとなり、記録保存調査のための一帯の表土耕土を富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所が行った。

平成9年度になり、団地造成計画と同時に県道改良工事を実施するとなつたため、団地部分の調査面積から県道部分の調査区面積を少なくて、春から調査に着手することとした。

立山町の既往調査

浦田遺跡の調査は、昭和61・62年に町教委により試掘調査と本調査がなされており、弥生時代から古代にかけての造構と遺物多数が確認されており、報告書が刊行されている（町教委1987・1988）。なお、両年の調査区は、今回調査対象地に隣接しており、非常に参考となる。

試掘調査

試掘調査は、平成7年5月23日に、調査対象面積1,820m²、調査面積は50m²で行った。調査主体は村教委で、富山県埋蔵文化財センター企画調整課が調査を担当した。その結果、弥生時代から中世にかけての遺構と遺物を検出した。そして、計画地の南側を記録保存調査の対象とした。それを受け、平成9年度に記録保存調査を実施することとし、4月から着手した。

平成9年度調査

調査は、平成9年度早々に着手することとなっていたため、4月初めから着手についての打ち合わせを行い、月半ばまでに現地確認などを終了し、4月18日から県道部分の発掘調査を実施した。調査主体は村教委で、村教委に専門職員がないため、富山県埋蔵文化財センターから調査員を派遣した。

調査は、対象地区内を流れる用水を境に北と南の2地区に分かれ、それぞれ県道1地区(北地区)・県道2地区(南地区)とする(以下1地区・2地区と略す)。そこで、工事側の要望により工事を急ぐ北側を県道1調査区とし、年度前半に取り組むこととした。面積は、950m²である。また、南側は、県道2地区とし、年度後半に行うこととし、面積は250m²で、県道地区的調査合計面積は1,200m²である。

1地区の調査は、4月18日から盛土の除去などをした後、人力による包含層発掘にとりかかった。7月頃からは、遺構検出をだし、その後造構掘を始め、8月初めまでに記録・図化・写真撮影と航空写真測量などを実施して、8月7日に1地区の調査を終了した。

2地区の調査は、県道1地区的調査後から準備にかかり、8月後半から包含層発掘にかかった。当地区は、東西に向かうに従って、深くなるため、二段の階段掘とした。また、深くなつたため、自然の湧水があちこちから出だした。深さと湧水などの自然条件から植物などの遺存状況が良くなつたため、5地点で、樹根を検出した。また、上層の一部を分析することとした。遺構検出などを行った後、1地区と同様に記録などを行って、10月2日に現地調査は終了した。

そしてその後は、遺物整理・報告書作成にかかった。

ところで、1・2地区を分けた用水部分については、工事側が用水の迂回計画などを提示しないため、未調査となっている。

2 調査の結果

調査は、1・2の二地区に分かれて調査したが、ここでは、一括して扱う。

調査の結果古代から中・近世にかけての溝・穴などが検出された。

なお、今回の調査地区は、東側に次年度以降調査予定の未調査区が存在し、遺構などは東に伸びているため、概略記述とし、工事計画予定地全体の調査が終わった時点で再度詳細な記述と内容把握を行う予定とする。

遺構は、1地区に多く、東西方向の溝と柱穴状の穴が検出された、遺物は、ほとんどが包含層出土である。

基本土層は、1層:茶褐色・耕作土・表土で20~30CM、2層:褐灰色シルト・遺物包含層で20~30CM、3層:黒灰色シルト・遺物包含層で20~30CM、4層:黄褐色砂質土・黄褐色粘質土・地山である。地山層である4層黄褐色粘質土は、ほぼ今地域で見られたが、南側調査区では、水分が豊富であったためか、灰白色粘質土となつており、地点によっては土層が多少変化しているため、1・2地区の土層を図示した。

遺物は、地区全体から出土し、遺物整理箱で約80箱が出土した。

1 遺構

遺構は、71個が検出されており、北側1地区67個・南側2地区4個で、1地区は溝20条・土坑11個・穴40個である。2地区では、溝2条と土坑2個がある。溝は、幅が広く人きなものが1条1地区中央部で検出された。先土器・縄文・弥生・古墳時代に属する明確な遺構は、今回の調査では検出されなかった。また、遺構は周囲に伸びており、ごく一部を調査したにすぎないため、ここでは概略を記すだけとし、次年度以降に全体が把握された時点での遺構の時期と性格を解明したい。そこで、表なども時期については記していない。

(I) 古代から中世

溝SD 溝は、大小あわせて22条が検出され、調査区の周囲に伸びている。SD15は、北側1地区で検出され、幅4.0Mの大きくなじみ溝であり、最下面是15A・15B・15Cの3条に分かれ、赤石・須恵器壺・杯身・杯蓋・土師器壺・壺、珠洲搖鉢・越前壺、陶器が出土している。SD1などは、北側1地区南にあり、幅0.3M前後の細長い溝で、SD1からは土師器壺、SD3からは土師器壺・珠洲搖鉢・陶器が出土した。SD70は、南側2地区にあり、自然の谷地形に近い。幅は3～5Mあり、自然木トネリコ・ケンボナシが自生していた。

溝の時期については、須恵器や七面器だけが出土しているものは古代の可能性があり、珠洲や陶器なども出土しているものは中世から近世にかけての可能性がある。

土坑SK・柱穴状穴SP 土坑と柱穴状穴は、北側1地区で多く検出され、SK5からは炭化物が、P47からは土師器壺が、P65からは赤生式土器?・炭化物が出土している。南側2地区では、SK71からは自然木トネリコが検出された。

2 遺物

遺物は、遺構と同じく東側が未調査区として残っているため、ここでは概要と主なものを記す事とし、詳細は未調査区全体が調査されたときに譲る。

先土器時代の可能性のある遺物としては、岡版14・15の22のナイフ状石器などであるが、今後の調査結果を待つてから時期比定したい。縄文時代の遺物には、土器と石器があり、中期頃が主体となろう。土器では、縄文地文などがあり、石器では打製・磨製石斧などがあり、土製品では岡版19の52の円盤形で穴を空けようとしているものもある。弥生時代の遺物としては、岡版16～19の中期から後期にかけての土器があり、天王山系土器を含む。古墳時代の遺物では、岡版18～19の土器があり、古墳時代初頭の高杯・壺・壺などがある。古墳時代から古代にかけての遺物としては、岡版20～27の土師器・須恵器がある。土師器では、壺類が多く平安時代を中心となろう。須恵器では、杯身・杯蓋・壺・壺などがあり、一部に6世紀代の内面にかえりのある杯蓋もあるが土師器同様となろう。

岡版34の15～17は、表4で示した胎土分析を実施した土器で、分析結果は次年度以降に示す。中世から近世の遺物は岡版26～34で、珠洲・越前・土師器土器・陶器などの土器と砥石などの石器と古錢などの金属製品などがある。珠洲では、壺・壺・搖鉢などがあり、岡版28・29の28の珠洲壺には刻印がある。岡版32・33の30は、鳥の形のした笛である。金属製品では、刀子・釘・キセルがあり、古錢では寛永通宝がある。その他として、所属時期不明の遺物がある。所属時期不明の遺物として、分析結果に示した自然木がある。これらは、遺構内出土のものもあるが遺構と同時期と考えるより自然に自生していたものと推測され、現時点では時期不明である。岡版34の7～10は、炭化物(炭)で、11・12は動物などの骨で、13・14はモモの核である。

3 まとめ

遺構は、溝と土坑が検出され、北西・南東方向に伸び、調査区の西と東側の未調査区側に続く。

遺物は、古代以前のものが多く、特に南側2地区でその傾向が顕著であった。隣接地区を次年度以降に調査する場合には、包含層を水洗し、微細な遺物を検出することも考慮すべきであろう。

植物遺存体などから判明した事柄では、両側2地区は、水が湛えられていた状況が推測でき、その水辺で植物が自生していたと想定できる。また、トキリコなどは、斧の柄としての利用価値のある木で、縄文時代頃に自生していたとすればそれを活用していたと推測できる。

浦田遺跡全体のまとめとして、一部地域の調査からの推測では、古代以前の活動の痕跡が顕著であり、今後住居の跡が検出される可能性が高い。

参考として、隣接する遺跡として、平成8年度調査塚越I遺跡出土漆付着鉄製品の分析結果を載せたが、そこから判明した事実と奈良国立博物館及び奈良国立文化財研究所の指摘によれば、漆付着鉄製品は古代の籠の可能性があり、貴重なものであると判明し、古代新川郡内の歴史の一部がより鮮明になった。

また、平成8年度刊行の塚越I遺跡発掘調査報告書内（稿本1997）であまり触れられなかった字名などについても詳細な図面などを付した。

注1 古井亮一氏の教示・指摘による

注2 奈良国立博物館井口嘉晴考古室長・松浦正昭奈良国立博物館仏教美術研究室長、工業普通奈良国立文化財センター長他の教示・指摘による。なお、現時点では、古代仏像の一部の可能性もあるが、继续して調査がなされており、結論は、出ていない。

4 附章

浦田遺跡における立会調査について

この調査の原因は、協議の過程で緑地保護とした地区における道路消雪装置用井戸の掘削工事である。調査は、舟橋村教育委員会を主体とし、富山県埋蔵文化財センター職員の立会のもと、平成9年5月7日に実施した。対象面積は、井戸掘削工事及びボーリング機械装置における影響範囲を対象とし、約4m²を測る。

検出した遺構は、北西方向に延びる溝状遺構の西側肩部を検出したが、幅等は不明である。遺物は、自然木が清潔土より出土したが、人工遺物は、出土していない。
(高橋真実)

5 参考文献

富山県 1976 『富山県史 通史編1 原始・古代』

富山県 1972 『富山県史 考古編』

富山県教育委員会 1986 『昭和60年度 富山県埋蔵文化財調査一覧』

富山県教育委員会 1987 『昭和61年度 富山県埋蔵文化財調査一覧』

富山県教育委員会 1988 『昭和62年度 富山県埋蔵文化財調査一覧』

富山県埋蔵文化財センター 1993 『富山県埋蔵文化財センター年報 平成4年度』

富山県埋蔵文化財センター 1994 『富山県埋蔵文化財センター年報 平成5年度』

- 富山県埋蔵文化財センター 1995 『富山県埋蔵文化財センター年報 平成6年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 1996 『富山県埋蔵文化財センター年報 平成7年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 1997 『富山県埋蔵文化財センター年報 平成8年度』
- 富山県埋蔵文化財センター 1994 『富山県埋蔵文化財包蔵地図』
- 立山町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1988A
『立山町文化財調査報告書第5冊 立山町埋蔵文化財分布調査報告Ⅲ 1987年度』
- 立山町教育委員会・立山町埋蔵文化財分布調査団 1988B 『立山町遺跡地図 平成6年3月31日現在』
- 立山町教育委員会 1987 『立山町辺遺跡・浦田遺跡発掘調査概要』
- 立山町教育委員会 1988 『立山町浦田遺跡第2次発掘調査概要』
- 立山町教育委員会 1994 『横沢I遺跡発掘調査報告』
- 立山町教育委員会 1977 『立山町史 上巻』
- 立山町教育委員会 1984 『立山町史 下・別冊』
- 立山町教育委員会・立山町文化財保護調査委員会 1971 『立山町利田横枕遺跡予備調査報告書』『立山の文化第22号』
- 石原与作 1956 『白岩川中流域の歴史的事実一弓庄・寺田郷の研究一』
- 橋本正春・齊藤 隆 1997 『舟橋村埋蔵文化財調査報告書1 富山県舟橋村塚越I遺跡第3・4次発掘調査報告書』
- 橋本正春・齊藤 隆 1998 『舟橋村埋蔵文化財調査報告書3 富山県舟橋村浦田遺跡発掘調査報告書』

富山県舟橋村
浦田遺跡 自然科学分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

浦田遺跡の自然科学分析

<目 次>

はじめ	11
1. 試料	11
2. 方法	11
(1) 花粉分析		
(2) 植物珪酸体分析		
(3) 種実同定		
3. 結果	12
(1) 花粉分析		
(2) 植物珪酸体		
(3) 種実同定		
4. 考察	13
参考文献	15

<図表一覧>

表 1	花粉分析結果
表 2	植物珪酸体分析結果
図 1	花粉化石組成
図 2	植物珪酸体組成

<図版一覧>

図版 1	花粉
図版 2	植物珪酸体・種実

浦田遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

浦田遺跡は、常願寺川扇状地の扇端部に位置する。本遺跡の2層は植物遺体を含む層であるが、堆積時期は現時点では不明である。今回は、2層の時代観ならびに古植生に関する情報を得るために、花粉分析、植物珪酸体分析、種実同定を行う。特に栽培植物に着目し、2層が水田層の可能性があるか否かについても検討する。

1. 試料

試料は、基本上層の2層から採取された試料1点である。2層は、黒褐色の比較的分解が進んだ草本質の泥炭層である。

2. 方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数、草木花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉を除いたものを基準とした百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

(2) 植物珪酸体分析

試料約5gについて、過酸化水素水と塩酸による有機物と鉄分の除去、超音波処理（80W、250KHz、1分間）による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタンクスチレン酸ナトリウム（比重2.5）による重液分離を順に行い、物理・化学処理で植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。その後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。検鏡は光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するイネ科植物の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞に由来する植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、同定・計数する。なお、同定には、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にした。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と個数を一覧表で示す。また、各種類の出現傾向から、生育していたイネ科植物を検討するために、植物珪酸体組成図を作成する。出現率は、短細胞珪

酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基數として、百分率で算出する。

(3) 種実同定

土壤試料約200ccに数%の水酸化ナトリウム水溶液を加えて放置し、試料を泥化させる。0.5mmの篩を通して水洗し、残渣を集める。双眼実体顕微鏡下で観察し、種実遺体を抽出、同定する。同定された種実遺体は、種類ごとに瓶に入れ、ホウ酸・ホウ砂水溶液中に保存する。

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を表1・図1に示す。木本花粉の割合が高く、特にスギ属が非常に多い。他にマツ属、コナラ亜属、イネ科、カヤツリグサ科などが検出されるが、いずれも数は少ない。

(2) 植物珪酸体

結果を表2、図2に示す。保存状態が良好な植物珪酸体が検出される。

栽培植物のイネ属は、全く認められない。検出される種類はタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などであり、この中では極端にヨシ属の産出が目立つ。

(3) 種実同定

以下に、検出された種類の形態的特徴を示す。

・タデ属 (*Polygonum* sp.)

果実が1個検出された。3稜があり、大きさは3mm程度。表面は薄くて堅く、光沢がある。

・ホタルイ属 (*Scirpus* sp.) カヤツリグサ科

果実が11個検出された。黒色。堅く光沢がある。大きさは2mm程度。偏平で背面が高く稜になっている。腹面は平らである。平凸レンズ状の広倒卵形。先端部はとがり、基部はせばまって「へそ」がある。表面には細かい凹凸があり、横軸方向に平行な横しわがあるように見える。

・カヤツリグサ科 (*Cyperaceae* sp.)

果実が7個検出された。褐色。橢円形で偏平。大きさは2mm程度。表面は薄くて柔らかく、

表1 花粉分析結果

種類	試料番号	2層東壁
木本花粉		
モミ属	1	
ツガ属	1	
マツ属	8	
コウヤマキ属	2	
スギ属	203	
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	5	
ヤナギ属	1	
クルミ属	2	
カバノキ属	1	
ハンノキ属	5	
ブナ属	6	
コナラ属コナラ亜属	8	
コナラ属アカガシ亜属	8	
クリ属	2	
ニレ属-ケヤキ属	4	
カエデ属	1	
ウコギ科	1	
草本花粉		
イネ科	13	
カヤツリグサ科	23	
ギシギシ属	1	
ヨモギ属	8	
他のキク亜科	3	
タンポポ亜科	1	
不明花粉	1	
他のシダ類胞子	180	
合計		
木本花粉	259	
草本花粉	49	
不明花粉	1	
シダ類胞子	180	
総計(不明を除く)	488	

弾力がある。先端部がやや劣る。

4. 考察

今回検出された種類構成をみると、植物珪酸体ではヨシ属、種実遺体ではホタルイ属が多い。泥炭が草本質で、ヨシ属やホタルイ属が多いことから、2層の堆積時には湿地のような水域であったと考えられ、ヨシ属やホタルイ属などの湿地性の植物が母材となって泥炭層が作られたと推定される。本遺跡が立地する常願寺川扇状地の末端は、湧水地帯となっている（藤井、1992a）。このことから、湧水によって湿地化した可能性がある。付近には「泉」など水に関する地名が残されていることから、湧水に涵養される湿地が他にも存在していたことが考えられる。

このような湧水帶には、かってスギサワと呼ばれる森林地帯が広がっていたと考えられており、黒部川扇状地の扇端にある入善町の「杉沢の沢杉」が天然記念物として保存されている（藤井、1992a）。また、これまで富山湾で発見された埋没林の中にも、魚津や四方沖のものにスギが発見されている（藤井、1992b）。今回スギ属の花粉化石が非常に多いのは、入善町の湧水帶にみられるスギ林が存在していたためとみられる。

ところで、上市町の江上遺跡群は扇端部の湧水帶に立地する遺跡で、本遺跡と距離的にも近く、立地がよく似ている。これらの遺跡からは、栽培植物の種実遺体が数多く検出されている。江上A遺跡では弥生時代の地層からアサ、モモ、アズキ類、マクワウリ、ヒョウタン、イネが検出されている。一方、江上B遺跡では、中世の地層からこれらに加えてソバ属、ウメ、アズキ、スイカ、トウガラシ、ムギ類などが検出されている（粉川・吉井、1984）。今回栽培植物に由来する化石が全く検出されなかったことから、堆積物の時代が縄文時代以前の可能性もある。堆積物の時代観については、今後泥炭の放射性年代測定を行うとともに、周辺遺跡でも同様の自然科学的分析調査を行い、検証を進めたい。

表2 植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	2層東壁
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亞科		2
ヨシ属		221
ウシクサ族スキ属		9
イチゴツナギ亞科		7
不明キビ型		11
不明ヒゲシバ型		3
不明ダンチク型		2
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
ヨシ属		102
ウシクサ族		5
不明		14
合計		
イネ科葉部短細胞珪酸体		255
イネ科葉身機動細胞珪酸体		121
総計		376

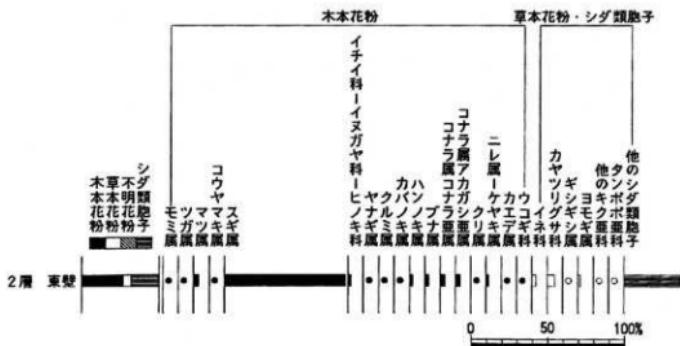


図1 花粉化石組成
出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基準として百分率で示した。なお、○●は1%未満の試料について検出した種類を示す。

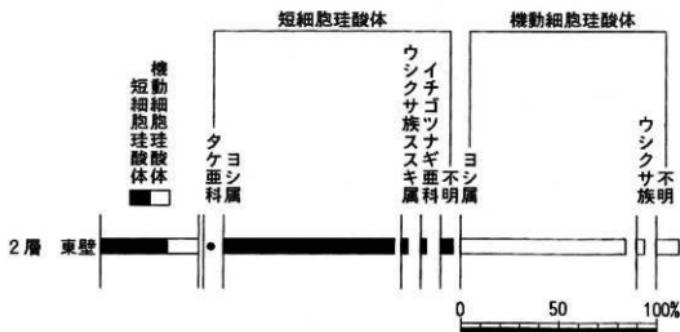
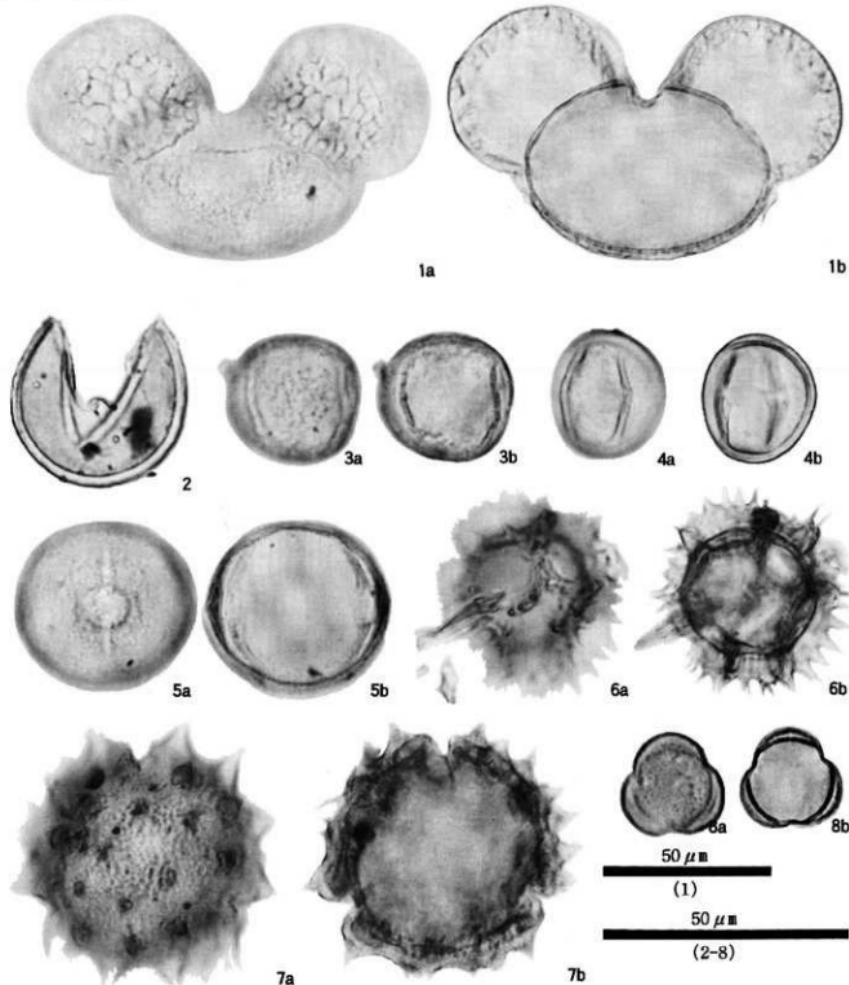


図2 植物珪酸体組成
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基準として百分率で算出した。なお、●は1%未満の種類を示す。

参考文献

- 藤井昭二 (1992a) 富山平野. アーバンクボタ、31、p. 38-47. 株式会社クボタ.
- 藤井昭二 (1992b) 海底林と海水準変動 一富山湾周辺を中心にー. アーバンクボタ、31、p. 60-65. 株式会社クボタ.
- 近藤鍊三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析、その特性と応用. 第四紀研究、25、p. 31-64.
- 粉川昭平・吉井亮一 (1984) 江上遺跡群出土の種実遺体. 「北陸自動車道遺跡調査報告 ー上市町木製品 (本文)・総括編ー、p. 79-88.

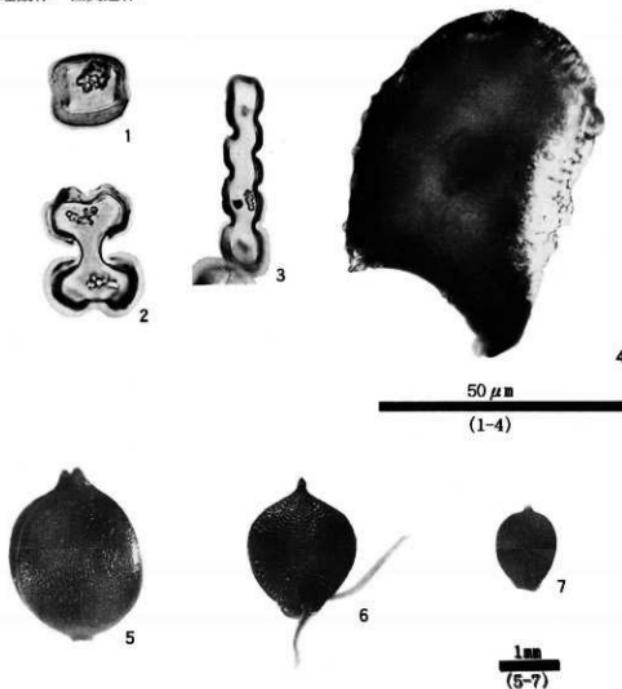
図版 1 花粉化石



図版 1 花粉化石

- 1. マツ属 (2層東壁)
- 2. スギ属 (2層東壁)
- 3. コナラ亜属 (2層東壁)
- 4. アカガシ亜属 (2層東壁)
- 5. ブナ属 (2層東壁)
- 6. タンボボ亜科 (2層東壁)
- 7. キク亜科 (2層東壁)
- 8. ヨモギ属 (2層東壁)

図版2 植物珪酸体・種実遺体



図版2 植物珪酸体・種実遺体

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. ヨシ属短細胞珪酸体 (2層東壁) | 2. ススキ属短細胞珪酸体 (2層東壁) |
| 3. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (2層東壁) | 4. ヨシ属機動細胞珪酸体 (2層東壁) |
| 5. タデ属 (2層東壁) | 6. ホタルイ属 (2層東壁) |
| 7. カヤツリグサ科 (2層東壁) | |

富山県舟橋村 浦田遺跡出土樹種鑑定報告書

(財)元興寺文化財研究所

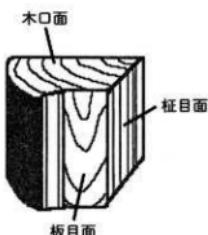
浦田遺跡出土樹種鑑定の概要

樹種の分類は、花、果実、葉など、種ごとに分化の進んだ器官の形態に基づいている。しかし、木材組織は、種ごとの分化が進んでいないため、組織上大きな特徴を有する種を除き、同定できない場合がある。種の同定が困難な場合は、科、亜科、族、亞族、属、亞属、節、亞節（分類の大きい順）のいずれかで表す。

*科、亜科、族、亞族、属、亞属、節、亞節の分類は、主に原色日本植物図鑑（保育社）による。

1. 切片作製

カミソリの刃で遺物をできるだけ傷つけないように注意しながら、木材組織の観察に必要な木口面（横断面）、柾目面（放射断面）、板目面（接線断面）の3方向の切片を正確に作製する。



2. 永久プレパラート作製

切片はサフランで染色後、水分をエチルアルコール、n-ブチルアルコール、キシレンに順次置換し、非水溶性の封入剤（EUKITT）を用いて永久プレパラートを作製する。

3. 同定方法

針葉樹については、早材から晩材への移行、樹脂道の有無、樹脂細胞の有無および配列、ラセン肥厚の有無、分野導孔の形態等、広葉樹については道管の大きさや配列状態および穿孔の形態、柔組織の分布や結晶細胞の有無、放射組織の形態等を生物顕微鏡で観察し、種または属、科を同定する。

4. 顕微鏡写真撮影

木口面（C）は30倍、柾目面（R）は広葉樹100倍・針葉樹200倍、板目面（T）は50倍で撮影する。

浦田遺跡出土樹種名表

No.	遺物名	樹種名	備考
07	自然木	トネリコ節	トネリコ節に属する樹種 コバノトネリコ、トネリコ、ヤマトアオダモ等 木No.1 SK71 X39 Y23
08	自然木	ハシバミ族	ハシバミ族に属する樹種 ツノハシバミ、クマシデ、イヌシデ等 木No.2 X31 Y24
09	自然木	ハンノキ亞属	ハンノキ亞属に属する樹種 ハンノキ、サクラハンノキ等 木No.3 X35 Y23
10	自然木	クリ	木No.4 SK72 X35・36 Y24・25
11	自然木	トネリコ節	トネリコ節に属する樹種 コバノトネリコ、トネリコ、ヤマトアオダモ等 木No.5 SD70 X30 Y25
12	自然木	環孔材 (ケンボナシ?)	木No.6 SD70 X39 Y25

富山県舟橋村塚越 I 遺跡出土漆付鉄製品
分析報告（平成 8 年度調査）

財元興寺文化財研究所

分析の概要

1. 使用機器・原理

- エネルギー分散型ケイ光X線分析装置(XRF)

(セイコー電子工業製 SEA 5200)

試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有のケイ光X線を検出することにより元素を同定する。ナトリウムより重い元素が検出可能である。

- フーリエ変換型赤外分光光度計(FT-IR)(日本電子製 JIR-6000)

赤外線を試料に照射することにより得られる、分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

- 生物顯微鏡(㈱オリンパス BX50)

- 実体顯微鏡(㈱オリンパス SZH-IIILD)

2. 分析条件

- XRF分析 真空条件下、管電圧50kV

- FT-IR分析(KBr錠剤法*) 分析能 4 cm^{-1} 、検出器 TGS

(*KBr(臭化カリウム)錠剤法 試料をKBrと混合、圧縮し錠剤を作製して行う分析法)

3. 分析試料

漆付鉄製品

①黒い層

②赤い層

分析結果

1. 顕微鏡観察結果

本遺物は、長さ約3cm、幅約1.5cm、厚さ0.3cmの
湾曲した板状の物質に、鉄釘が2本打ち込まれて
いる(写真1)。断面の観察結果、黒い部分と赤い部
分が交互に9層、重なっている(写真2)。黒い部
分は5層で、釘の打ち込まれている表面(湾曲して
いる外側)は厚く、他(湾曲している内側)は薄い。

薄い黒色層は幅1mm未溝の平行した筋がみられ、赤色層には筋は確認できない。薄い黒色層は互いの筋が直行す
るように重ねられ、これらの層の間に、赤い物質が挟まれている(図1、写真3)。

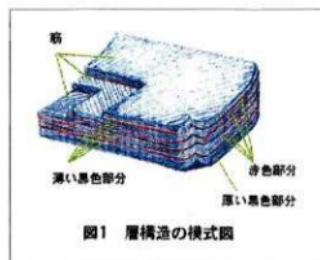


図1 層構造の模式図

2. XRF分析結果(図2)

- ①黒い層

Zn、Fe、Si、S、Alが検出された。

Znが多く検出されるが、Znに由来する黒色顔料および化合物はない。

Feが成分とする黒色顔料として鉄黒(Fe_3O_4)があげられるが、これに由来する色とは断定できない(カーボン
ブラック等の黒色顔料は、C(炭素)を成分とするが、CはXRFでは検出できない)。

- ②赤い層

Fe、Zn、Si、Al、Sが検出された。

Feが多く、赤い顔料はベンガラ(Fe_2O_3)と推定される。

3. FT-IR分析結果

- ①黒い層

表面の厚い層(①-1 図3-①)と内部の薄い層(①-2 図3-②)の2ヶ所を測定した。典型的な漆の吸
収はみられなかった。有機物は、存在しているが、土壌成分やサビ等と分離することが可能であり、有機物を特
定することができなかった。

- ②赤い層(図4)

典型的な漆の吸収はみられなかった。有機物は、存在しているが、土壌成分やベンガラ、サビ等と分離するこ
とが不可能であり、有機物を特定することができなかった。

4.まとめ

本遺物は分析により材質を特定することは出来なかった。しかし形状より、皮、布、漆等で、構成された可能性
も考えられる。

写真 1-①



舟橋村 96216 (前)

2

写真 1-②



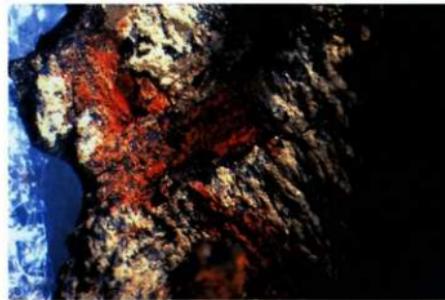
舟橋村 96216 (前)

2

写真 2



写真 3



[測定条件]

	A	B
測定時間(秒)	65	49
有効時間(秒)	42	32
資料室雰囲気	真空	真空
コリメータ	φ1.8mm	φ1.8mm
励起電圧(kV)	15	15
電流(mA)	0.516	0.328
コメント	舟橋村 96216 No.2 不明鉄製品 黒色15kV	舟橋村 96216 No.2 不明鉄製品 赤色15kV

[試料像]



[スペクトル]

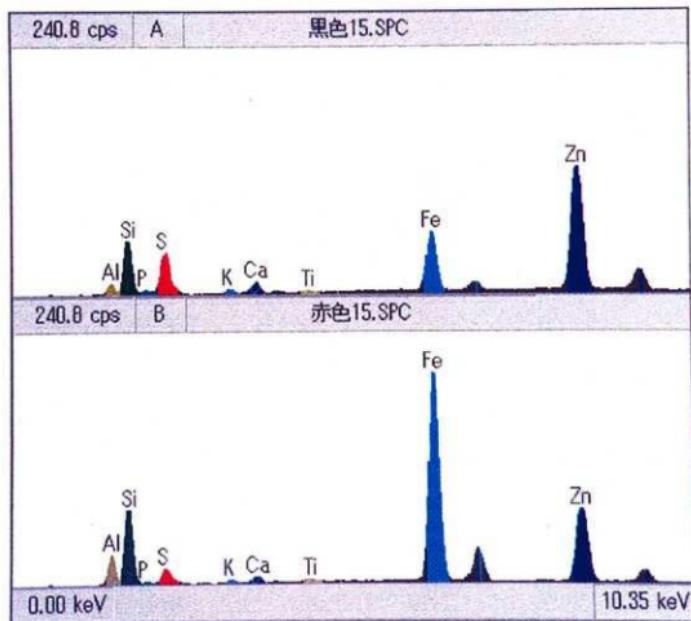


図2 XRF チャート

HUNAHASI (OMO TENO KURO)

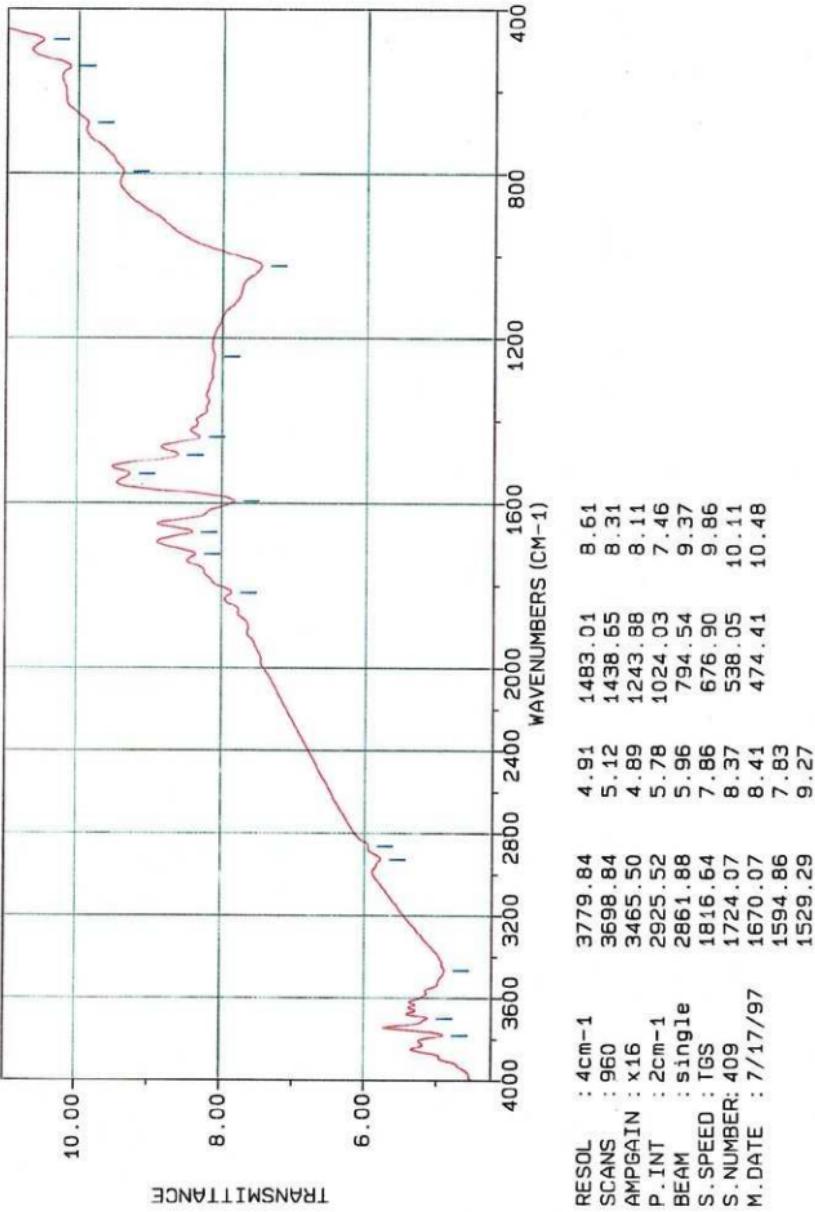


図3-① FT-IRチャート

HUNAHASI HUMETETUSEEIHIN (KURO)

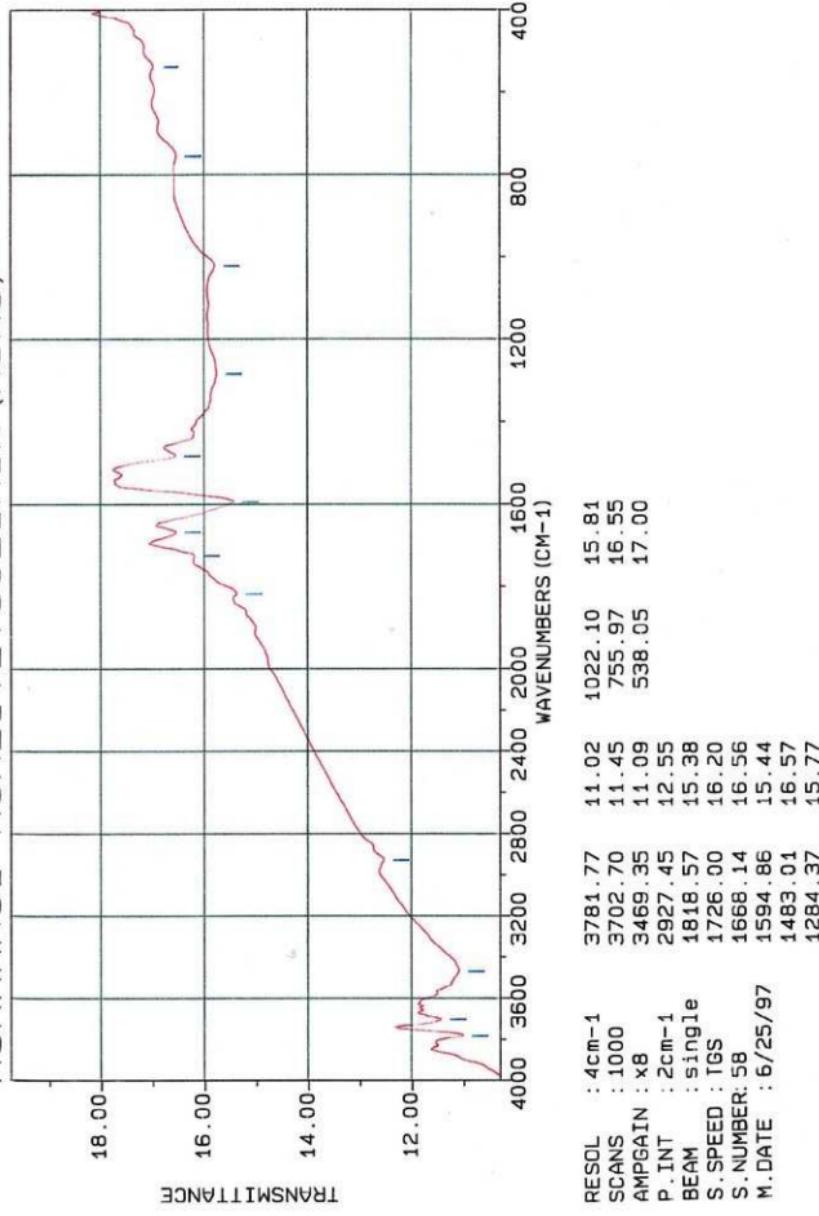
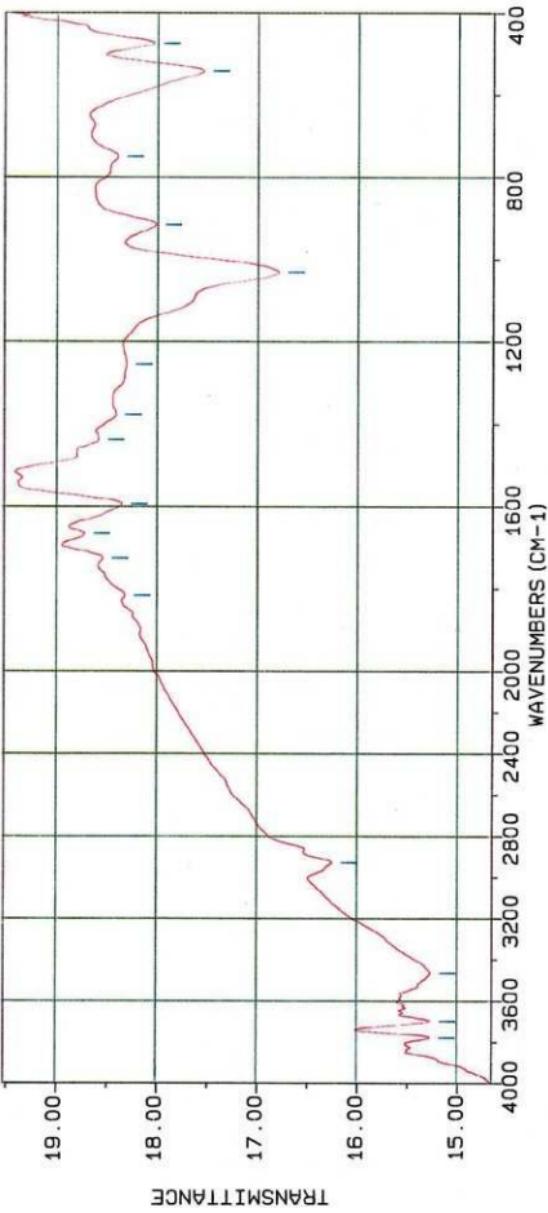


図3-② FT-IRチャート

HUNAHASTI HUMETITETUSEIHIN (AKA)



RESOL	: 4cm ⁻¹	3779.84	15.28	1255.45	18.31
SCANS	: 1000	3698.84	15.28	1031.74	16.80
AMP/GAIN	: x8	3467.43	15.28	916.03	18.02
P. INT	: 2cm ⁻¹	2929.38	16.26	750.18	18.40
BEAM	: single	1816.64	18.33	541.91	17.55
S. SPEED	: TGS	1726.00	18.55	474.41	18.04
S. NUMBER	: 56	1666.22	18.73		
M. DATE	: 6/25/97	1594.86	18.36		
		1438.65	18.59		
		1376.94	18.42		

付 中性子ラジオグラフィ分析報告（塚越 I 遺跡出土漆付鉄製品）

前述の分析結果より漆付鉄製品は 繊維、皮、漆等の有機物が含まれている可能性が高かったため、中性子ラジオグラフィを実施した。

中性子ラジオグラフィは、有機物と金属の複合体での有機物の検出が可能であるため、X線透過試験では不可能な経筒中の経巻などの確認で、成果が上がっている。

今回 京都大学原子炉実験所の協力を得て、冷中性子を照射し、写真の画像が得られた。この画像より本遺物は、有機物を含む筋状の物質が、直交しているのが確認できた。

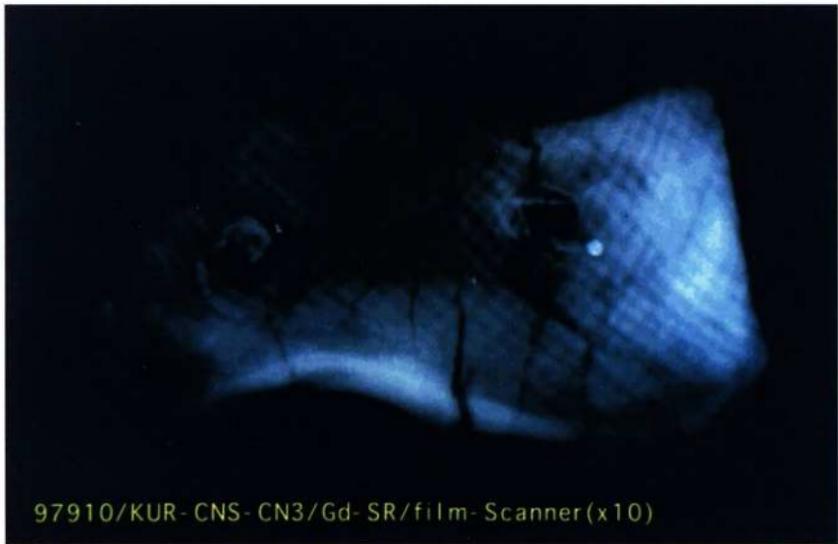


表1 浦田遺跡県道地区遺構一覧表

遺構番号	地X	区Y	遺物他	遺構番号	地X	区Y	遺物他
SD 1	53	-26~28	幅0.3M 上部器蓋	P 35	85	-33	
SD 2	53	-26~28	幅0.4M	P 36	81	-33	
SD 3	53~62	-25~28	幅0.7M 土師器碗、珠洲擂鉢、陶器	P 37	81	-34	
SK 4	53・54	-26・27		P 38	81	-35	
SK 5	55~59	-27	炭化物	P 39	81	-34	
SK 6	57~59	-25・26		P 40	88	-34	
SK 7	60・61	-25		P 41	70	-28	
SK 8	62	-26		P 42	66	-27	
SD 9	64	-26・27		P 43	69	-29	
SD 10	63	-26	幅0.5M 須恵器杯身	P 44	68	-30	
SP 11	63	-26		P 45	67	-29	
SD 13	56	-25	幅0.3M	P 46	68	-28	
SD 14	58~66	-25~28		P 47	66	-27	土師器蓋
SD 15	70~75	-29~33	幅4.0M 最下面是15A幅 0.6M・15B幅0.5M・15C幅 0.6Mの3条に分かれる 赤石、須恵器蓋・杯身・ 杯蓋、土師器蓋・碗、 珠洲擂鉢、越前甕、陶器	P 48	66	-28	
SD 16	69~73	-28~32	幅0.7M 須恵器蓋・杯身、 陶器	P 49	67	-30	
SD 17	79	-33・34	幅0.5M	P 50	70	-30	
SD 18	80	-32~34	幅0.5M	P 51	73	-29	
SD 19	72~76	-30~33	幅0.3M	P 52	66	-30	
SD 20	81	-32~35	幅0.5M	P 53	65	-29	
SD 21	82	-31~36	幅0.3M	P 54	65	-27	
SD 22	83	-31~36	幅0.5M 須恵器杯身・杯蓋	P 55	63	-27	
SD 23	86	-35~37	幅0.4M	P 56	62	-27	
SD 24	90~95	-33~38	幅0.6M	P 57	62	-27	
SK 25	99・100	-36・37	調査区外へ伸びる	P 58	62	-28	
SD 26	68・69	-28・29	幅0.4M	P 59	62	-28	
SP 27	57	-25		P 60	63	-30	
SP 28	61	-26		P 61	64	-30	
P 29	86	-35		P 62	64	-30	
P 30	86	-35		P 63	61	-26	
P 31	85	-35		P 64	61	-26	
P 32	85	-34		P 65	63・64	-27・28	弥生式土器?、炭化物
P 33	85	-33		SK 66	65・66	-30・31	
P 34	85	-33		SK 67	72	-30	
				SK 68	71	-31	
				SD 69	31~35	-22~25	木№2 分析
				SD 70	37~43	-23~25	木№5・6 分析
				SK 71	39・40	-23・24	木№1 分析
				SK 72	36・37	-25	木№4 分析
					35	-23	木№3 分析

表2 浦田遺跡県道地区出土遺物一覧表

地 区 X Y	遺物他	地 区 X Y	遺物他
31-22	土師器		土師器、土師器、須恵器
31-23	縄文時代の剥片	41-25	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師器、 土師質土器、陶器、須恵器
31-24	占墳時代初頭土師器、陶器、木製品、土師器、珠洲	41-26	先土器時代石器、古墳時代初頭土師器、土師器、 縄文時代の上器、弥生時代土器
32-24	縄文時代の土器、十師器、弥生時代土器、 古墳時代初頭土師器	42-23	弥生時代土器、土師質土器、土師器、陶器
32-25	土師器、陶器、珠洲	42-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、陶器、 土師器、須恵器、珠洲
33-23	陶器	42-25	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、陶器、 土師器、土師質土器、須恵器
33-24	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代初頭 土師器、十師器、越前、須恵器	43-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師器
33-25	十師器、上師質土器	43-25	十師器
34-22	弥生時代土器	43-26	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代 初頭土師器、輕石
34-23	陶器	44-24	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代 初頭土師器、土師質土器、土師器、陶器、 越前、須恵器
34-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師器	44-25	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代 初頭土師器、須恵器、土師器
34-25	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、上師器	44-26	古墳時代初頭土師器、土師器、土師質土器、 陶器、先土器時代ナイフ
35-23	木製品	45-23	十師器
35-24	弥生時代土器、土師器、土師器	45-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師器、 陶器、上師質土器、越前、珠洲、須恵器
35-25	古墳時代初頭土師器、土師質土器、十師器	45-25	先土器時代石器、縄文時代の剥片、弥生時代 土器、上師器、須恵器
36-24	弥生時代土器、十師器、陶器、木製品	45-26	十師器
36-25	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代初頭 土師器、陶器、土師器、木製品	46-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、十師質 土器、土師器、縄文時代の剥片
37-22	土師器	46-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、十師質土器、 土師器、縄文時代の剥片
37-24	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師質土器、 土師器、陶器、珠洲、越前、須恵器	46-25	縄文時代の土器、土師器
37-25	土師器	47-24	縄文時代の土器、弥生時代土器、 古墳時代初頭土師器
38-23	十師器	47-25	土師器
38-24	縄文時代の土器、弥生時代土器、古墳時代初頭 土師器、土師器	48-25	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器
38-25	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、上師器	52-26	珠洲、上師器、陶器、須恵器
39-23	木製品	52-28	土師器
39-24	先土器時代石器、縄文時代の剥片、縄文時代の 土器、弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、上師器	53-25	土師器、陶器、須恵器
39-25	縄文時代の剥片、古墳時代初頭土師器、弥生時代 土器、珠洲、土師器、須恵器、木製品	53-26	陶器、珠洲
39-26	土師器、弥生時代土器	54-26	炭、土師器、陶器
40-23	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師器	54-27	土師器
40-24	弥生時代土器		
40-25	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代初頭 土師器、陶器、土師器、上師質土器、須恵器、珠洲		
40-26	上師器		
41-23	縄文時代の剥片、古墳時代初頭土師器、弥生 時代土器、土師質土器、土師器		
41-24	縄文時代の剥片、弥生時代土器、古墳時代初頭		

地 区 X Y	遺物他	地 区 X Y	遺物他
55-25	土師器、陶器、珠洲、須恵器	63-25	珠洲、土師器、陶器、炭、須恵器
55-26	土師器、陶器、珠洲	63-26	土師器、須恵器、陶器、珠洲
55-27	土師器、陶器、須恵器	63-27	土師器
55-28	陶器、須恵器	63-28	土師器、陶器、須恵器
55-29	陶器	63-29	土師質土器、土師器、須恵器
56-25	縄文時代の剥片、土師器、陶器	63-30	陶器、須恵器
56-26	土師器、陶器、須恵器	63-31	土師器、須恵器、陶器、珠洲
56-27	土師器、須恵器、金屬製品	64-26	土師器、土師質土器、陶器、須恵器
57-25	須恵器、土師器、陶器	64-27	土師器、須恵器
57-26	土師器、陶器	64-28	土師器、陶器
57-27	炭、陶器、須恵器	64-29	土師器
57-28	土師器、陶器、須恵器	64-30	土師質土器、土師器、須恵器、陶器
57-29	陶器、須恵器、土師器	64-31	土師器
58-25	珠洲、土師器、陶器	65-26	土師器、土師質土器、須恵器、陶器
58-26	縄文時代の剥片、土師器、陶器、須恵器、金屬製品	65-27	古墳時代初頭土師器
58-27	土師器、陶器、珠洲、須恵器	65-31	土師器、須恵器
58-28	須恵器	66-26	土師器、須恵器、陶器
58-29	陶器、珠洲、須恵器	66-27	珠洲
58-30	土師器、陶器	66-28	土師器、須恵器
59-25	須恵器、土師器、陶器	66-30	土師器、須恵器
59-26	土師器、陶器、珠洲、須恵器	67-26	須恵器
59-27	土師器、陶器、珠洲	67-27	土師質土器、土師器、須恵器
59-28	陶器、須恵器	67-28	土師器、陶器、金屬製品
59-29	土師器、土師質土器、陶器、須恵器	67-29	土師器、陶器、珠洲
59-30	土師器	67-30	土師器、須恵器
60-25	土師器、陶器、珠洲、須恵器	67-32	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、土師質土器、須恵器
60-27	土師器、陶器、須恵器	68-27	土師器、陶器、土師質土器
60-28	土師器	68-28	土師器、須恵器
60-29	土師器	68-29	土師器、陶器、珠洲、須恵器
60-30	陶器	68-30	縄文時代の剥片、縄文時代の土器、土師質土器、土師器、珠洲、須恵器
60-25	陶器、古墳時代初頭土師器、須恵器、土師器、土師質土器	68-31	土師器、土師質土器、須恵器
61-26	土師器、陶器	68-32	土師器
61-28	土師器、須恵器	69-27	須恵器、土師器
61-29	須恵器	69-28	縄文時代の土器、土師器、陶器、須恵器
61-30	須恵器、土師器	69-29	土師器、土師質土器、珠洲、陶器、砾石、須恵器
62-25	縄文時代の剥片、須恵器、土師器、陶器、金屬製品	69-30	土師器、陶器、須恵器
62-26	土師器、須恵器	69-31	古墳時代初頭土師器、土師器、陶器、須恵器、珠洲
62-27	弥生時代土器、土師器、陶器、須恵器	70-28	縄文時代の土器、土師器、陶器、須恵器
62-29	土師器、土師質土器、陶器	70-29	弥生時代土器、陶器、土師器、須恵器、珠洲、瓦質土器、越前
62-30	土師質土器、陶器		

地 区 X Y	遺物他	地 区 X Y	遺物他
70-30	土師質土器、陶器、珠洲、土師器、須恵器	78-35	土師器、陶器
70-31	土師器、陶器、須恵器、珠洲	79-30	須恵器、土師器、陶器
70-32	須恵器	79-32	土師器、陶器、須恵器
71-28	土師器、須恵器	80-30	珠洲、須恵器、縄文時代の剥片、土師器、陶器
71-29	炭、土師質土器、陶器、土師器、須恵器	80-31	須恵器
71-30	土師器、陶器、珠洲、須恵器	80-34	陶器
71-31	縄文時代の剥片、土師器、土師質土器、陶器、 越前、須恵器	81-30	土師質土器、陶器
71-32	陶器、須恵器	81-31	土師器、陶器、須恵器
72-28	炭、土師器、須恵器	81-32	陶器、須恵器
72-29	縄文時代の剥片、土師器、須恵器、珠洲	81-34	陶器
72-30	土師器、陶器、須恵器	82-30	須恵器、土師器
72-32	縄文時代の剥片、陶器	82-31	土師器、須恵器、土師質土器
73-28	弥生時代土器、縄文時代の土器、須恵器、 土師器、陶器、縄文時代の剥片	82-32	珠洲
73-29	陶器、土師器、須恵器	82-33	土師質土器
73-30	陶器、須恵器、土師器	82-34	陶器、金属製品
73-31	土師器、陶器、珠洲、須恵器	82-36	土師器、珠洲、須恵器
73-32	土師器、珠洲、陶器、須恵器	83-30	土師質土器、土師器、陶器
73-34	土師器	83-31	土師器、須恵器
74-28	土師器、陶器、須恵器	83-32	陶器
74-29	土師器、陶器、須恵器	83-33	土師器、陶器、越前、須恵器
74-30	陶器、珠洲、須恵器	83-34	土師器
74-31	土師質土器、土師器、陶器、須恵器	83-35	土師器、陶器、須恵器
75-29	陶器、珠洲、須恵器、土師器、土師質土器	83-36	陶器、須恵器、土師器
75-30	土師器、陶器	84-31	土師器、陶器
75-31	須恵器、土師器、陶器、珠洲	84-33	縄文時代の剥片、陶器、珠洲、須恵器
75-32	土師器、土師質土器	84-34	須恵器
76-29	珠洲、陶器	84-35	土師器
76-30	縄文時代の剥片、土師器、土師質土器、陶器、 須恵器、珠洲	84-37	陶器
76-33	土師器、陶器、須恵器	85-31	珠洲、陶器、土師器
77-29	須恵器、土師器	85-32	古墳時代初頭土師器、土師器、陶器、須恵器
77-30	陶器、須恵器、土師器、珠洲	85-34	土師器、陶器、須恵器、珠洲
77-31	土師器、陶器、須恵器	85-35	土師質土器、土師器、陶器、須恵器
77-34	陶器	85-36	陶器
78-29	須恵器	85-37	土師器、陶器、珠洲、須恵器
78-30	陶器、珠洲、須恵器	86-31	須恵器、珠洲、土師器、陶器
78-31	土師質土器、須恵器	86-32	陶器、土師器、珠洲、須恵器
78-32	土師器、陶器、珠洲、須恵器	86-33	炭、陶器、須恵器
78-33	土師器	86-34	陶器
78-34	陶器	86-35	縄文時代の剥片、土師質土器、陶器、珠洲
		86-36	土師器、陶器、珠洲
		86-37	土師器
		87-32	土師器、陶器

地区 X Y	遺物他	地区 X Y	遺物他
87-33	土師器、須恵器	93-39	縄文時代の剥片、陶器
87-35	土師質土器、陶器、須恵器	94-33	土師器、縄文時代の剥片
87-36	須恵器、珠洲	94-34	土師器
87-37	珠洲	94-35	土師器、須恵器、珠洲
88-32	陶器	94-36	陶器
88-33	土師器	94-37	陶器
88-34	土師器、陶器、須恵器	94-39	陶器
88-35	土師器、土師質土器、珠洲、陶器	95-34	縄文時代の剥片、土師器、陶器、須恵器
88-36	陶器	95-35	陶器、須恵器、金属製品
88-37	土師器、須恵器、陶器、縄文時代の剥片	95-36	土師器、珠洲
89-32	土師器、陶器、須恵器	95-37	縄文時代の剥片、土師器、陶器、須恵器
89-33	縄文時代の土器、土師器、土師質土器、珠洲、須恵器	95-38	陶器、須恵器
89-34	古墳時代初頭土師器、縄文時代の剥片、陶器	95-39	土師器、土師質土器、弥生時代土器、珠洲、陶器
89-36	陶器、珠洲、須恵器	96-34	須恵器、土師器、古墳時代初頭土師器、土師質土器、陶器
89-38	土師器、陶器	96-35	土師器、須恵器、陶器、珠洲
90-33	陶器	96-36	土師器、陶器、珠洲
90-34	陶器、珠洲	96-37	土師質土器
90-35	縄文時代の剥片、炭、土師器、土師質土器、陶器、須恵器、珠洲	96-39	陶器、須恵器
90-36	土師器、須恵器	96-40	土師質土器
90-37	陶器	97-34	須恵器、陶器
90-38	陶器、越前、須恵器	97-35	須恵器
91-33	陶器	97-36	土師器、須恵器
91-34	土師器、陶器、須恵器、瓦質土器	97-37	土師器、須恵器、陶器、珠洲
91-35	土師器、陶器、珠洲	97-38	土師器、陶器、須恵器
91-36	土師器、陶器、須恵器	97-39	陶器
91-37	縄文時代の剥片、土師器、土師質土器、陶器、須恵器、珠洲	97-40	須恵器
91-38	須恵器	98-34	珠洲、土師器、陶器
91-39	陶器	98-35	土師器、陶器、珠洲
92-33	陶器	98-36	土師器、陶器、珠洲
92-34	陶器	98-37	土師器、陶器、須恵器
92-35	土師器、須恵器、珠洲	98-38	陶器、須恵器
92-36	珠洲	98-39	土師質土器、土師器、陶器、珠洲、須恵器
92-38	陶器	99-35	陶器、土師器、須恵器
92-39	陶器	99-36	弥生時代土器、古墳時代初頭土師器、炭、須恵器、珠洲
93-33	珠洲、土師器、陶器	99-37	土師器、陶器
93-34	土師器、須恵器、陶器	99-38	土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、珠洲、越前
93-36	土師器、陶器、越前、須恵器、砥石	99-39	土師質土器、土師器、陶器、須恵器
93-37	陶器、珠洲	99-40	土師質土器、陶器、須恵器、珠洲
93-38	古墳時代初頭土師器、須恵器	100-40	珠洲

表3 浦田遺跡県道地区金属製品一覧表

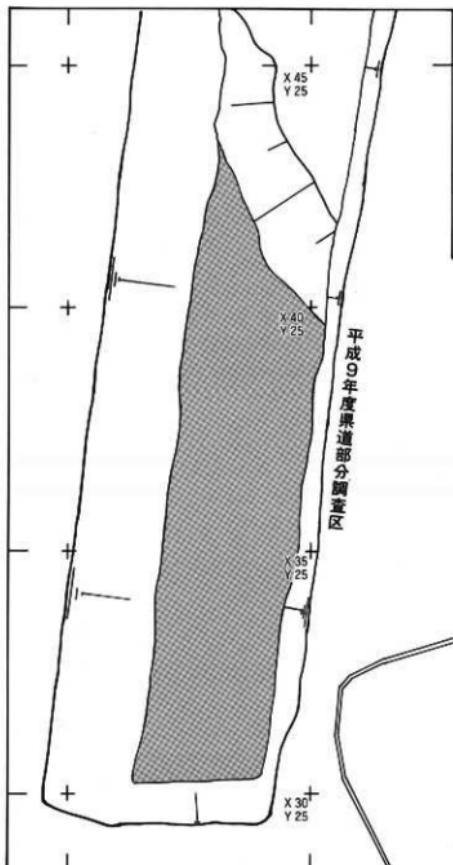
番号	名 称	遺構及び地区番号 X Y	計測 値 地 (単位CM・g)	
2	釘	62 -25	1B層 970602 縦5.0 橫2.2 厚1.0 重量10.0	
4	キセル	82 -34	1B層 970529 縦6.7 橫1.0 厚1.0 重量10.0	
6	釘	95 -35	1B層 970530 縦5.9 橫1.3 厚1.2 重量10.0	
36	古錢	56 -27	1B層 970530 直径2.2 厚0.03 寛永通宝 裏無	
37	古錢	58 -26	1B層 970523 直径2.1 厚0.03 寛永通宝 裏無	
38	古錢	67 -28	1B層 970523 直径2.3 厚0.1 寛永通宝 裏無	

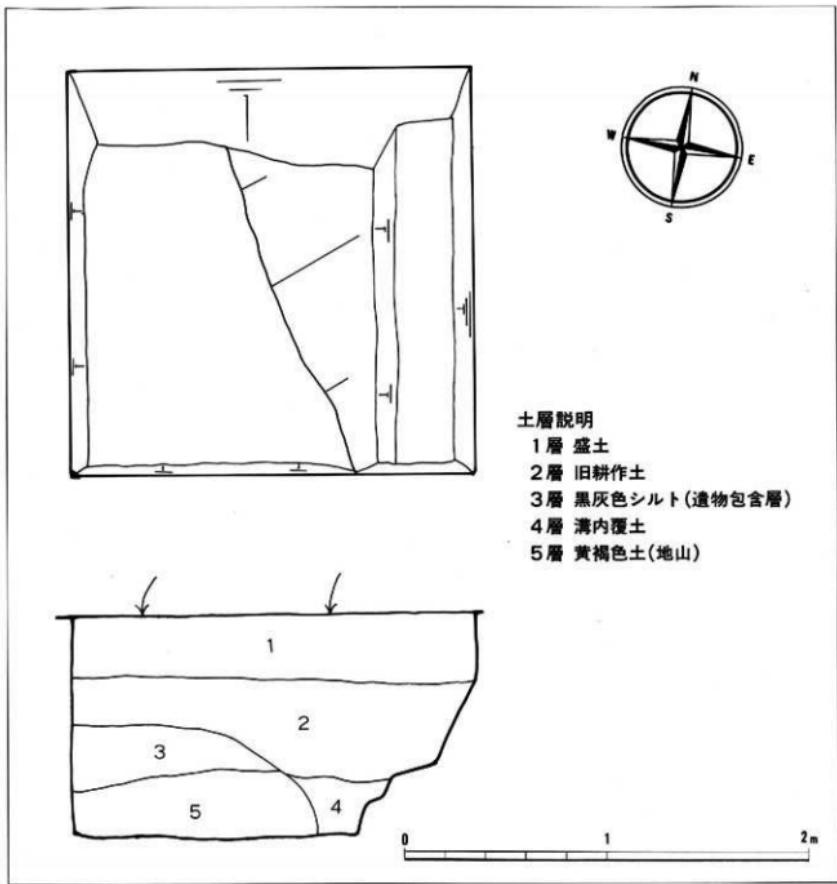
表4 浦田遺跡県道地区胎土・漆分析一覧表

番号	名 称	遺構及び地区番号 X Y	日 付 他	
1	須恵器壺	97 -33	2層 970606	
2	須恵器壺	97 -33	2層 970606	
3	珠洲 握鉢	58 -25	1B層 970603	
4	珠洲 壺	99 -38	1B層 970616	
5	珠洲 鉢	96 -35	1B層 970616	

表5 浦田遺跡県道地区植物遺存体表

番号	木番号	名 称	遺 構 番 号	地 区		計 測 値 地
				X	Y	
1	1	自然木	SK71	39	-23	地山層内 971002
2	2	自然木		31	-24	地山層内 971002
3	3	自然木		35	-23	地山層内 971002
2	4	自然木	SK72	35 + 36	-24 + 25	地山層内 971002
2	5	自然木	SD70	36	-25	地山層内 971002
2	6	自然木	SD70	39	-25	地山層内 971002





附章 第3図 調査区遺構平面図及びセクション



附章 写真1 遺構検出状況

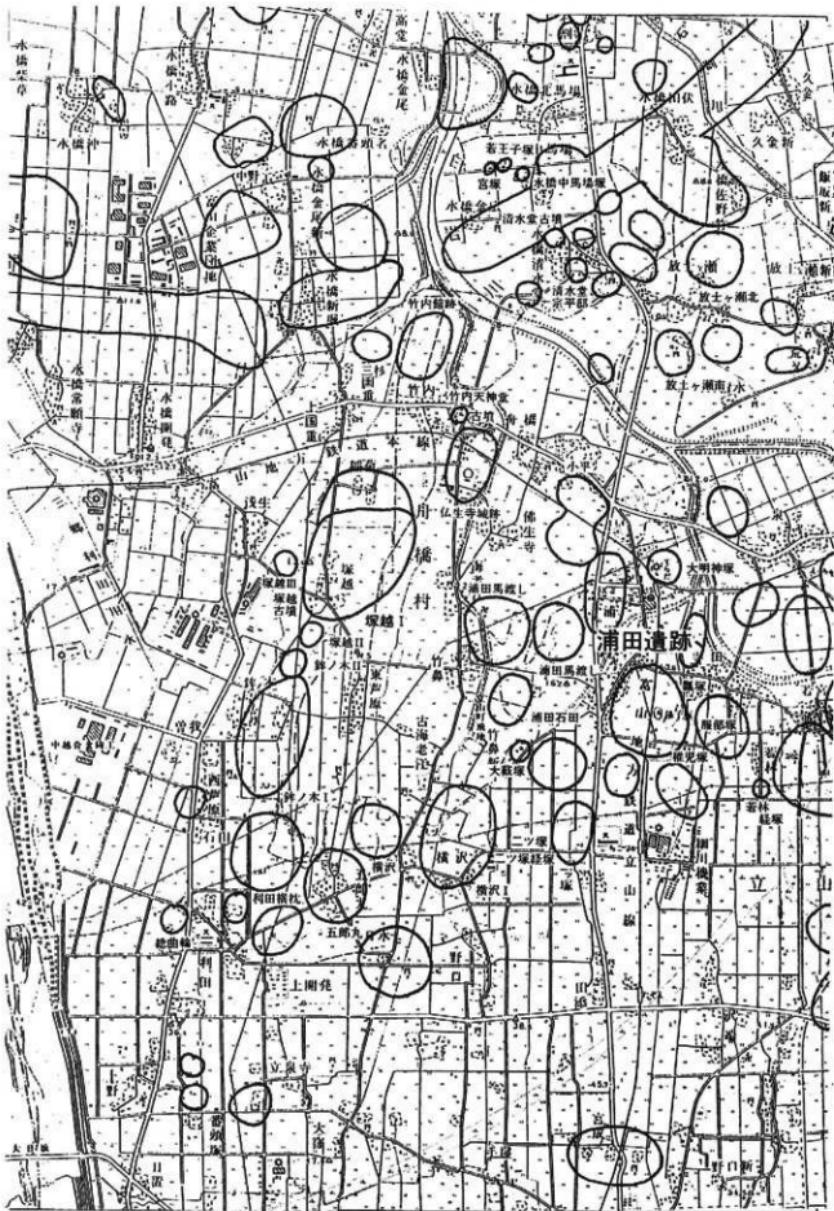


附章 写真2 溝試掘状況

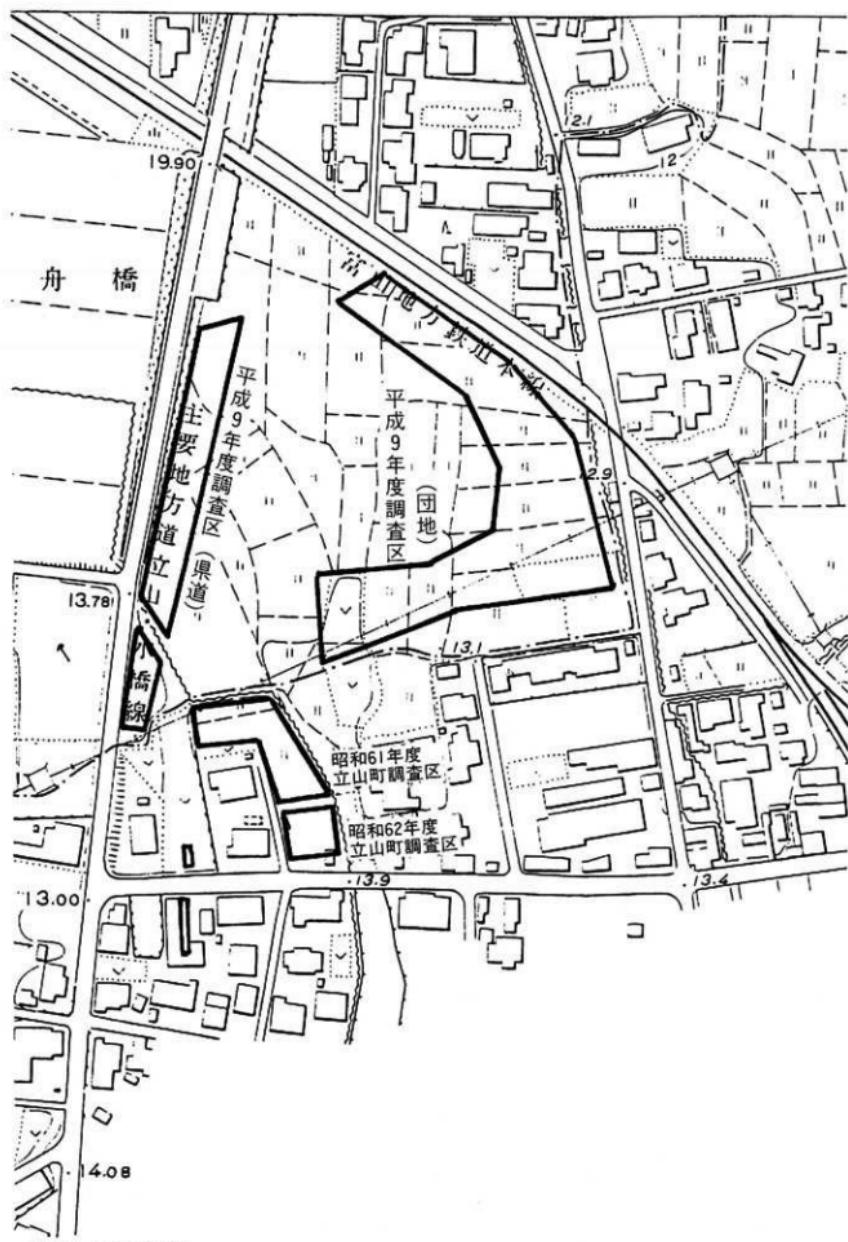


附章 写真3 作業風景

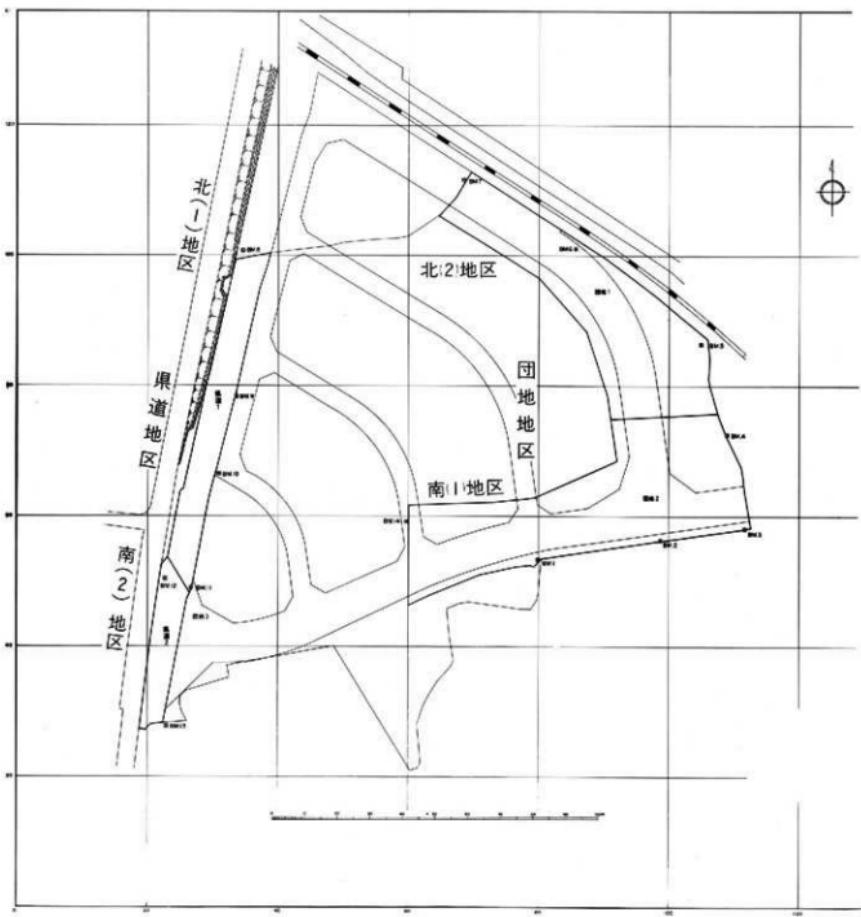
図 版



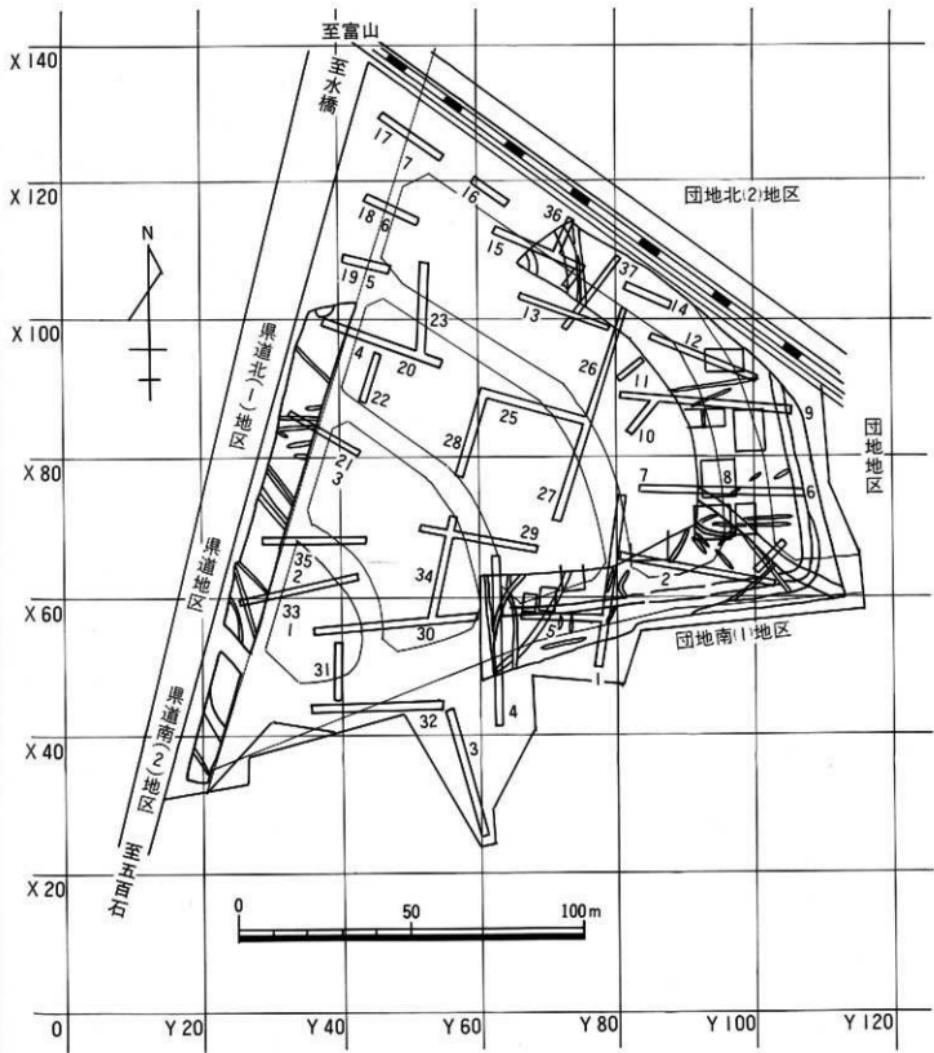
第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/25,000)



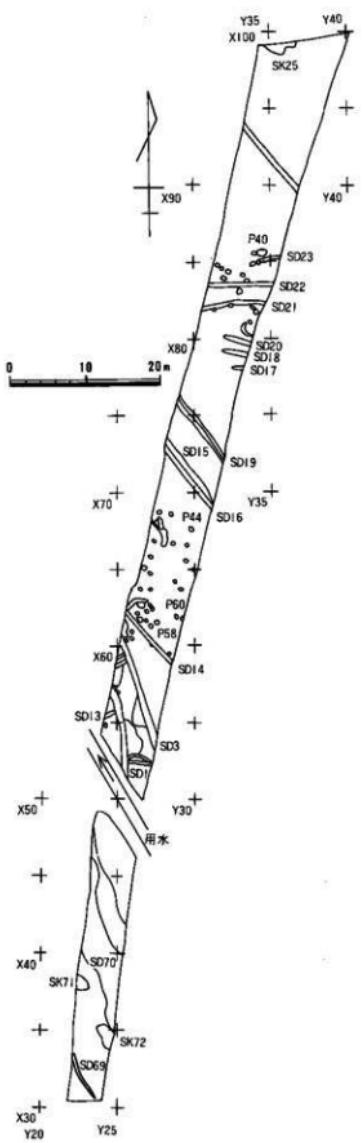
第2図 調査区位置図



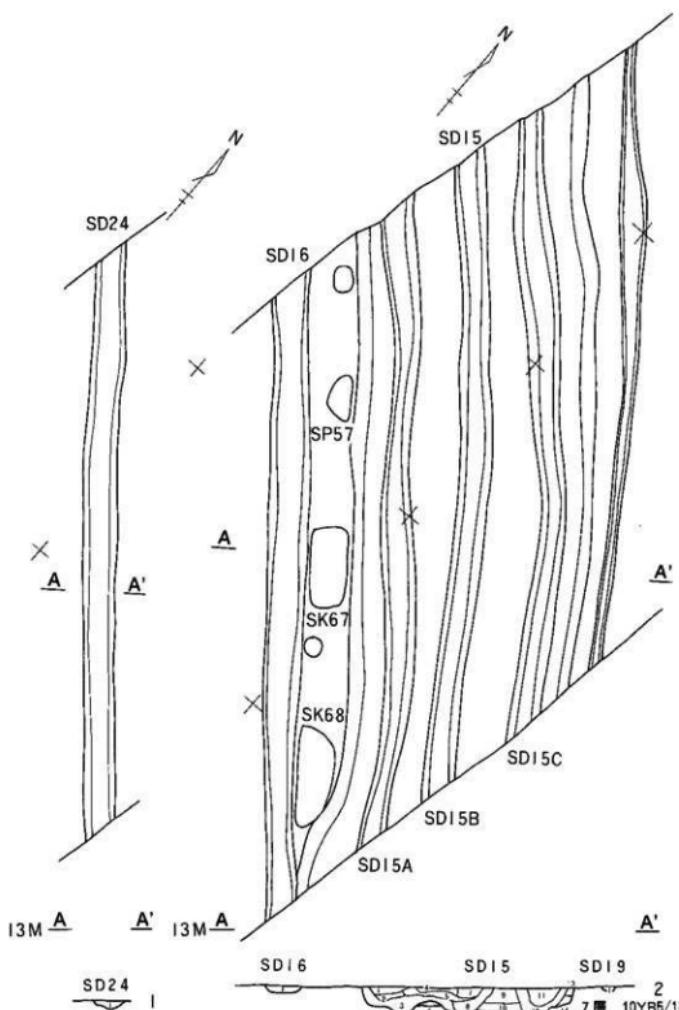
第3図 調査区割図



第4図 調査区及び試掘位置図

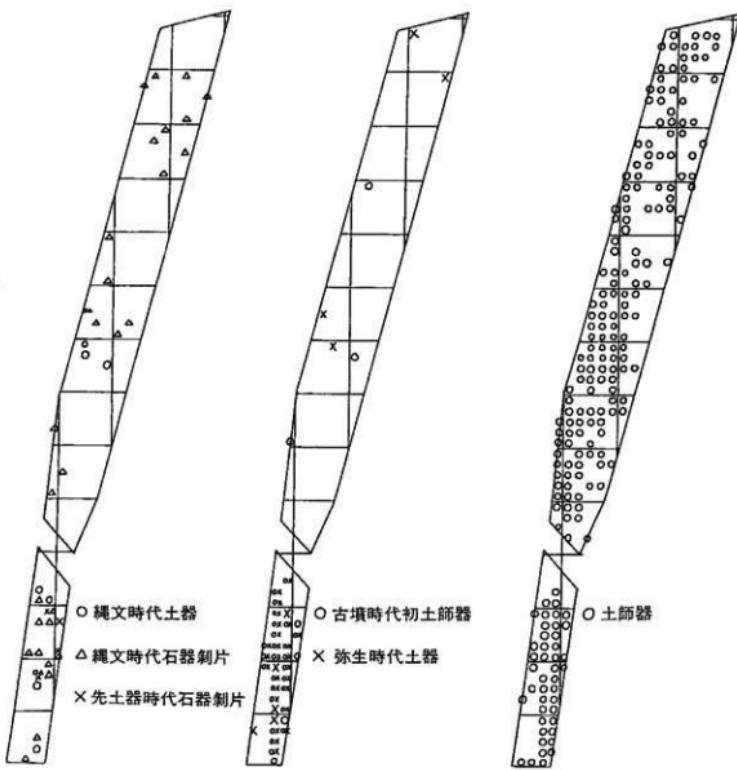


第5図 造構概略図 (約1/600)

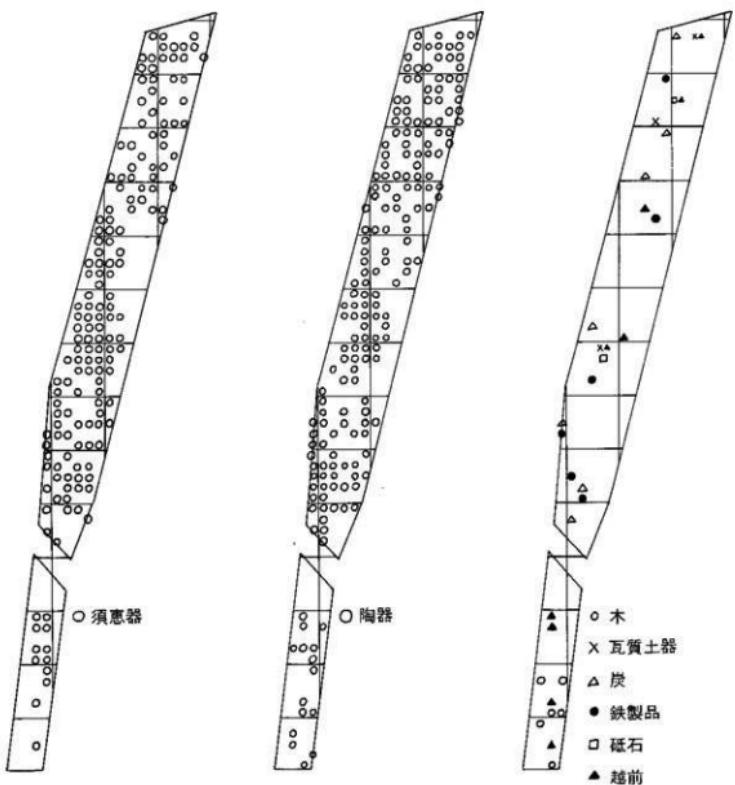


SD24	SD16	SD15	SD19	2
1層 10YR2/2黒色砂質土	1層 10YR4/1褐色灰色粘質土	1層 10YR5/1褐色灰色粘質土	8層 10YR5/1褐色灰色粘質土 砂層ブロック混入	
	2層 10YR5/1褐色灰色粘質土 砂混入	2層 10YR5/1褐色灰色粘質土	9層 10YR5/1褐色灰色粘質土 砂層で混入	
	3層 10YR4/1褐色灰色粘質土	3層 10YR6/1褐色灰色粘質土	10層 10YR5/1褐色灰色粘質砂	
	4層 10YR6/1褐色灰色粘質土	4層 10YR6/3	11層 10YR5/1褐色灰色粘質土 砂層ブロック混入	
	5層 10YR6/3	5層 にぶい黄橙粘質土	12層 10YR5/1褐色灰色粘質土 10YR7/4	
	6層 10YR5/1褐色灰色粘質土	6層 にぶい黄橙粘質土	13層 10YR3/1黒褐色粘質土	
			14層 10YR3/1黒褐色粘質土	

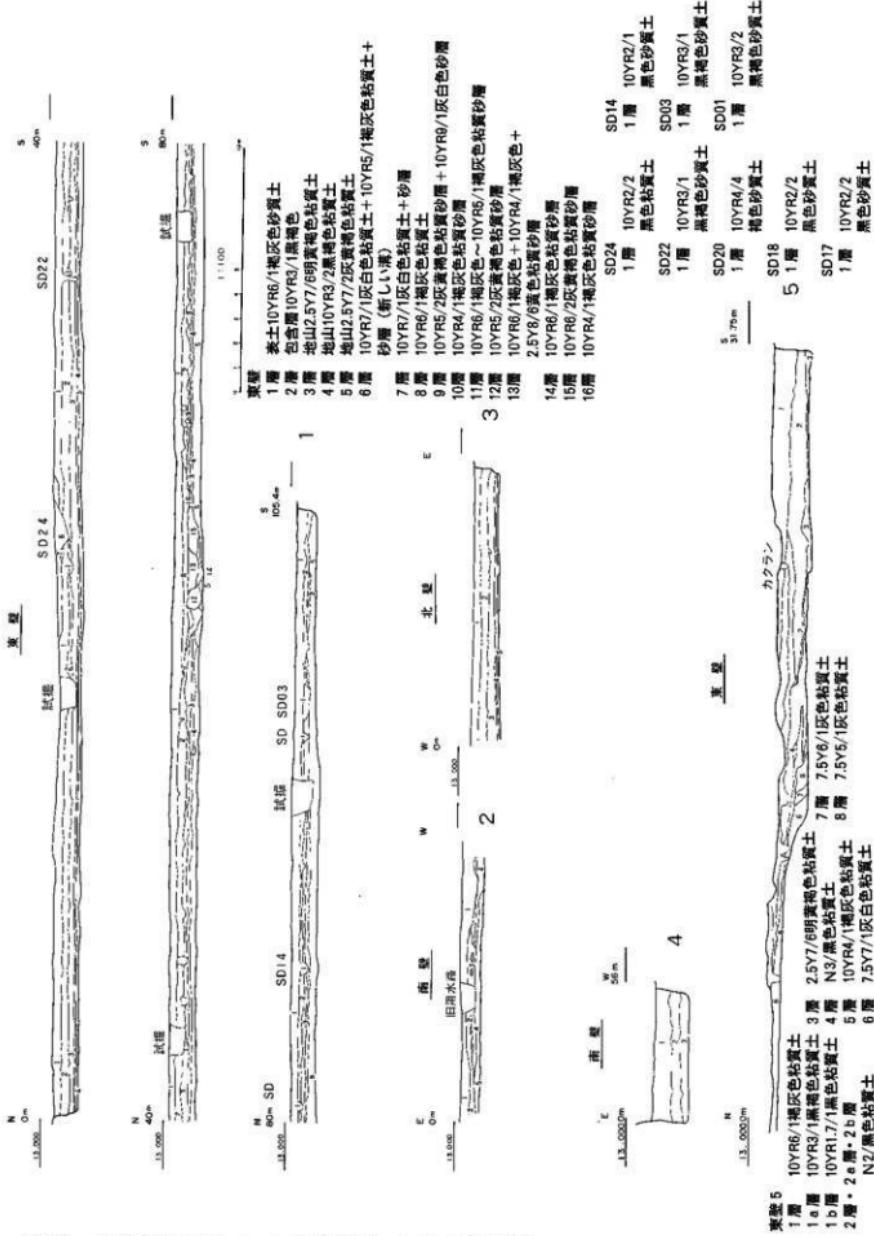
第6図 遺構実測図 (1/80) 1、SD24 2、SD15、16、19、SP57他

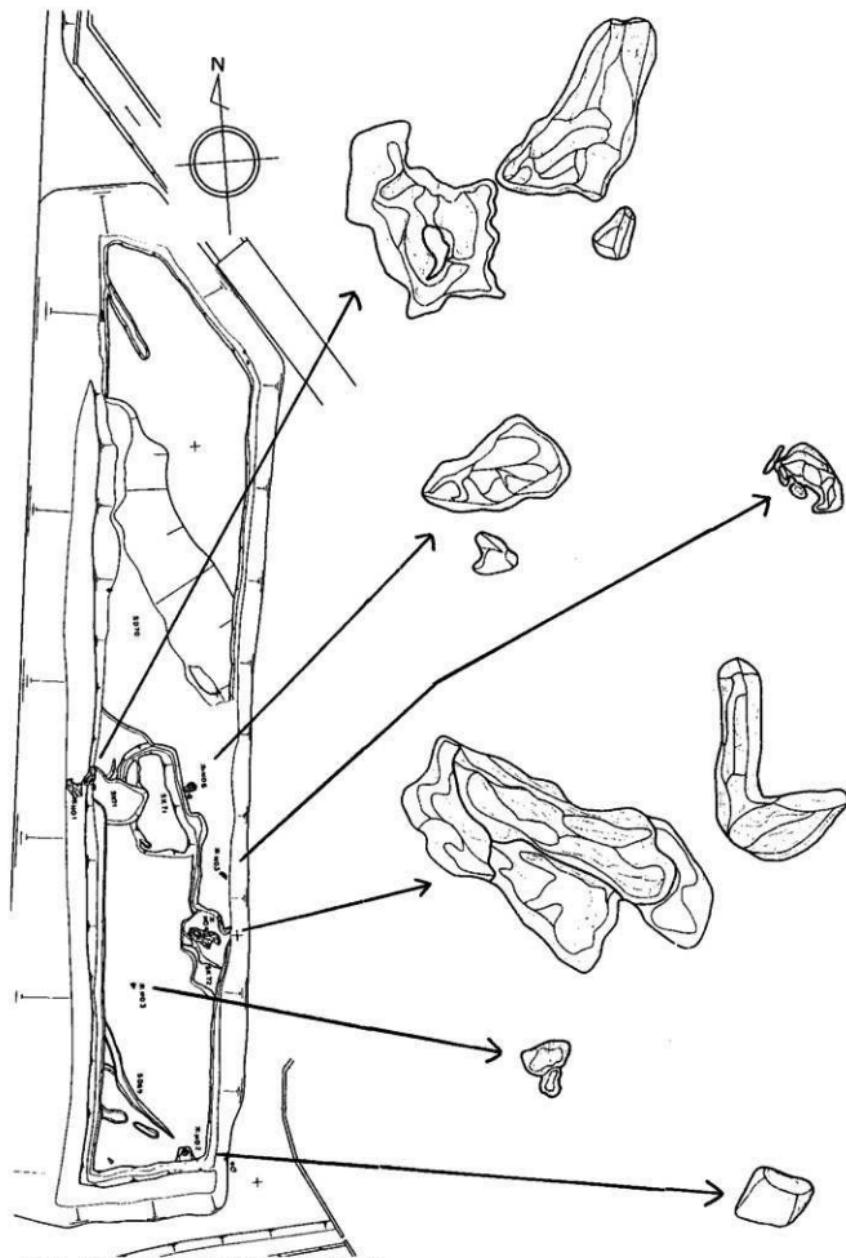


第7図 遺物出土状況1

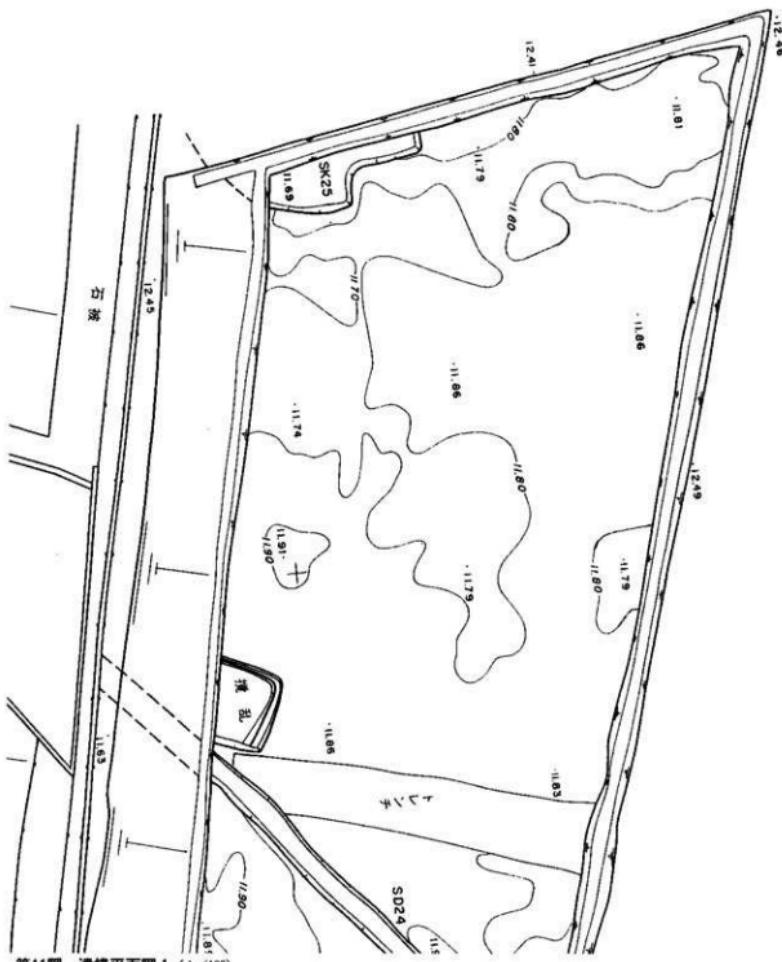


第8図 遺物出土状況2

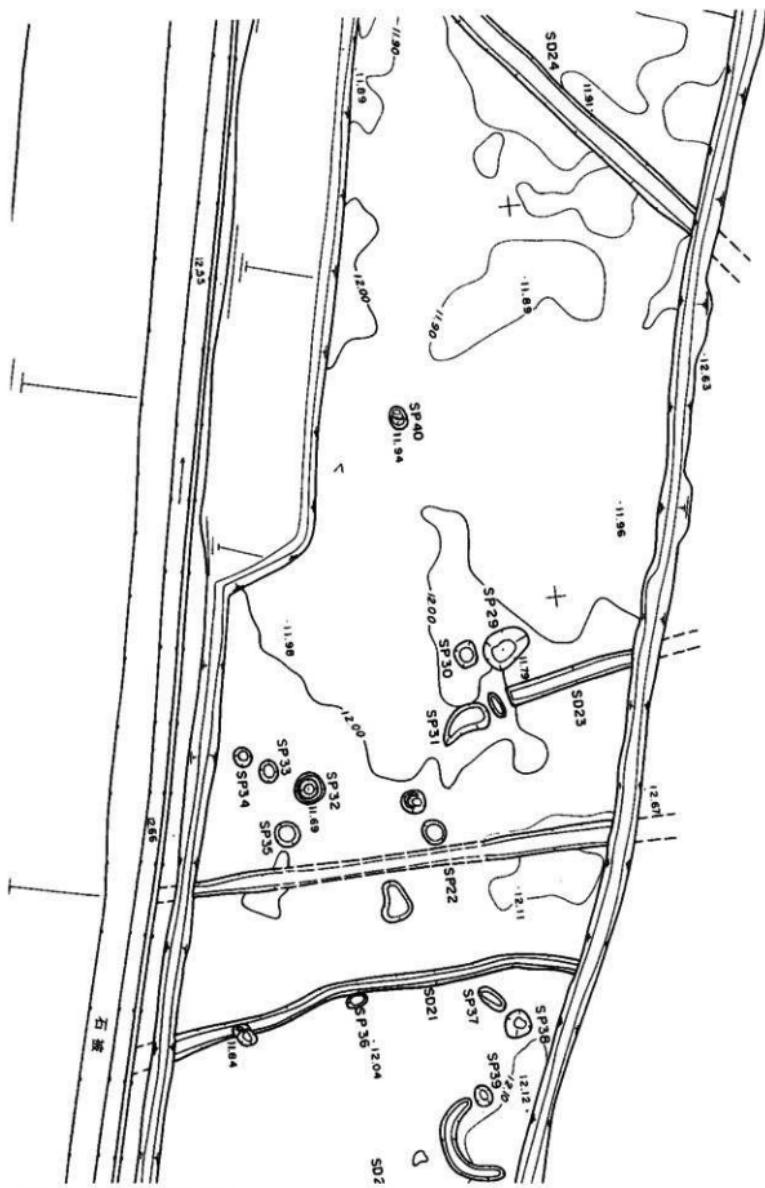




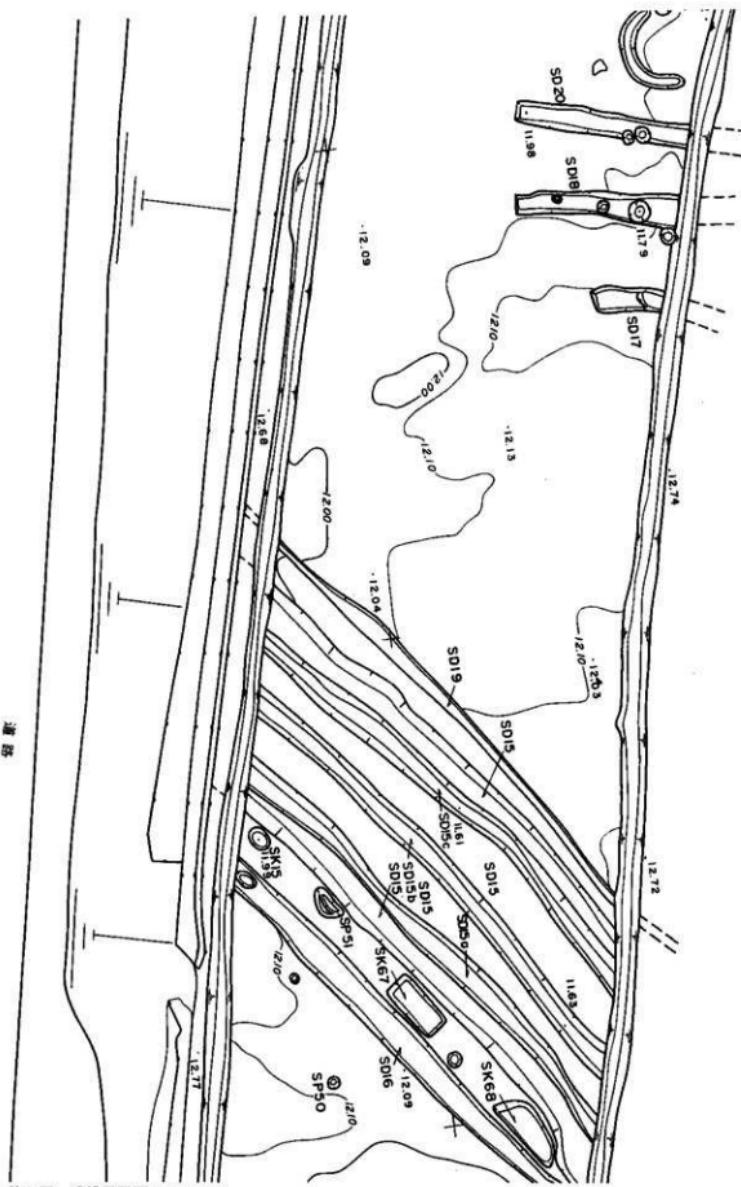
第10図 植物遺存体出土状況 (遺構1/100) (遺物1/20)



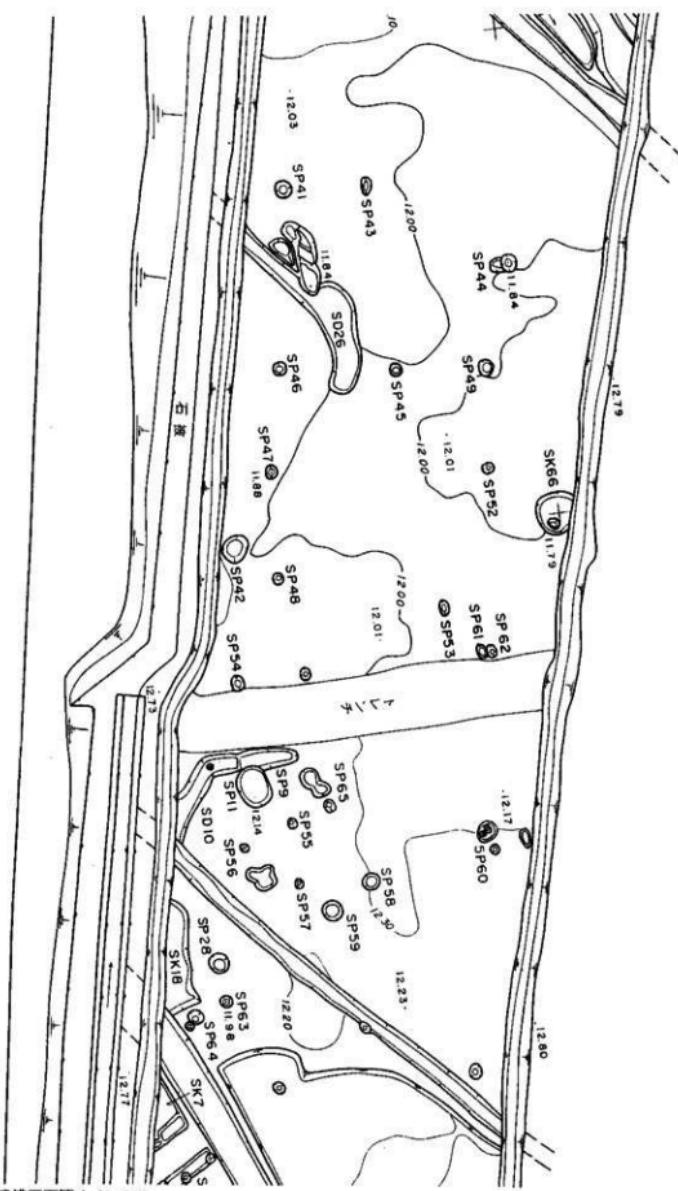
第11図 遺構平面図 1 (1/100)



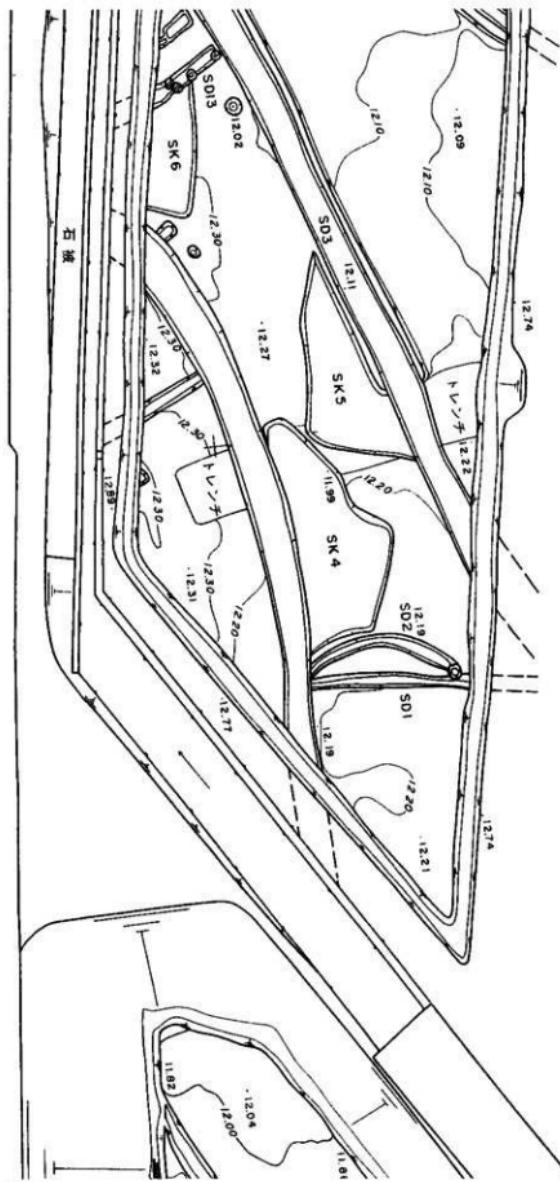
第12図 遺構平面図 2 (1/100)



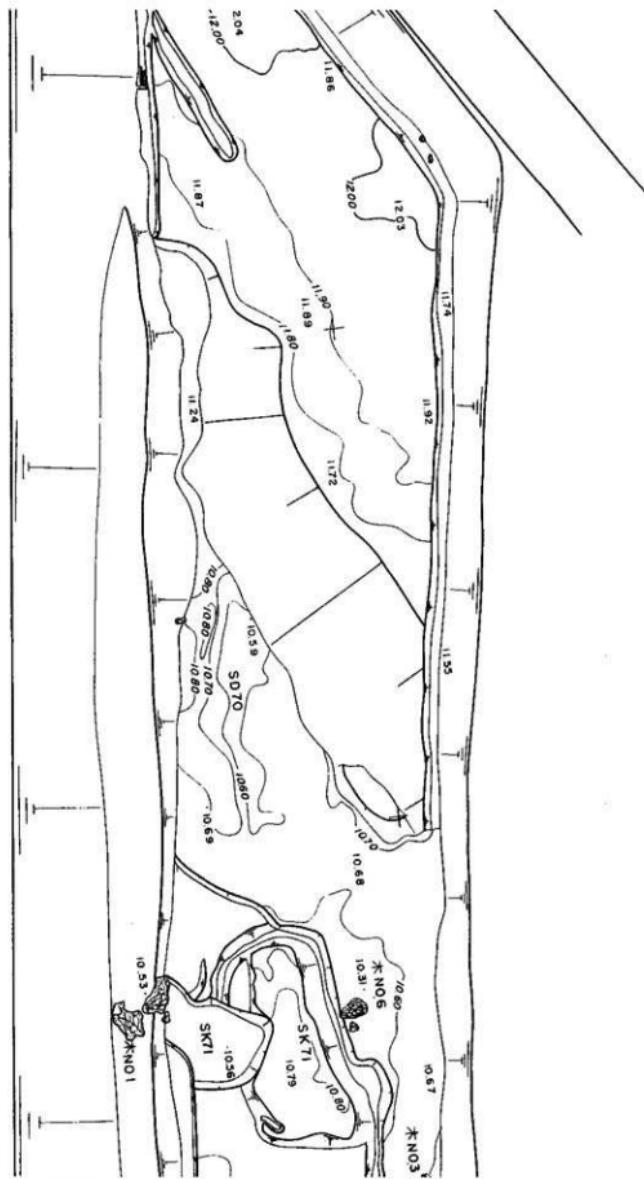
第13図 道橋平面図 3 (1/100)



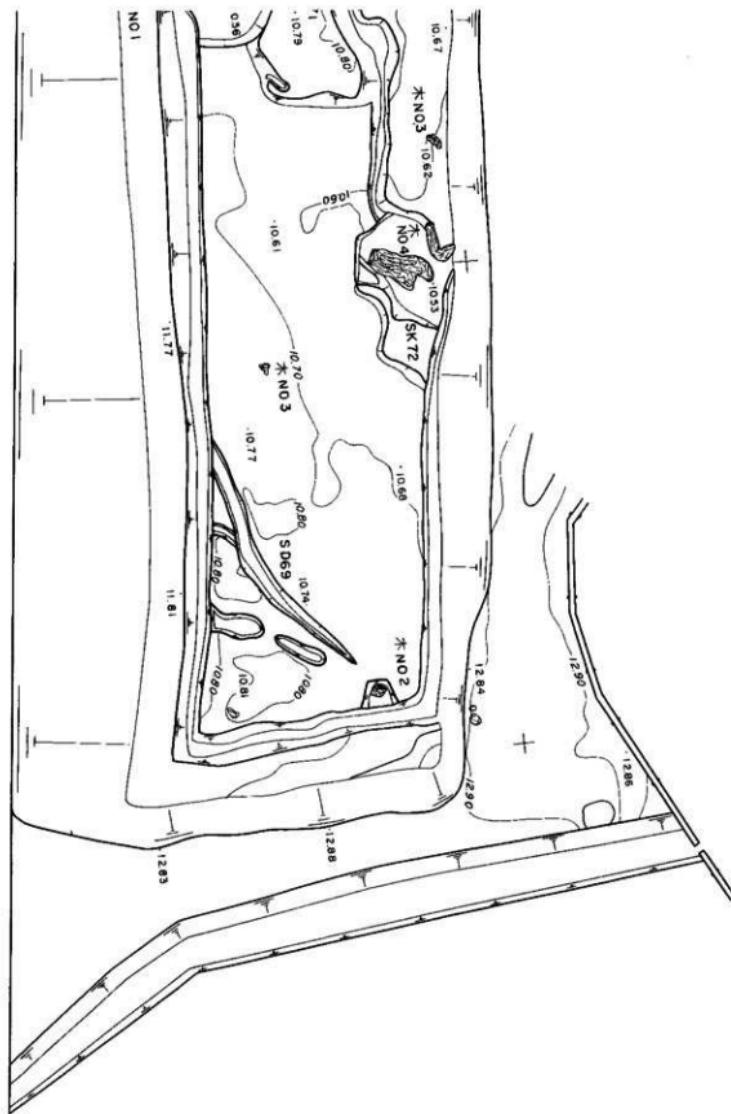
第14図 造構平面図 4 (1/100)



第15図 遺構平面図 5 (1/100)



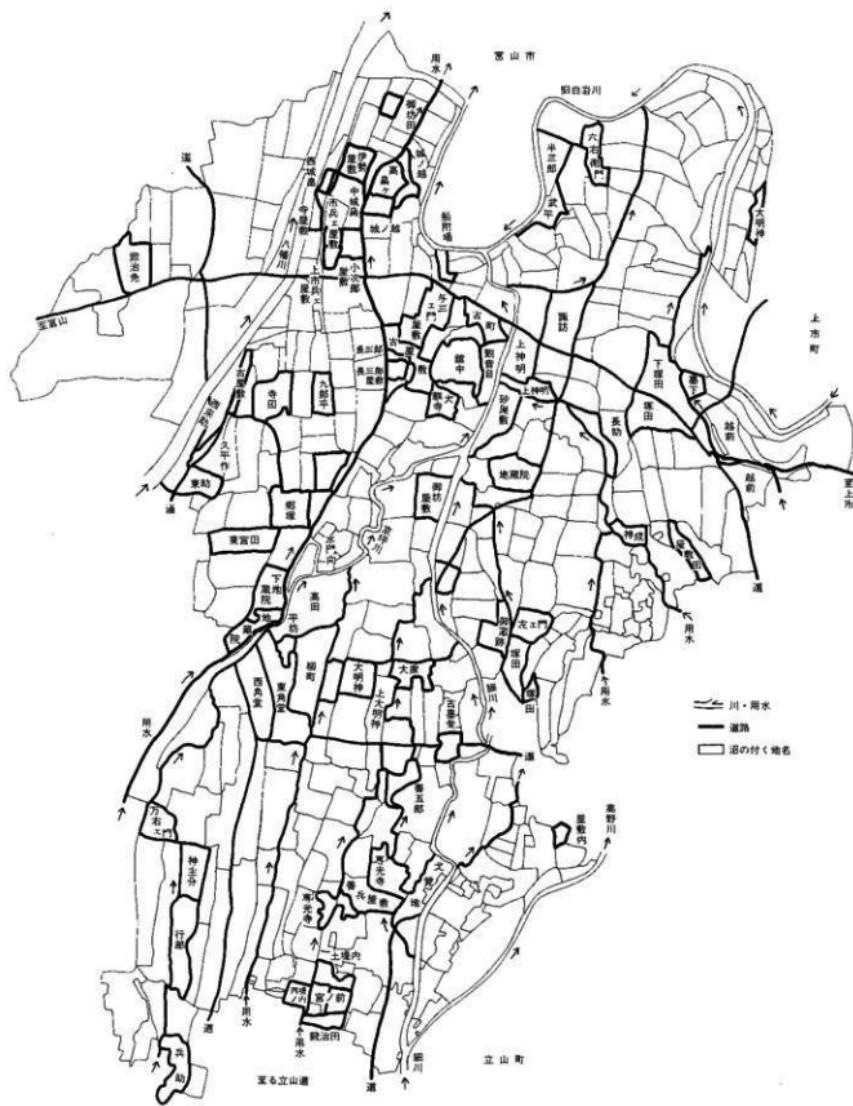
第16図 遺構平面図 6 (1/100)



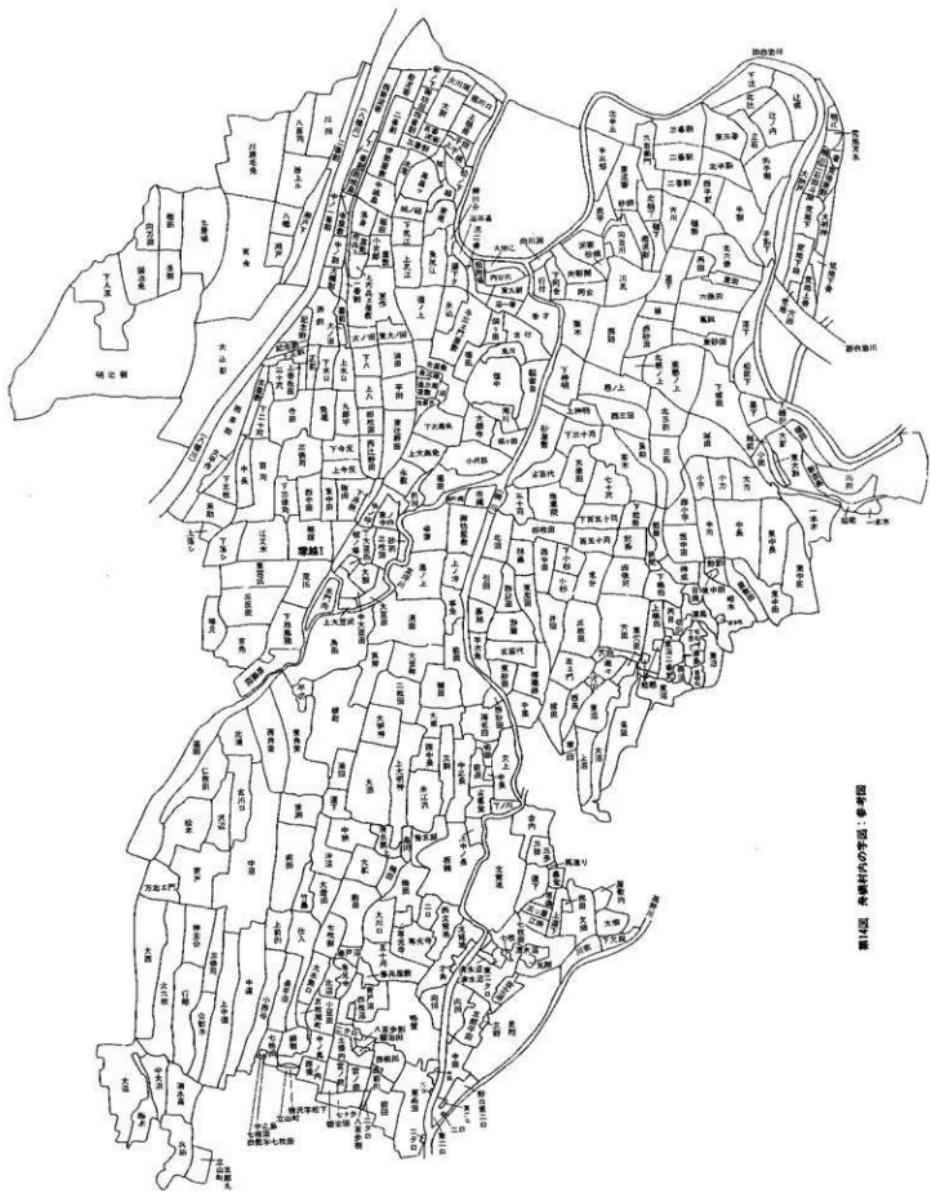
第17図 造構平面図 7 (1/100)



第18図 遺跡と周辺の石仏他位置図 (約1/2,000)

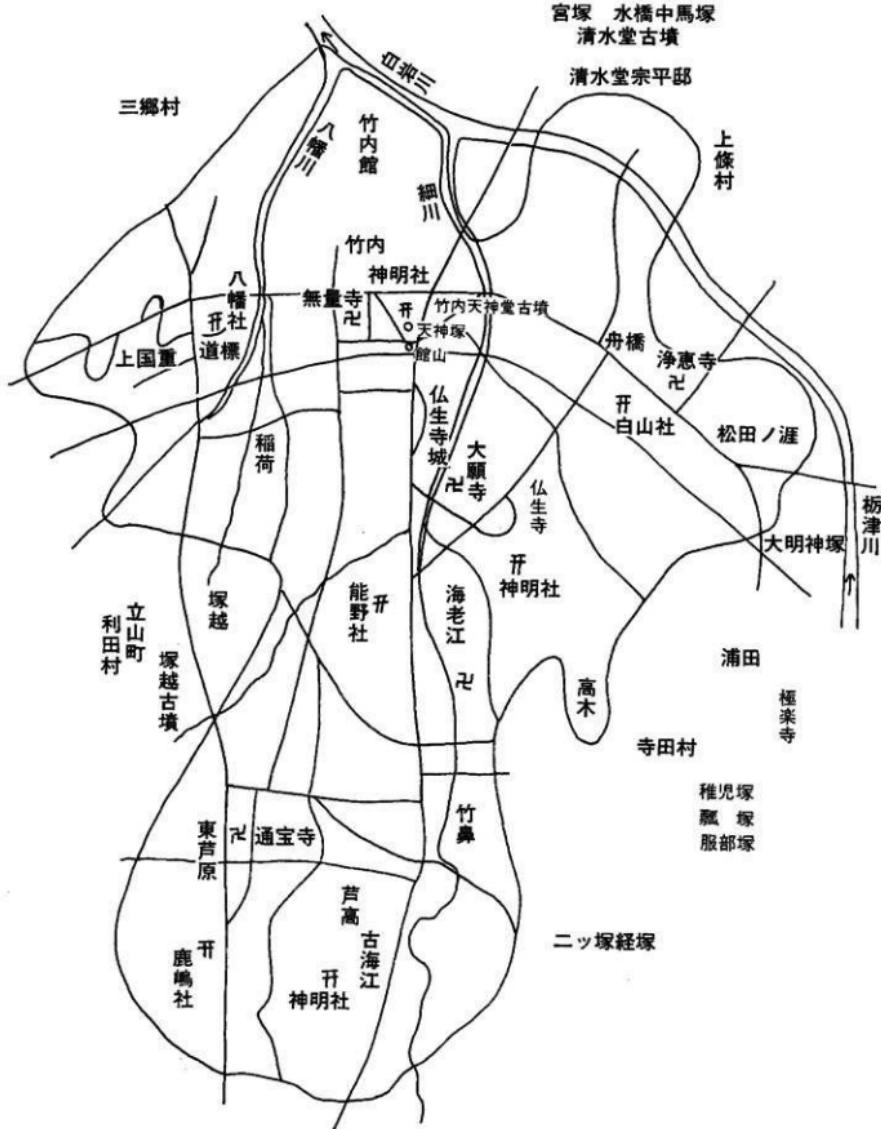


第19図 舟橋村内の主な字名：参考図（城・寺・人名などの付く所と沼の村所）

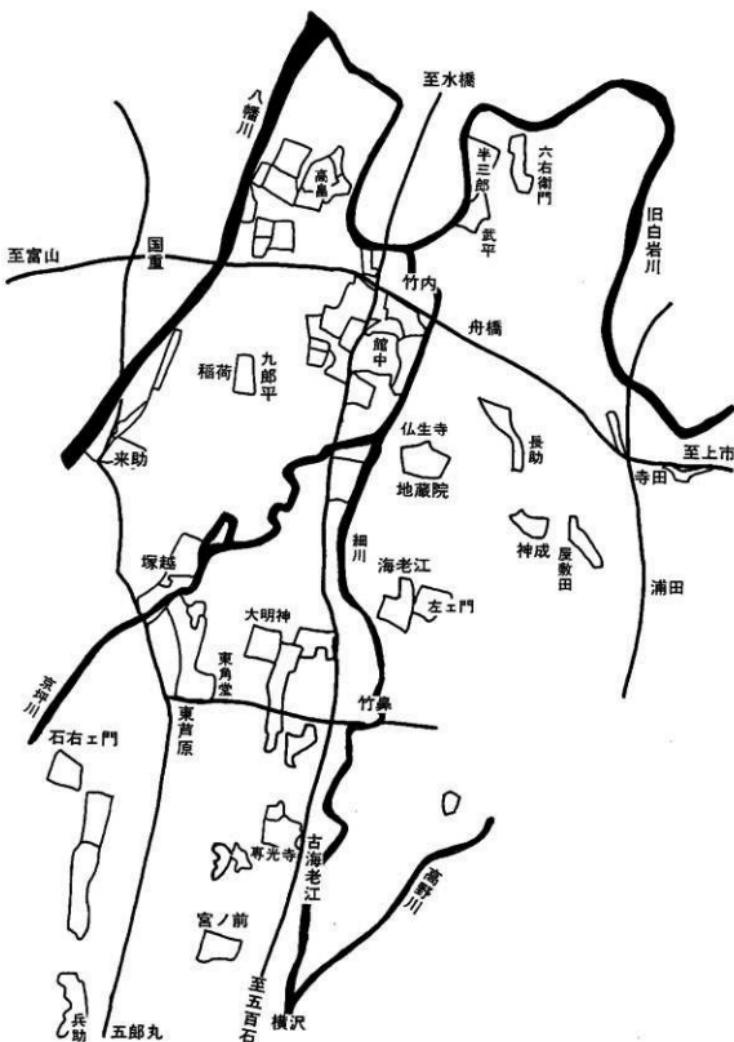


第20図 舟橋村内の字図：参考図

若王子塚
宮塚 水橋中馬塚
清水堂古墳



第21図 参考図 遺跡位置と地名



第22図 参考図 人名他の付く字位置



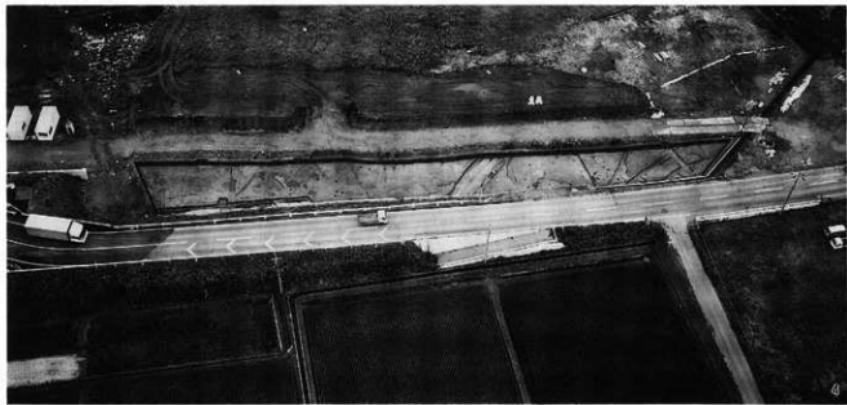
第23図 参考図 竹内館周辺図



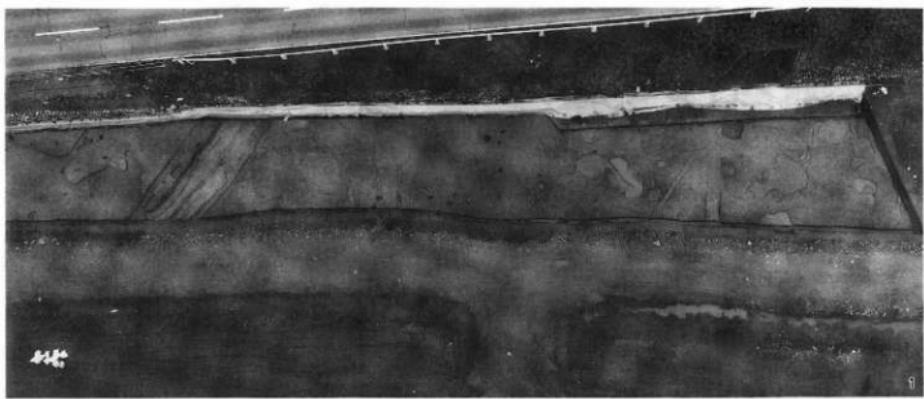
第24図 参考図 伏生寺城周辺字図



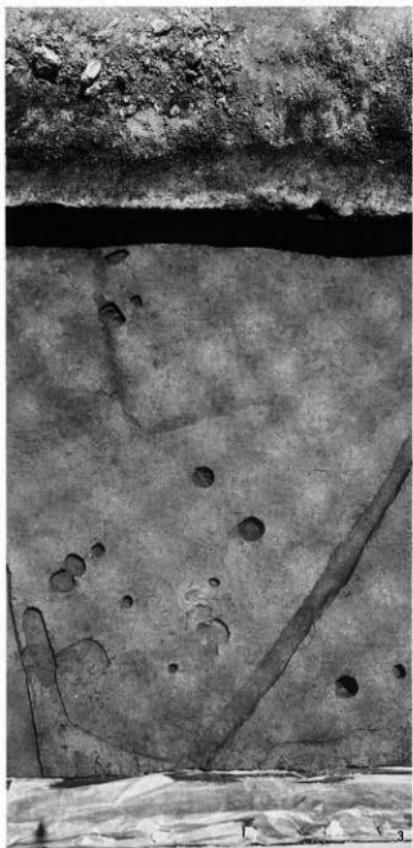
図版 1 1・2道跡遺景(南西より)



図版2 北地区 金城 1. 東より 2. 北より 3. 南より 4. 西より



図版3 北地区 1. 北(東より) 2. 南(東より) 3. 北より 4. 南より



图版 4 北地区 1. SK25 SD24 2. SD24 3. P55~60 4. SK25



8



3



3

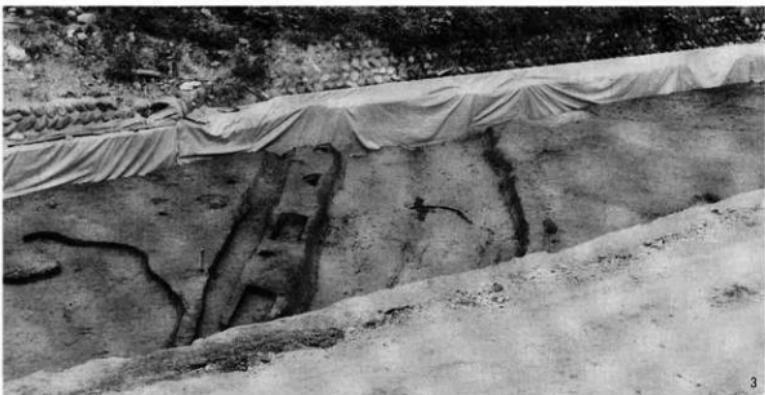
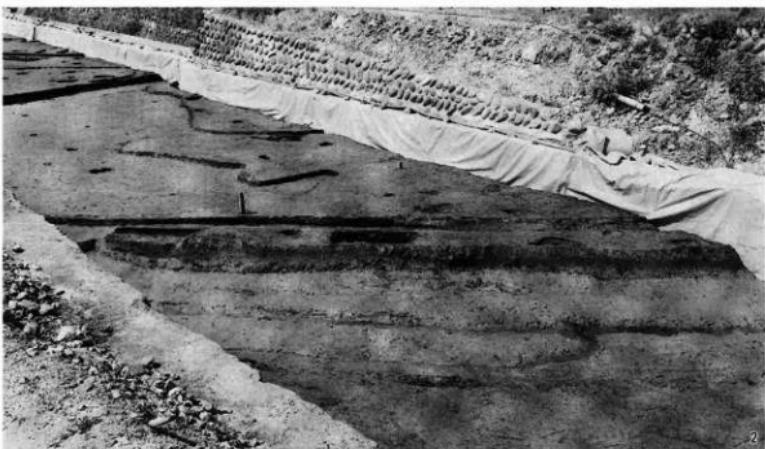


4

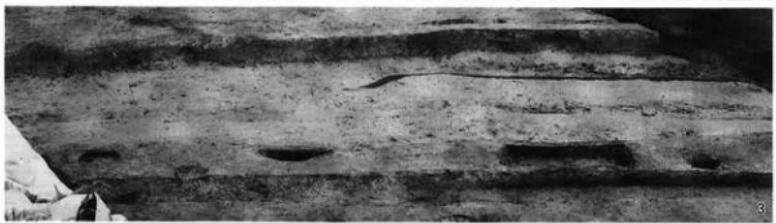
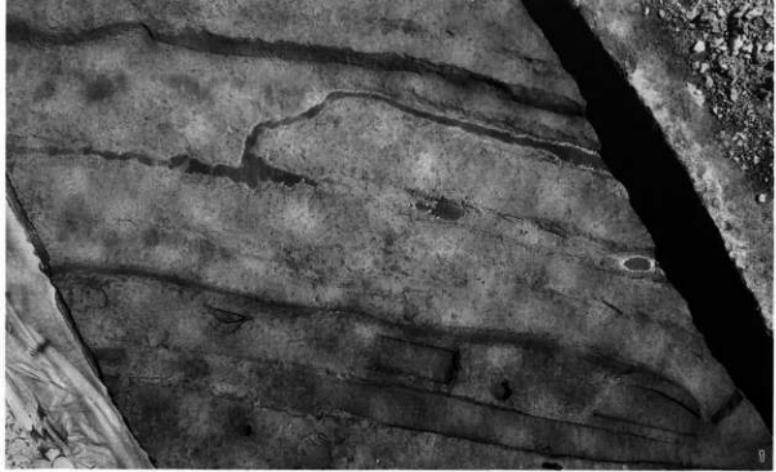


5

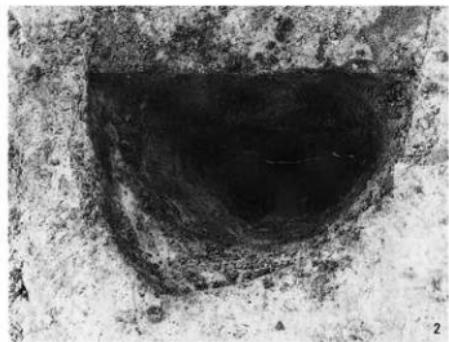
図版 5 北地区 1. SD17~23 2. SD22 3. SP29 4. SD22土層 5. SD23土層



図版6 SD15 1. 上より 2. 北東より 3. 南東より



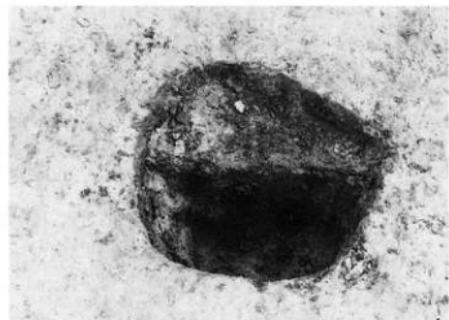
図版7 北地区 SD15 1. 北より 2. 北西より 3. 南西より 4. 土層



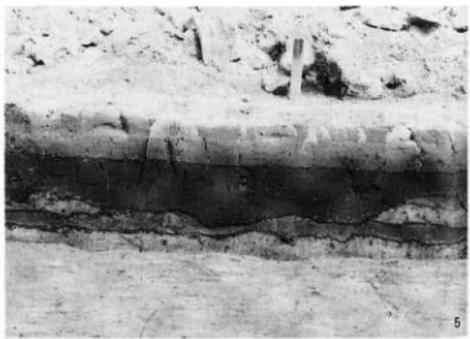
2



3



4

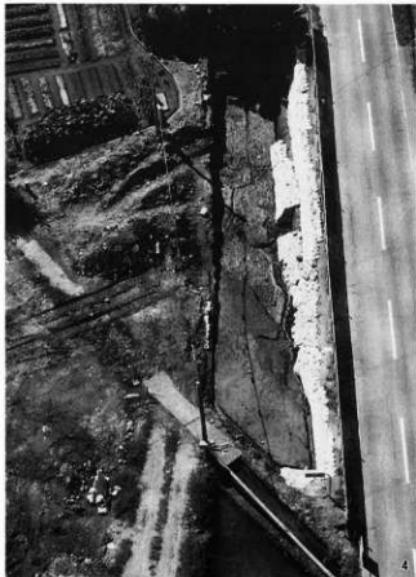
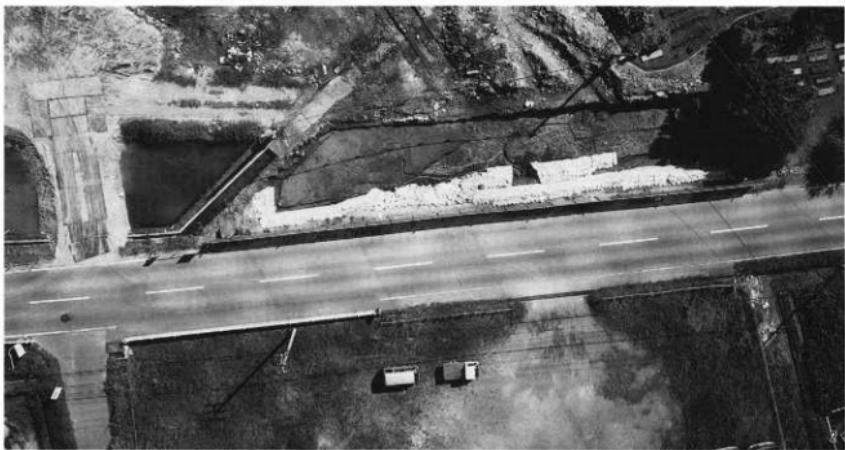


5

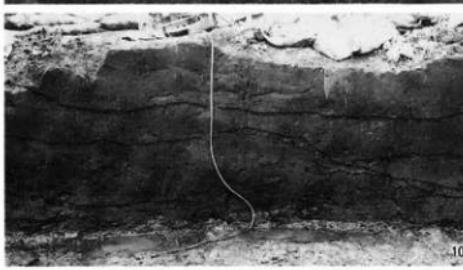
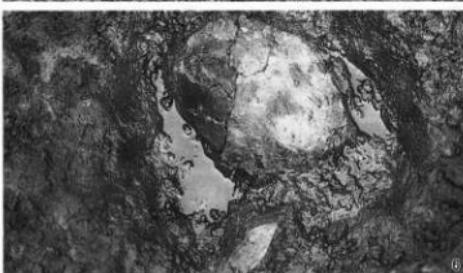
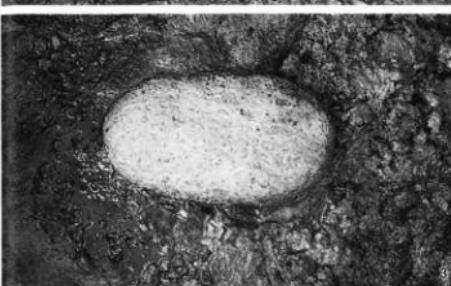
图版 8 北地区 1. 南侧柱穴位 2. P42土层 3. P65土层 4. P41土层 5. X651区东壁上层



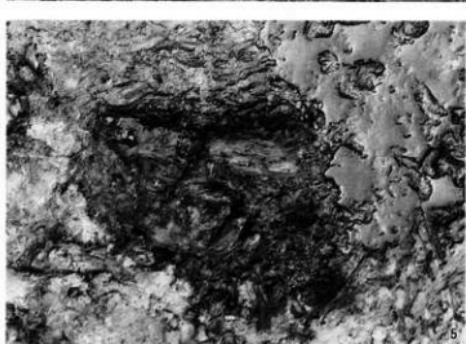
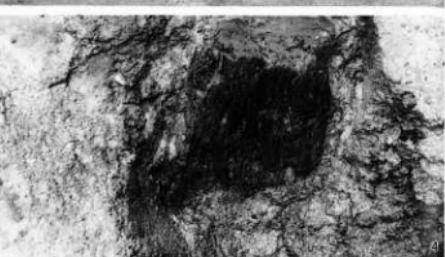
図版9 北地区 1. 北側 2. SD14(西より) 3. SD3(西より) 4. SD13土層 5. SD14土層



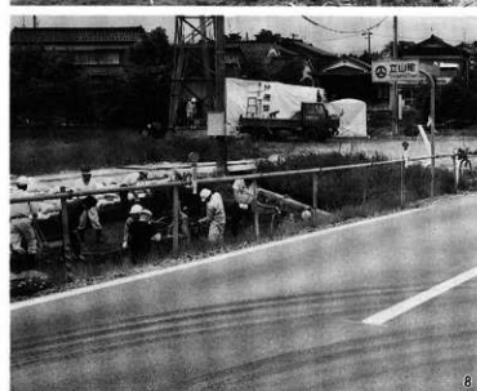
図版10 南地区 全景上より



图版11 南地区 遗物出土状况 1. X38Y25 2. X39Y24 3. X39Y25 4. X40Y25 5. X40Y25 6. X41Y23 7. X43Y24 8. X43Y24 9. X43Y25 10. X36区东壁土层

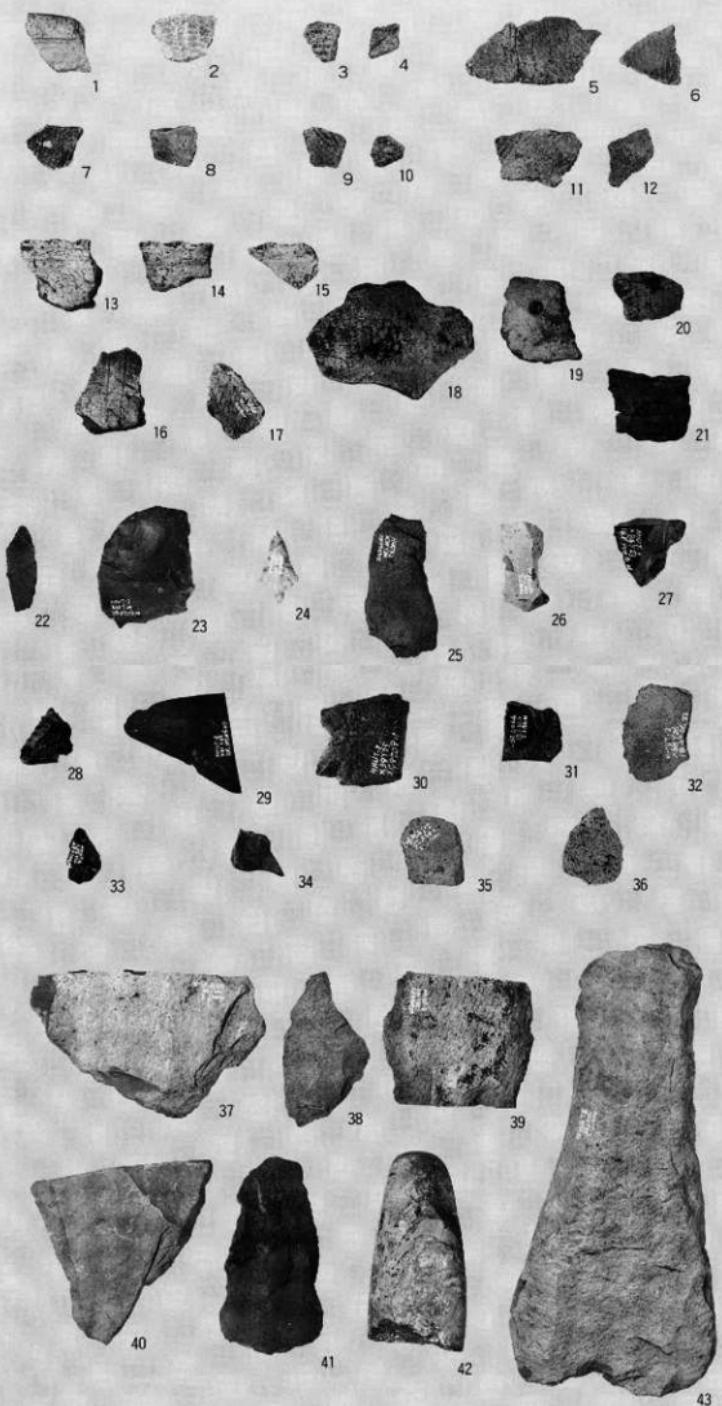


图版12 南地区 植物遗存出土状况 1-2. 木Na1 (SK71) 3-4. 木Na2 (SD69) 5. 木Na3 (X35Y23) 6-7. 木Na4 (SK72) 8. 木Na5 (SD70) 9-10. 木Na6 (SD70)



図版13 作業風景他 1. 研修状況 2~4. 立山町利田小学校見学 5~8. 作業風景

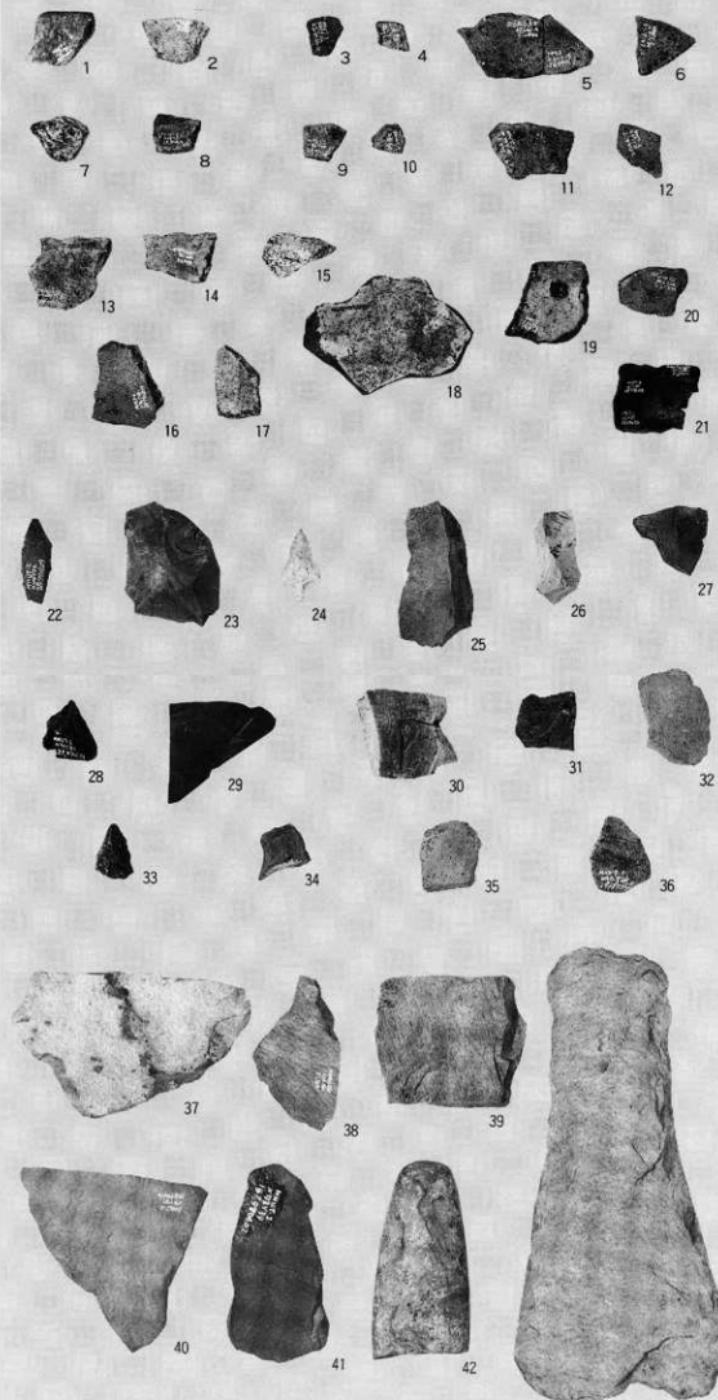
1. X68Y30 2. X89Y33
 3. X69Y28 4. X49Y24
 5. X39Y24 6. X39Y24
 7. X70Y28 8. X49Y61
 9. X38Y24 10. X38Y24
 11. X39Y24 12. X39Y24
 13. X47Y24 14. X42Y24
 15. X44Y24 16. X46Y24
 17. X46Y24 18. X38Y34
 19. X32Y24 20. X46Y24



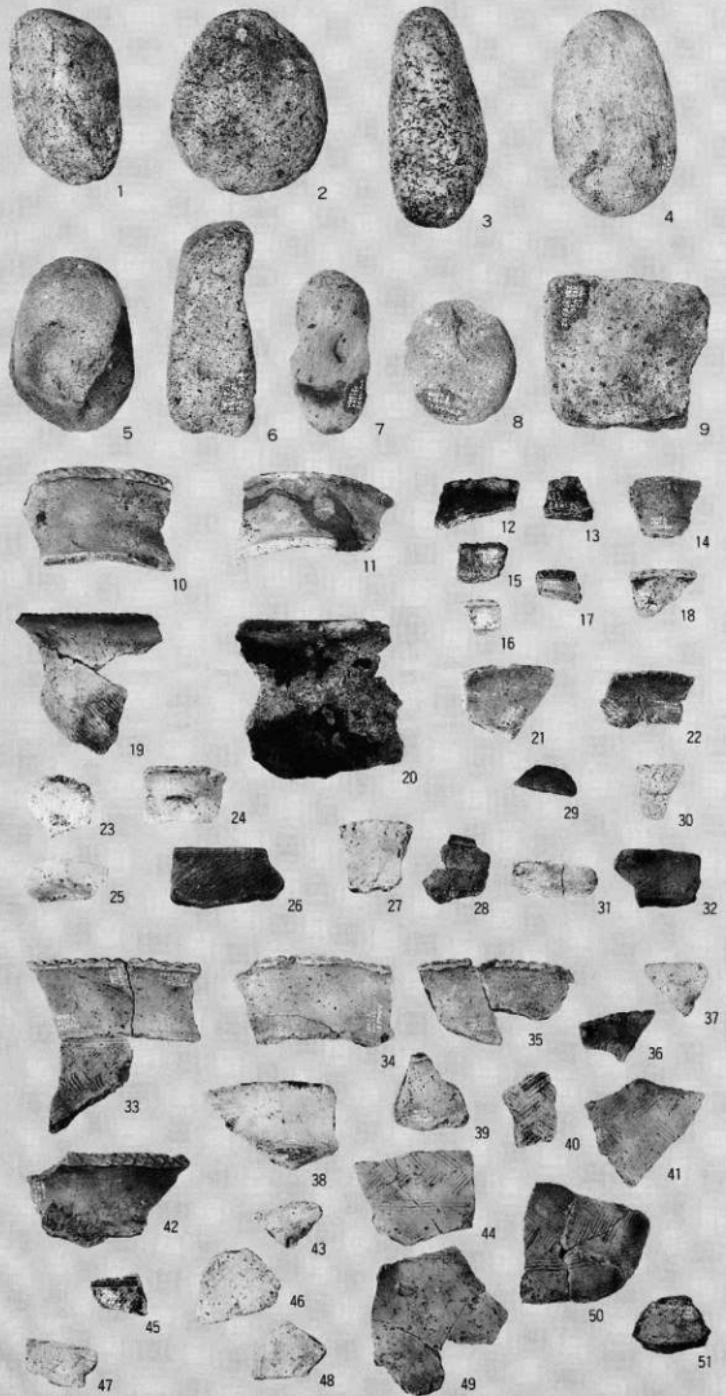
22. X44Y26 23. X45Y24
 24. SD15 25. X39Y24
 26. X41Y25 27. X86Y35
 28. X71Y31 29. X41Y25
 30. X39Y25 31. X90Y35
 32. X58Y26 33. X58Y26
 34. X56Y25 35. X43Y26
 36. X46Y24

37. X44Y24 38. X41Y23
 39. X41Y22 40. X91Y37
 41. X93Y39 42. X40Y25
 43. X43Y75

図版14 1～21縄文時代土器
 22～43先土器・縄文
 弥生時代石器
 (1/2表)



図版15 (1/2表)

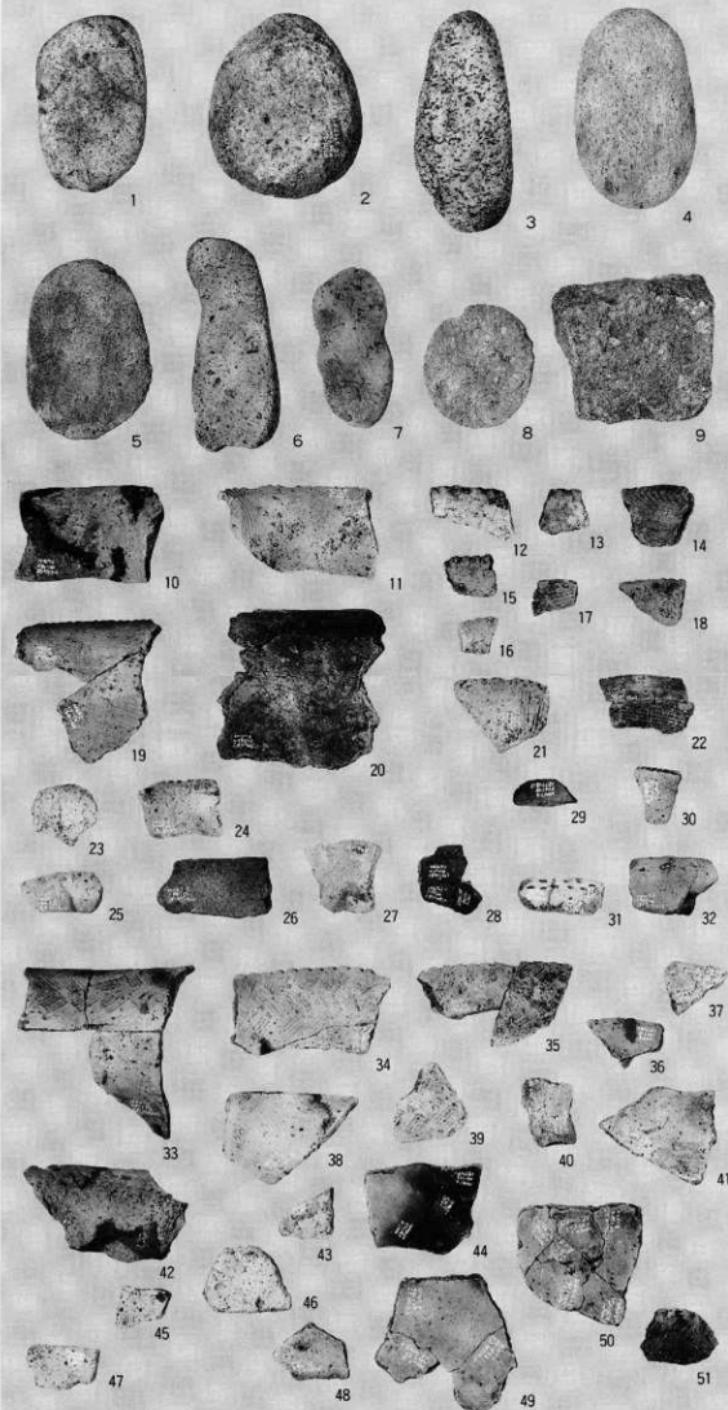


- 1. X39Y24 2. X39Y25
- 3. X36Y25 4. X39Y25
- 5. X36Y25 6. X33Y24
- 7. X45Y25 8. X95Y37
- 9. X62Y25

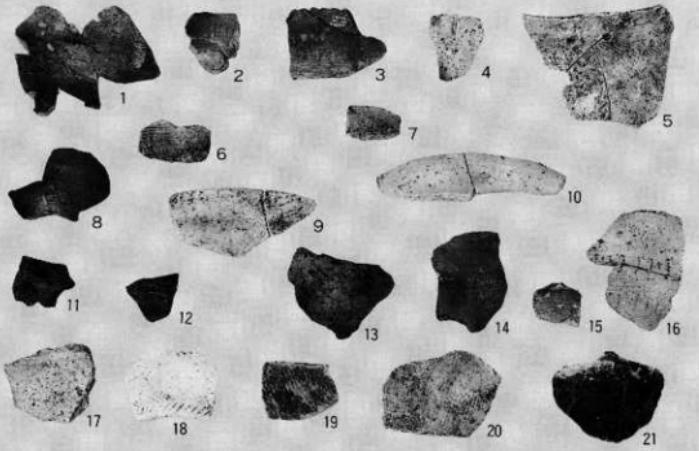
- 10. X44Y24 11. X44Y24
- 12. X44Y24 13. X44Y24
- 14. X43Y25 15. X37Y24
- 16. X43Y25 17. X45Y23
- 18. X42Y24 19. X37Y24
- 20. X38Y25 21. X44Y24
- 22. X47Y24 23. X38Y24
- 24. X44Y24 25. X44Y25
- 26. X38Y25 27. X41Y24
- 28. X39Y26 29. X46Y24
- 30. X41Y24 31. X95Y39
- 32. X34Y24

- 33. X32Y24 34. X40Y25
- 35. X44Y24 36. X44Y24
- 37. X39Y25 38. X39Y25
- 39. X40Y25 40. X40Y28
- 41. X43Y26 42. X42Y25
- 43. X40Y28 44. X41Y23
- 45. X38Y25 46. X38Y25
- 47. X44Y24 48. X40Y25
- 49. X41Y23 50. X39Y24
- 51. X47Y24

図版16 1~9 繩文時代石器
10~51 弥生時代土器
(1/3表)



図版17 (1/3表)



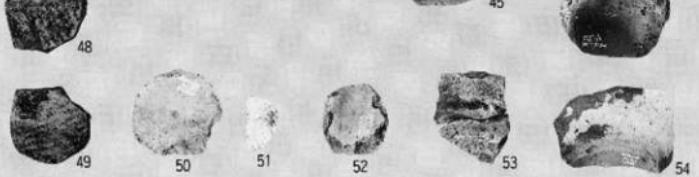
1. X39Y24 2. X41Y25
 3. X41Y25 4. X45Y24
 5. X95Y23 6. X37Y24
 7. X40Y25 8. X39Y24
 9. X45Y23 10. X67Y32
 11. X38Y25 12. X39Y25
 13. X39Y25 14. X39Y25
 15. X39Y26 16. X34Y25
 17. X67Y32 18. X39Y25
 19. X42Y24 20. X38Y24
 21. X44Y24



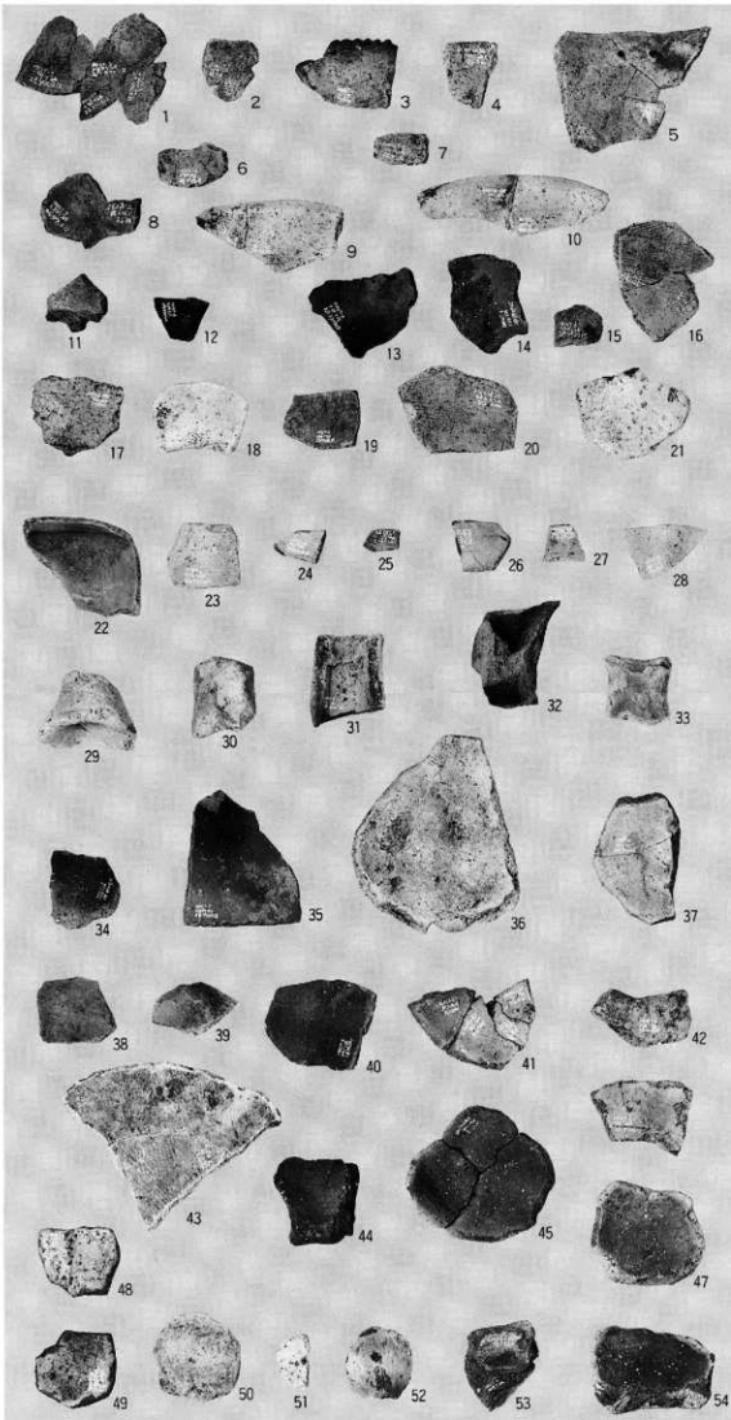
22. X34Y24 23. X96Y24
 24. X67Y32 25. P65
 26. X37Y24 27. X47Y24
 28. X41Y25 29. X42Y24
 30. X90Y38 31. X31Y24
 32. X89Y34 33. X85Y32
 34. X45Y24 35. X39Y25
 36. X43Y24 37. X67Y32



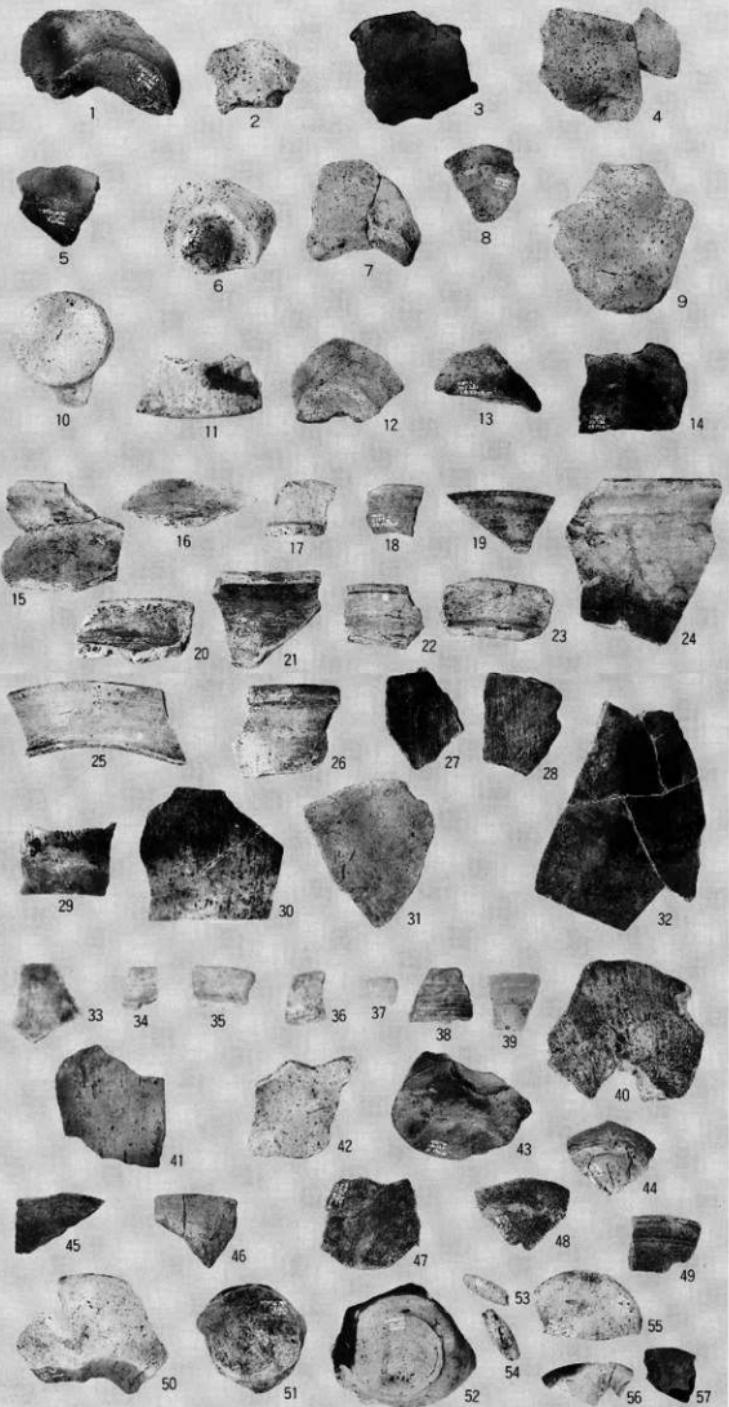
38. X40Y25 39. X42Y24
 40. X41Y23 41. X41Y24
 42. X34Y22 43. X41Y23
 44. X36Y25 45. X41Y24
 46. X38Y24 47. X45Y23
 48. X38Y24 49. X38Y24
 50. X36Y25 51. X45Y24
 52. X38Y24 53. X45Y24
 54. X44Y24



図版18 1~21弥生時代土器
 22~47. 53. 54古墳時代土器
 48~52縄文時代土器



図版19 (1/3裏)

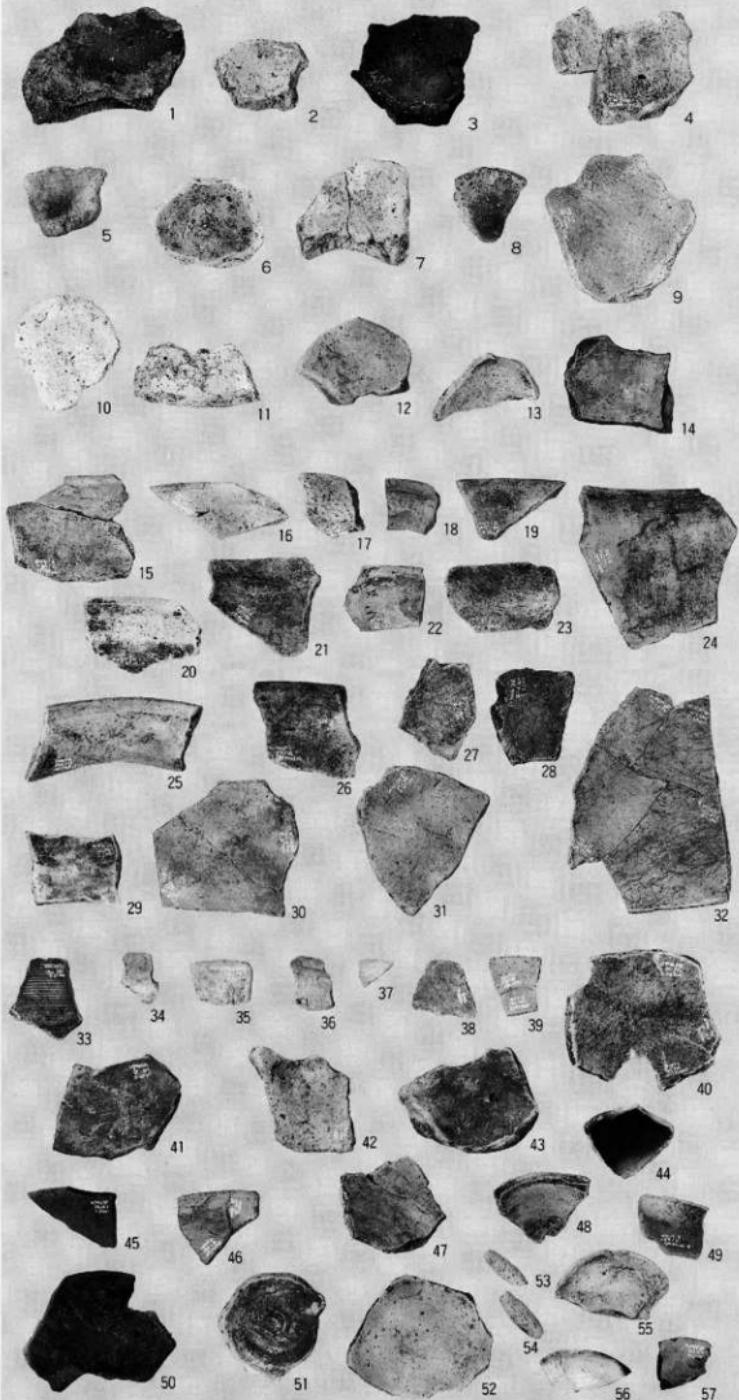


1. X41Y26
 2. X33Y24
 3. X35Y25
 4. X44Y24
 5. X65Y27
 6. X43Y24
 7. X45Y23
 8. X40Y23
 9. X67Y32
 10. X40Y25
 11. X67Y32
 12. X38Y24
 13. X69Y31
 14. X61Y25

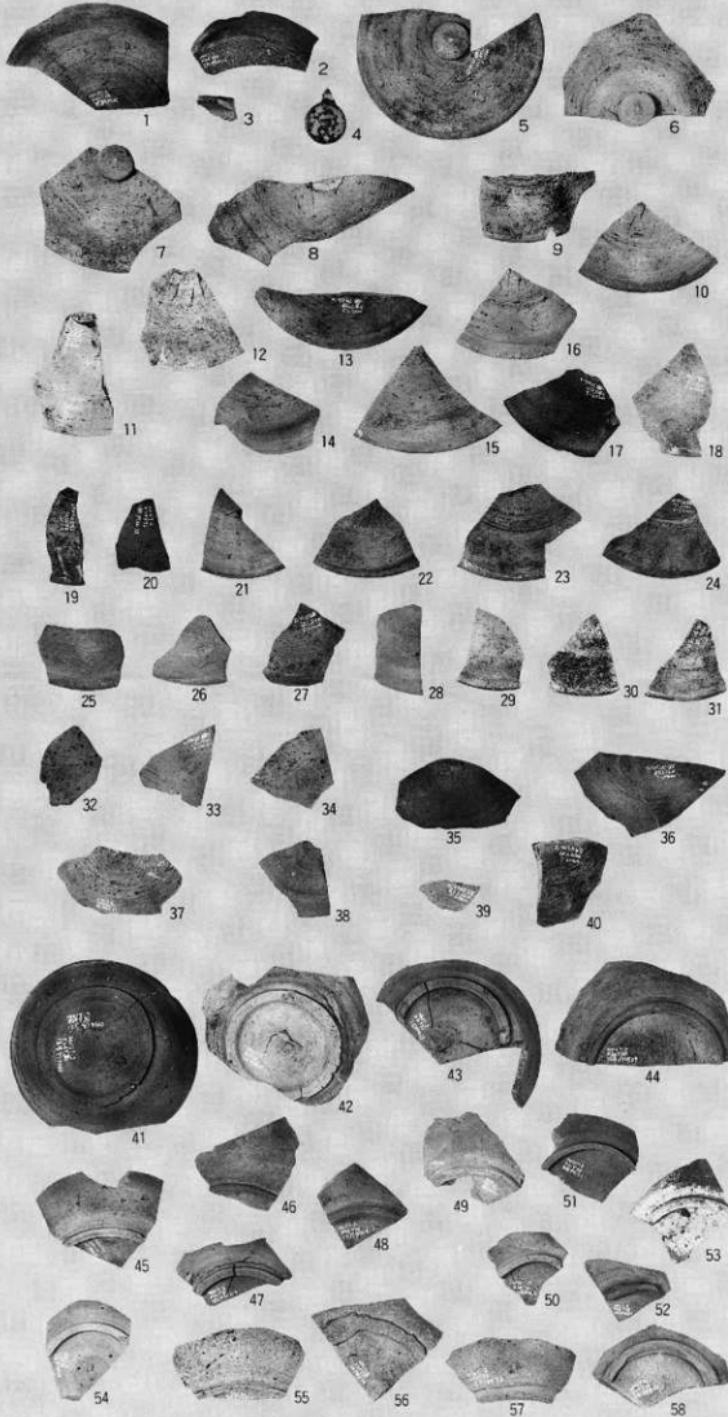
15. X64Y30
 16. X64Y31
 17. X41Y25
 18. X54Y26
 19. X65Y30
 20. X65Y30
 21. X60Y30
 22. X64Y24
 23. X71Y29
 24. X65Y31
 25. X40Y25
 26. X70Y28
 27. X70Y29
 28. X70Y28
 29. X96Y32
 30. X65Y30
 31. X37Y24
 32. X65Y30

33. SD110
 34. SD15
 35. SD15
 36. SD15
 37. SD15
 38. SD15
 39. X32Y24
 40. X65Y25
 41. X69Y28
 42. X41Y23
 43. X70Y29
 44. X62Y27
 45. X69Y31
 46. X44Y24
 47. X68Y30
 48. X70Y28
 49. X89Y31
 50. X65Y30
 51. X96Y32
 52. X32Y24
 53. X45Y24
 54. X45Y23
 55. X46Y24
 56. X67Y32
 57. X35Y25

図版20 1~14古墳時代土器
15~57古代土師器



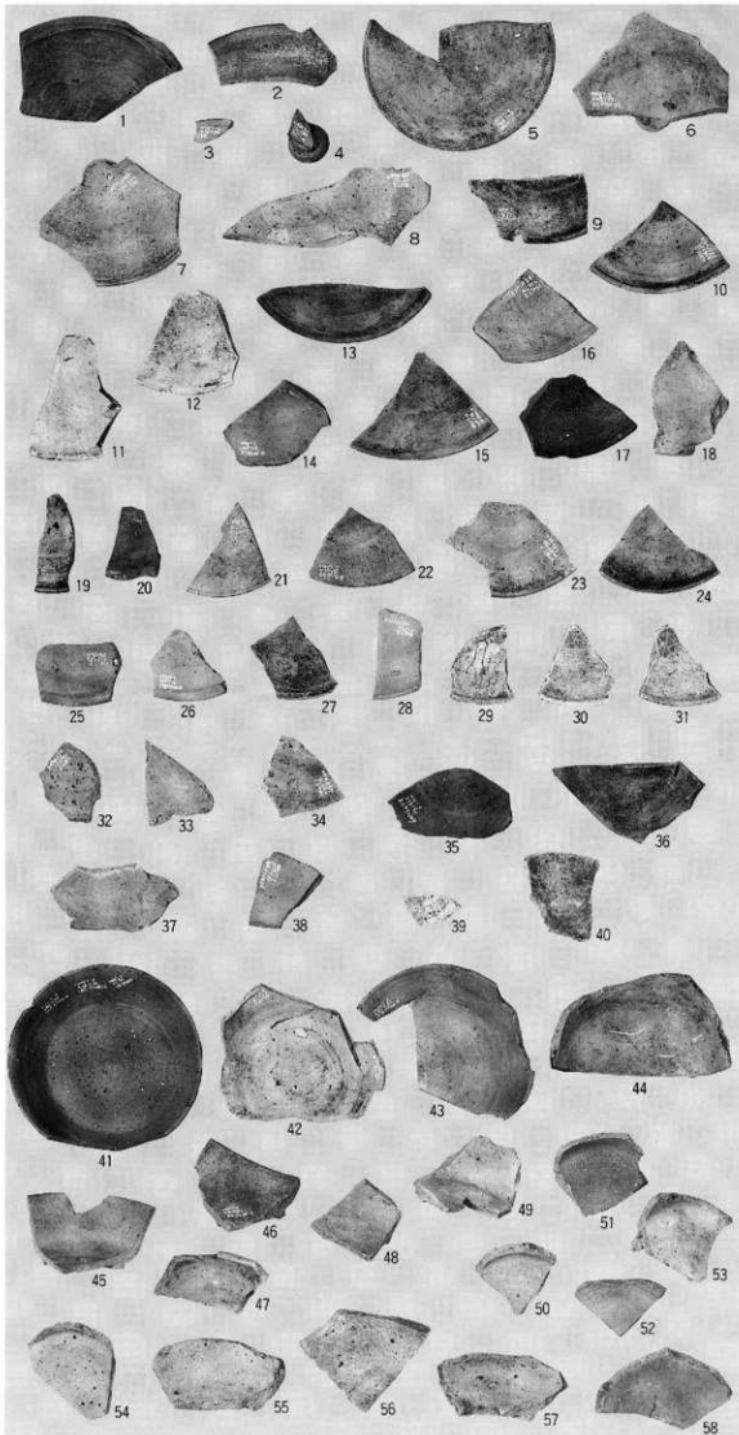
図版21 (1/3葉)



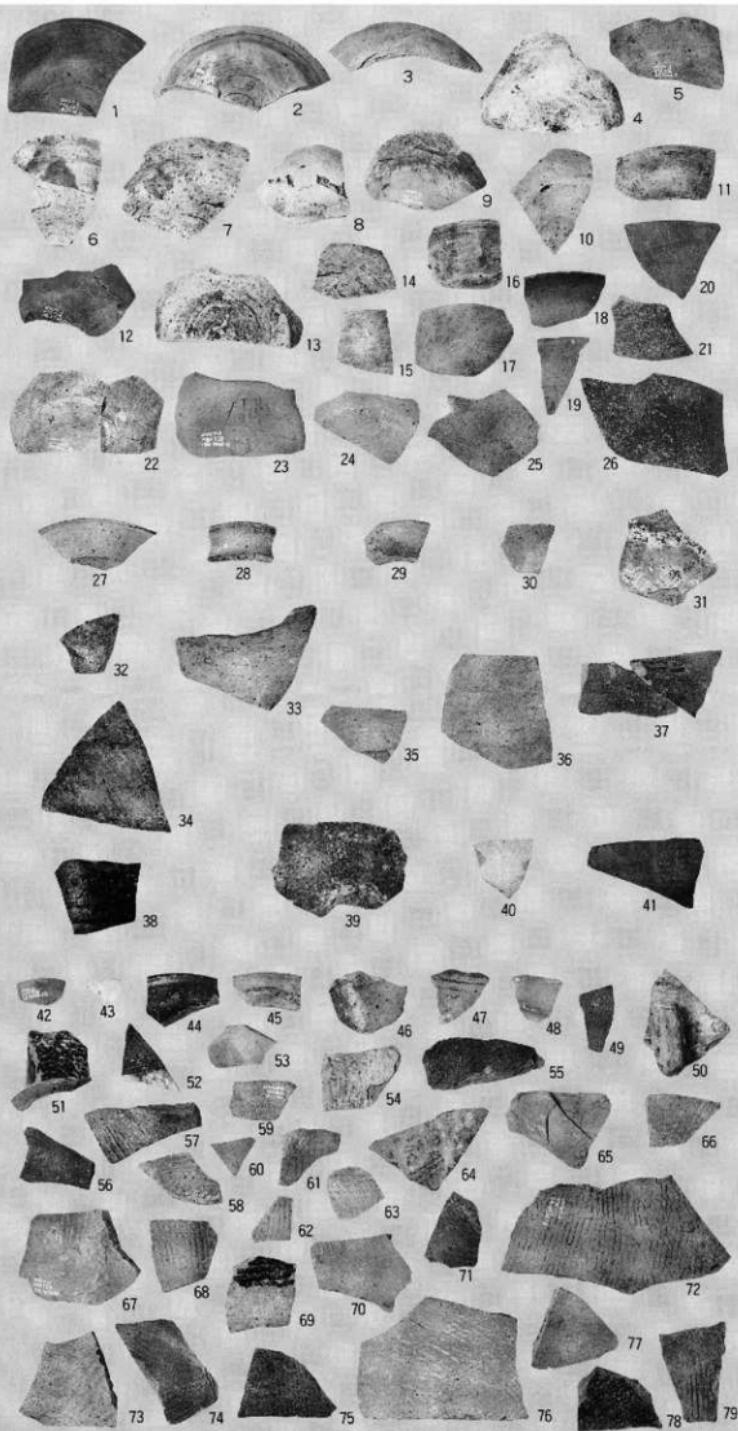
1. X42Y25 2. X68Y30
 3. X74Y34 4. X63Y25
 5. X69Y29 6. X68Y29
 7. X93Y36 8. X71Y29
 9. X40Y25 10. X64Y27
 11. X72Y28 12. X69Y31
 13. X87Y25 14. X69Y28
 15. X69Y28 16. X64Y26
 17. X85Y27 18. X72Y29

19. X66Y55 20. X79Y32
 21. X68Y28 22. X79Y28
 23. X68Y38 24. X69Y29
 25. X93Y38 26. X67Y26
 27. X69Y29 28. X97Y40
 29. X63Y26 30. X66Y25
 31. X66Y25 32. X60Y27
 33. X97Y37 34. X70Y28
 35. X78Y32 36. X71Y28
 37. X72Y50 38. X57Y29
 39. X70Y28 40. X69Y29

41. X64Y30 42. X63Y31
 43. X81Y32 44. X80Y30
 45. X65Y25 46. X80Y31
 47. X80Y30 48. X80Y30
 49. X82Y31 50. X68Y30
 51. X61Y25 52. X82Y28
 53. X70Y32 54. X70Y30
 55. X70Y30 56. X59Y29
 57. X70Y29 58. X44Y24



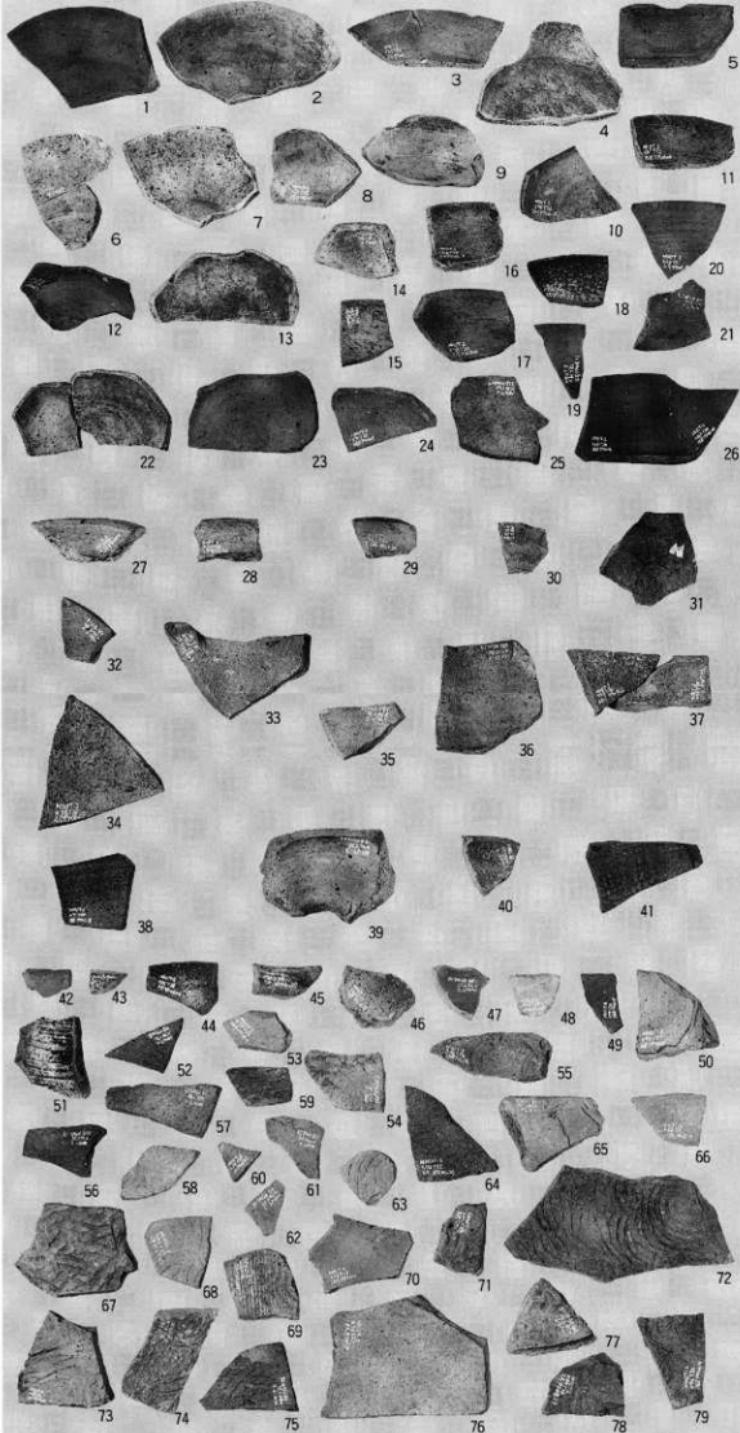
図版23 (1/3裏)



1. X64Y27
 2. X64Y27
 3. X65Y30
 4. X66Y25
 5. X76Y36
 6. X63Y25
 7. X69Y29
 8. X72Y28
 9. X45Y24
 10. X76Y28
 11. X67Y32
 12. X70Y28
 13. X67Y32
 14. X64Y30
 15. X64Y30
 16. X69Y29
 17. X72Y29
 18. X68Y25
 19. X81Y32
 20. X63Y31
 21. X71Y29
 22. X77Y31
 23. X85Y35
 24. X91Y38
 25. X81Y28
 26. X63Y26
 27. X63Y31
 28. X71Y29
 29. X62Y27
 30. SD22
 31. X79Y32
 32. X64Y30
 33. X76Y28
 34. X78Y32
 35. X74Y28
 36. X70Y30
 37. X68Y30
 38. X91Y34
 39. X70Y28
 40. X98Y38
 41. X90Y30

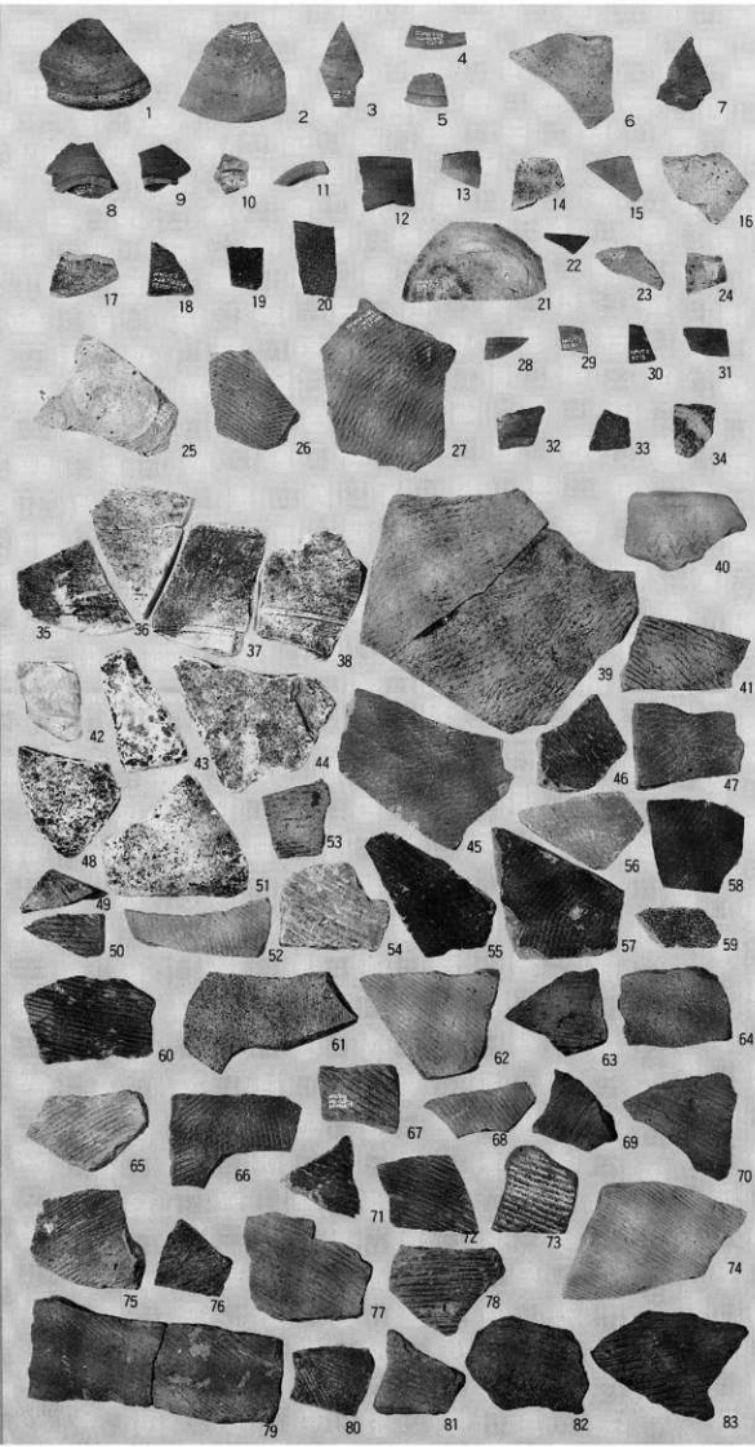
42. X73Y30
 43. X63Y25
 44. X55Y88
 45. X63Y25
 46. X67Y32
 47. X92Y25
 48. X96Y33
 49. X77Y26
 50. X75Y29
 51. X71Y30
 52. X70Y21
 53. X72Y29
 54. X67Y32
 55. X75Y26
 56. X86Y35
 57. X80Y33
 58. X88Y27
 59. X74Y38
 60. X53Y25
 61. X52Y27
 62. X58Y27
 63. X52Y27
 64. X73Y32
 65. X88Y37
 66. X63Y31
 67. X33Y24
 68. X58Y27
 69. X40Y25
 70. X72Y29
 71. X66Y28
 72. X76Y33
 73. X37Y24
 74. X74Y31
 75. X69Y31
 76. X76Y30
 77. X76Y30
 78. X44Y24
 79. X98Y36

图版24 1~79古代须惠器 (1/3)



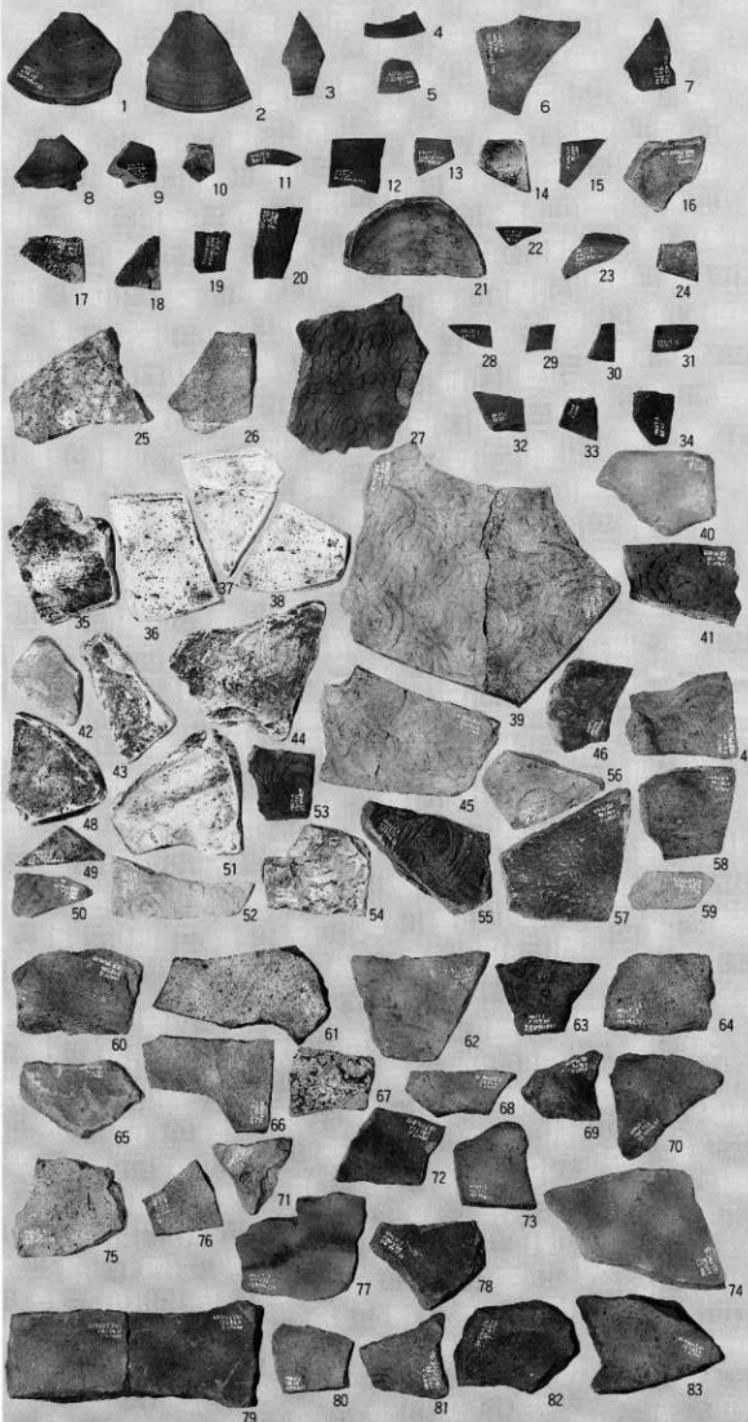
図版25 (1/3葉)

1~9. 11~21. 23. 25~31. SD15
 10. X69Y29
 22. SD10
 24. SD16
 32~34. SD22

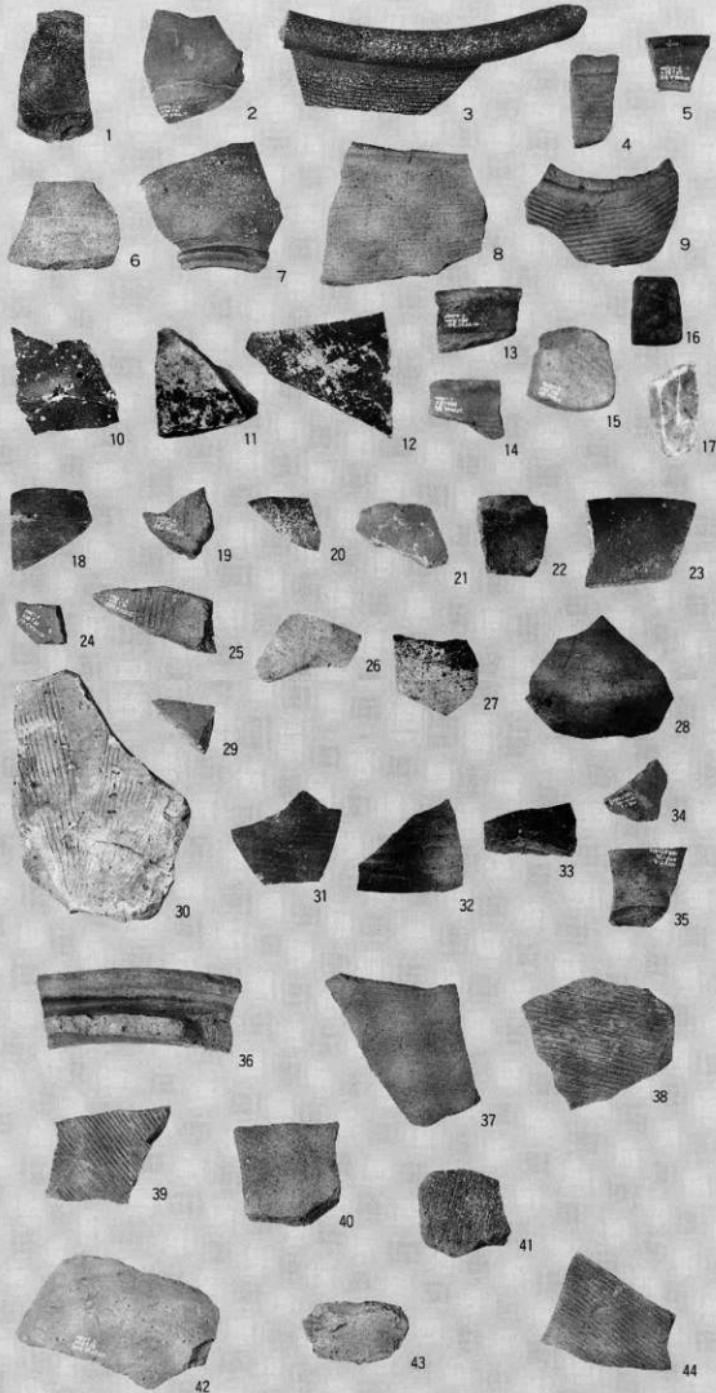


- | | |
|-------------|------------|
| 35. X62Y29 | 36. X70Y28 |
| 37. X70Y28 | 38. X68Y29 |
| 39. X69Y31 | 40. X71Y31 |
| 41. X40Y25 | 42. X84Y33 |
| 43. X110Y29 | 44. X70Y29 |
| 45. X82Y28 | 46. X41Y25 |
| 47. X91Y37 | 48. X70Y28 |
| 49. X78Y28 | 50. X85Y34 |
| 51. X45Y24 | 52. X95Y38 |
| 53. X40Y25 | 54. X94Y25 |
| 55. X75Y26 | 56. X71Y28 |
| 57. X90Y38 | 58. X78Y30 |
| 59. X98Y83 | |
| 60. X92Y34 | 61. X96Y36 |
| 62. X94Y25 | 63. X37Y24 |
| 64. X85Y34 | 65. X82Y28 |
| 66. X31Y24 | 67. X40Y28 |
| 68. X73Y31 | 69. X86Y31 |
| 70. X60Y25 | 71. X44Y25 |
| 72. X86Y32 | 73. X91Y35 |
| 74. X69Y31 | 75. X86Y36 |
| 76. X89Y29 | 77. X91Y35 |
| 78. X89Y36 | 79. X98Y35 |
| 80. X86Y31 | 81. X98Y39 |
| 82. X55Y26 | 83. X88Y25 |

図版26 1~59古代須恵器
 60~83中世珠洲 (1/3表)



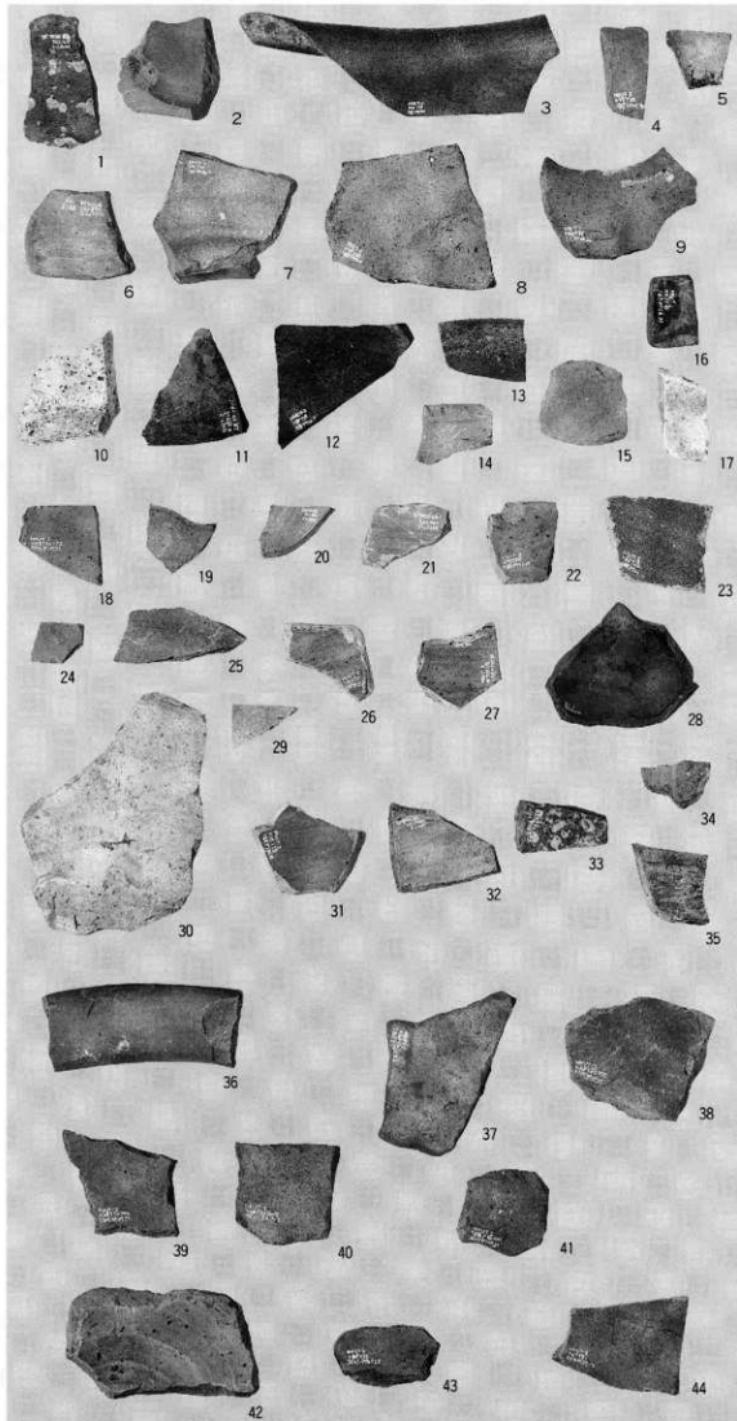
図版27 (1/3裏)



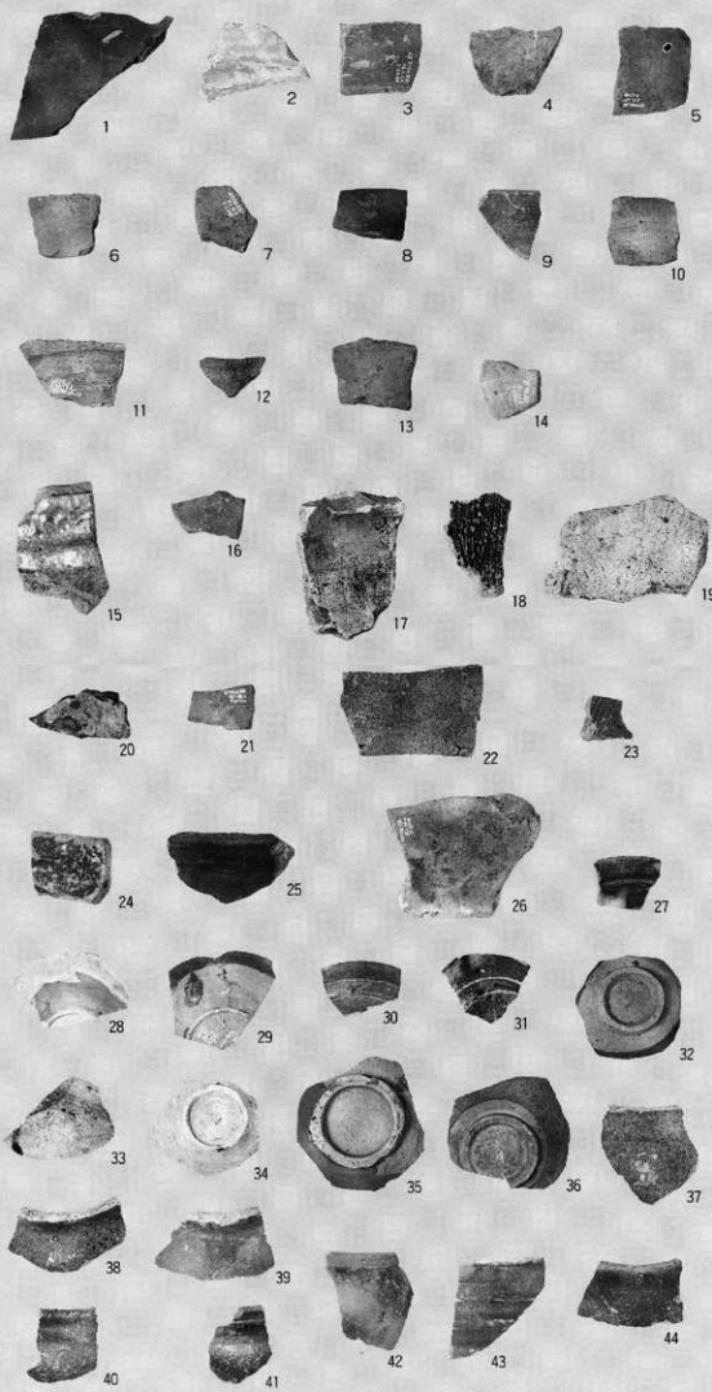
- | | |
|-------------|------------|
| 1. X71Y32 | 2. X74Y30 |
| 3. X45Y24 | 4. X55Y26 |
| 5. X58Y27 | 6. SD15 |
| 7. X91Y36 | 8. X99Y38 |
| 9. X86Y35 | 10. X32Y25 |
| 11. X39Y25 | 12. X87Y29 |
| 13. X98Y34 | 14. X89Y33 |
| 15. X65Y30 | 16. X97Y36 |
| 17. X69Y29 | |
| 18. SD15 | 19. SD3 |
| 20. X40Y25 | 21. X96Y35 |
| 22. X75Y29 | 23. X85Y27 |
| 24. SD15 | 25. SD15 |
| 26. X66Y27 | 27. X78Y28 |
| 28. X80Y28 | 29. SD15 |
| 30. SD15 | 31. X85Y28 |
| 32. X42Y24 | 33. SD15 |
| 34. X100Y40 | 35. X98Y36 |

36~43. SD15
44. SD16

圖版28 1~28, 30~44中世珠
29中世越前 (1/3表)



図版29 (1/3表)

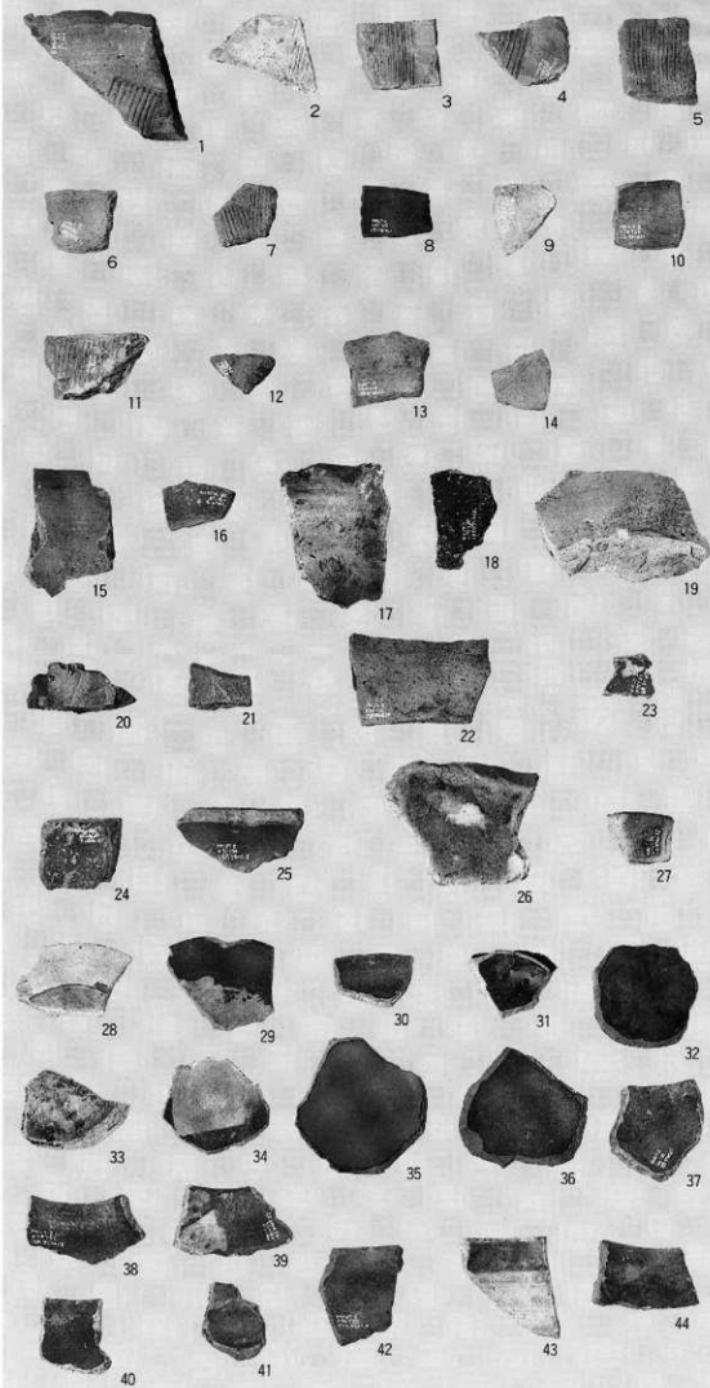


1. X70Y30 2. X73Y31
 3. X71Y30 4. X58Y25
 5. X67Y29 6. X99Y36
 7. X75Y31 8. X42Y24
 9. X59Y26 10. X58Y29
 11. X88Y25 12. X37Y24
 13. X69Y29 14. X73Y32

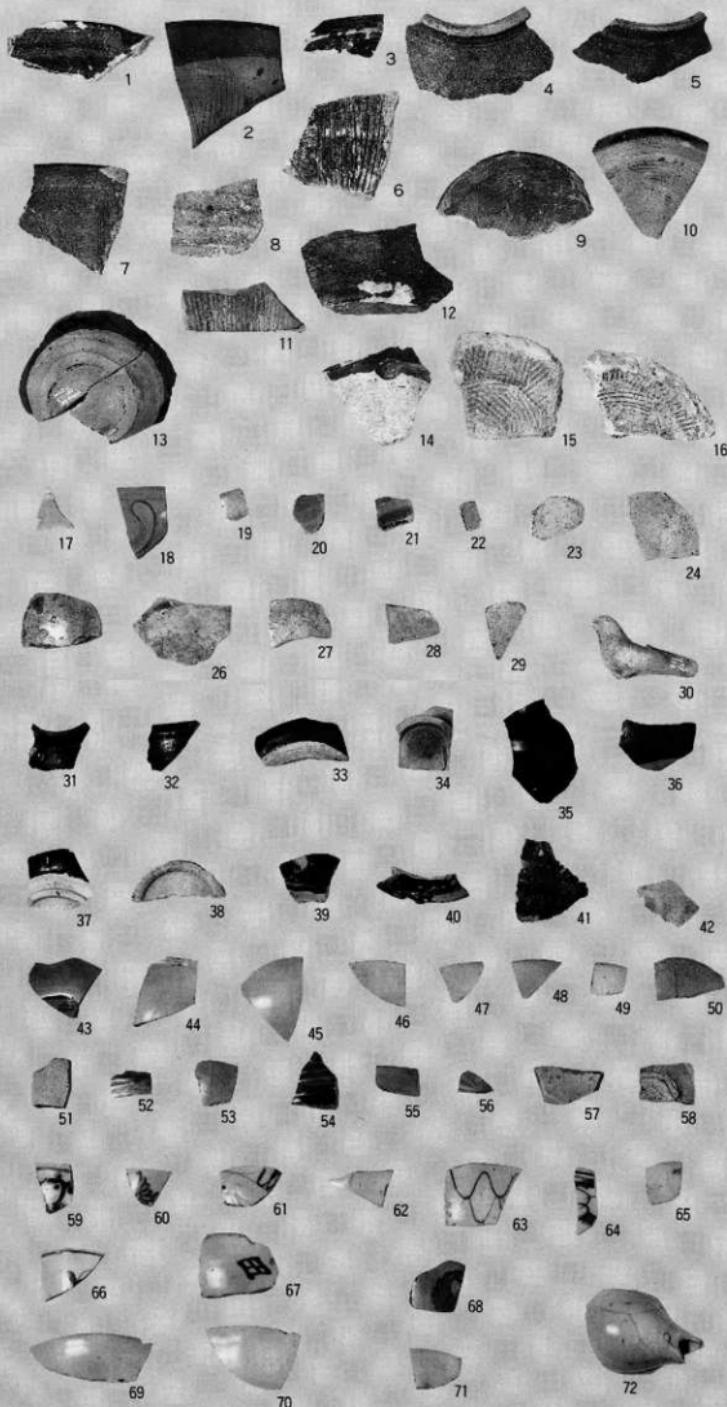
15. X93Y36 16. X70Y28
 17. 表様 18. X99Y38
 19. X33Y79 20. X44Y24
 21. X83Y33 22. X45Y24
 23. X71Y31 24. X90Y39
 25. X91Y34 26. X99Y38
 27. X70Y29

28. X86Y29 29. X72Y30
 30. X99Y40 31. X88Y31
 32. X91Y37 33. X92Y38
 34. X99Y40 35. X94Y36
 36. X86Y34 37. X60Y30
 38. X29Y32 39. X85Y32
 40. X91Y35 41. X51Y40
 42. X90Y35 43. X73Y29
 44. X97Y37

図版30 1～27中世珠洲
28～44近世陶器 (1/3版)



図版31 (1/3裏)

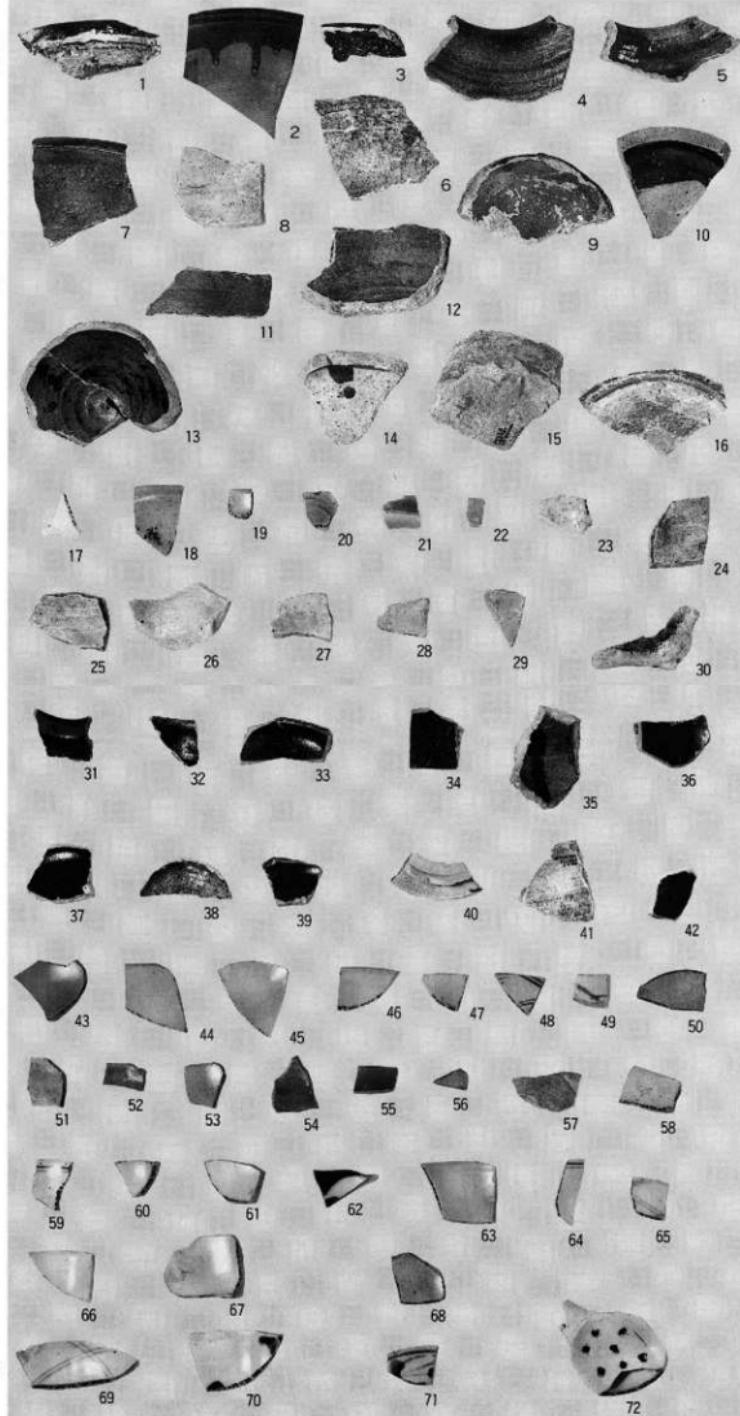


- | | |
|------------|------------|
| 1. X74Y29 | 2. X90Y25 |
| 3. X91Y37 | 4. X71Y32 |
| 5. X91Y35 | 6. X76Y28 |
| 7. X70Y39 | 8. X98Y39 |
| 9. X91Y30 | 10. X94Y36 |
| 11. X54Y26 | 12. X90Y38 |
| 13. X90Y39 | 14. X44Y29 |
| 15. X58Y30 | 16. X83Y32 |

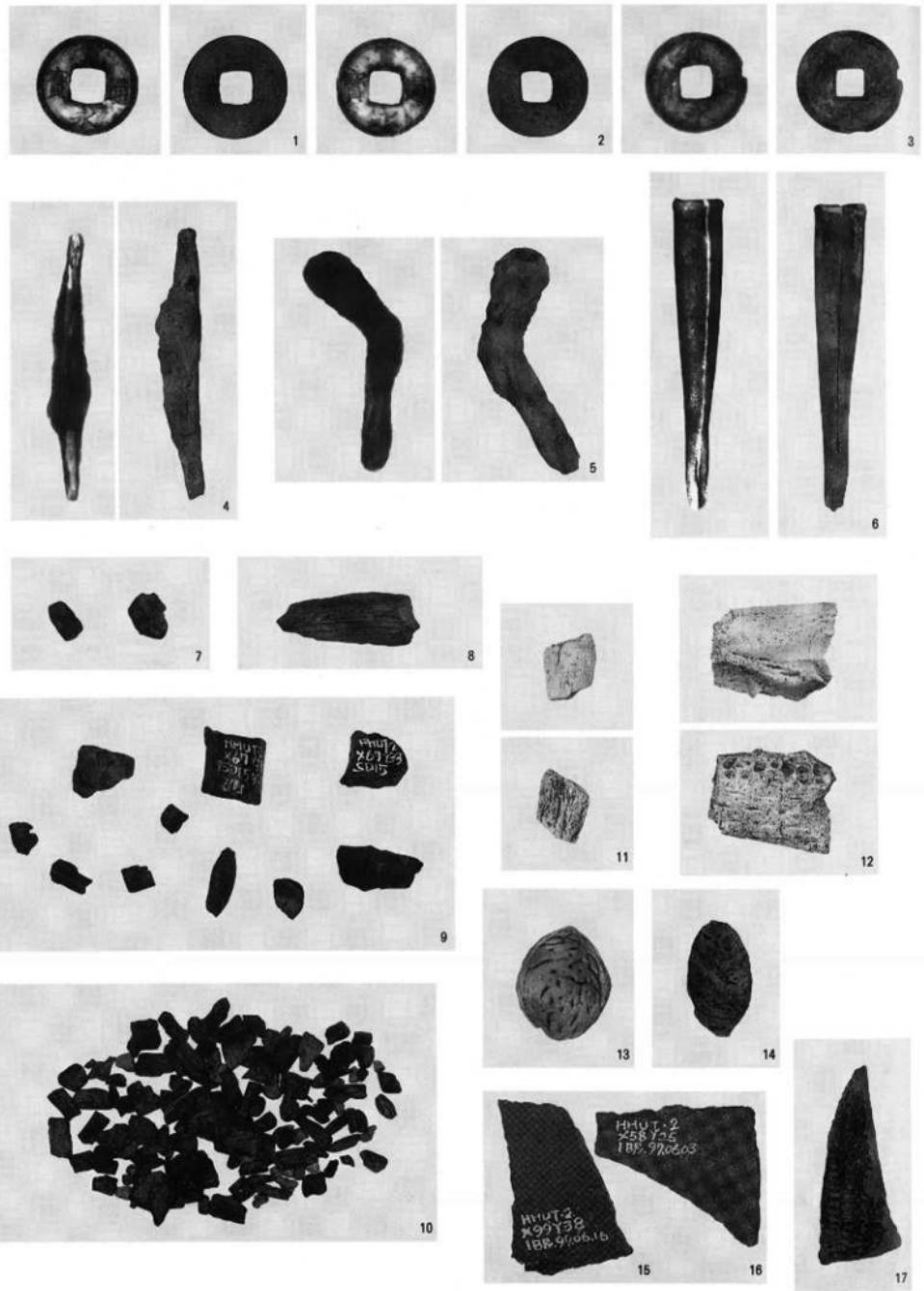
- | | |
|------------|------------|
| 17. X62Y25 | 18. X90Y33 |
| 19. X88Y74 | 20. X83Y38 |
| 21. X58Y23 | 22. X60Y26 |
| 23. X96Y32 | 24. X86Y32 |
| 25. X65Y30 | 26. X98Y39 |
| 27. X76Y30 | 28. X63Y25 |
| 29. X40Y25 | 30. X60Y28 |
| 31. X48Y36 | 32. X74Y34 |
| 33. X97Y33 | 34. X63Y26 |
| 35. X34Y23 | 36. X69Y30 |
| 37. X63Y30 | 38. X98Y37 |
| 39. X63Y28 | 40. X84Y31 |
| 41. X86Y35 | 42. X94Y37 |

- | | |
|------------|------------|
| 43. X99Y39 | 44. X90Y38 |
| 45. X79Y29 | 46. X99Y37 |
| 47. X67Y27 | 48. X65Y26 |
| 49. X70Y29 | 50. X57Y29 |
| 51. X57Y26 | 52. X83Y30 |
| 53. X59Y26 | 54. X63Y25 |
| 55. X83Y30 | 56. X91Y93 |
| 57. X98Y38 | 58. X37Y24 |
| 59. X76Y33 | 60. X61Y31 |
| 61. X58Y24 | 62. X74Y29 |
| 63. X76Y28 | 64. X73Y32 |
| 65. X97Y34 | 66. X98Y39 |
| 67. X87Y36 | 68. X86Y34 |
| 69. X75Y31 | 70. X93Y33 |
| 71. X97Y34 | 72. X70Y28 |

図版32 1~80近世陶器 (1/3表)



図版33 (1/3裏)



图版34 出土遗物 1~6金属遗品 7~10块 11、12骨 13、14种子 15~17胎生分析资料(1/1) 1~3宽永通宝 1、X56Y27 2、X58Y26 3、X67Y28
 4、5打 4、X95Y37 5、X62Y25 6、キセルX82Y34 7~10炭化物 7、SK5 8、X71Y29 9、SD15 10、SK65 11、12骨 11、SD15
 12、X79Y30 13、14麦子 13、X59Y29 14、SD22 15~17分析资料 15、越前窑X79Y38 16、珠洲窑X58Y25 17、須恵窑X97Y33



図版35 参考写真 調査区全体



図版36 参考写真 基地地区全体

報告書抄録

ふりがな	ふなはしむらまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ しゅようちはうどうたてやまみずはせんどうろかいりょうじぎょうにともなうはくつちょうさほうこくしょ とやまけんふなはしむら うらたいせき はくつちょうさほうこくしょ						
書名	舟橋村埋蔵文化財調査報告書2 主要地方道立山水橋線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 富山県舟橋村 浦田遺跡 発掘調査報告書						
著者名	橋本正春 斎藤 降						
編集機関	富山県埋蔵文化財センター						
所在地	富山市茶屋町206-3						
発行年月日	1998年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
浦 田	富山県中新川郡 舟橋村舟橋	16321	321005	36° 42' 1"	137° 19' 11"	1997年 4月20日～ 10月2日	1,200 m ² 県道改良
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物			
浦 田	集 落	先土器・繩文・弥生・古墳・ 古代・中世・近世	溝 土坑	天王山式土器 トネリコ・トチ・カヤツリグサ			

舟橋村埋蔵文化財調査報告書2
主要地方道立山水橋線道路改良事業に
伴う発掘調査報告書
富山県舟橋村
浦田遺跡 発掘調査報告書

発行日 平成10年3月

編集 富山県埋蔵文化財センター

印刷 日興印刷株式会社

